高松市埋蔵文化財調査報告 第68集

都市計画道路福岡三谷線街路事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第二冊

宗高坊城遺跡

２００４年３月

高松市教育委員会

例言

1．本書は，都市計画道路福岡三谷線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第２冊目で，高松市林町に所在する宗高坊城遺跡の調査報告を収録した。
2．発掘調査及び整理作業については，高松市教育委員会が実施した。
3．発掘調査から報告書刊行に至るまで，下記の関係機関の助言と協力を得た。記して謝意としたい。
香川県教育委員会 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 讃岐文化遺産研究会
4．宗高坊城遺跡の調査は，平成10・11年度に文化振興課 文化財専門員 山元敏裕，小川賢が行い，整理作業も同２名が行った。
5．報告書掲載の遺物写真撮影は，杉本和樹氏（西大寺フォト）に委託した。
6．第４章 第２節　宗高坊城遺跡出土土器の胎土分析について白石純氏（岡山理科大学）に委託した。
7．第４章 第１節　高松市宗高坊城遺跡より出土した赤色顔料付着遺物の蛍光X線分析を魚島純一氏（徳島県立博物館）に依頼し，玉稿を頂いた。
8．本書の第３章第７節・第５章第２節の執筆を山元が，それ以外の執筆は小川が行い，編集は山元・小川が行った。
9．本文の挿図として，国土地理院発行２万５千分の１地形図「高松南部」及び高松市都市計画図２千五百分の１「林」を一部改変して使用した。
10．発掘調査で得られたすべての資料は，高松市教育委員会で保管している。
11．本報告書の高度値は海抜高を表し，方位は座標北を表す。
12．本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
SB：掘立柱建物 SK：土坑 SE：井戸 SD：溝 ST：墓 SR：旧河道 SX：不明遺構
13．土壌及び土器観察の色調表現は，新版 標準土色帖（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修）による。

目　次

例言・目次 …… 1
第１章 調査の経緯と経過
第１節　調査の経緯 …… 2
第２節　調査の経過 …… 2
第２章 地理的・歴史的環境
第１節　地理的環境 …… 3
第２節　歴史的環境 …… 3
第３章 調査の成果
第１節　調査区の設定と遺構番号 …… 12
第２節　遺跡の概要と基本層序 …… 12
第３節　Ⅰ・Ⅱ区 …… 13
第４節　Ⅴ・Ⅵ区 …… 30
第５節　Ⅲ区 …… 33
第６節　Ⅳ区 …… 35
第７節　Ⅶ区 …… 37
第４章 自然科学的分析・胎土分析
第１節　高松市宗高坊城遺跡より出土した赤色顔料付着遺物の蛍光X線分析について … 42
第２節　宗高坊城遺跡出土土器の胎土分析について …… 43
第５章 まとめ
第１節　遺構の変遷について …… 51
第２節　出土弥生土器について …… 51
宗高坊城遺跡出土遺物観察表 …… 52
写真図版

第１章 調査の経緯と経過

第１節 調査の経緯

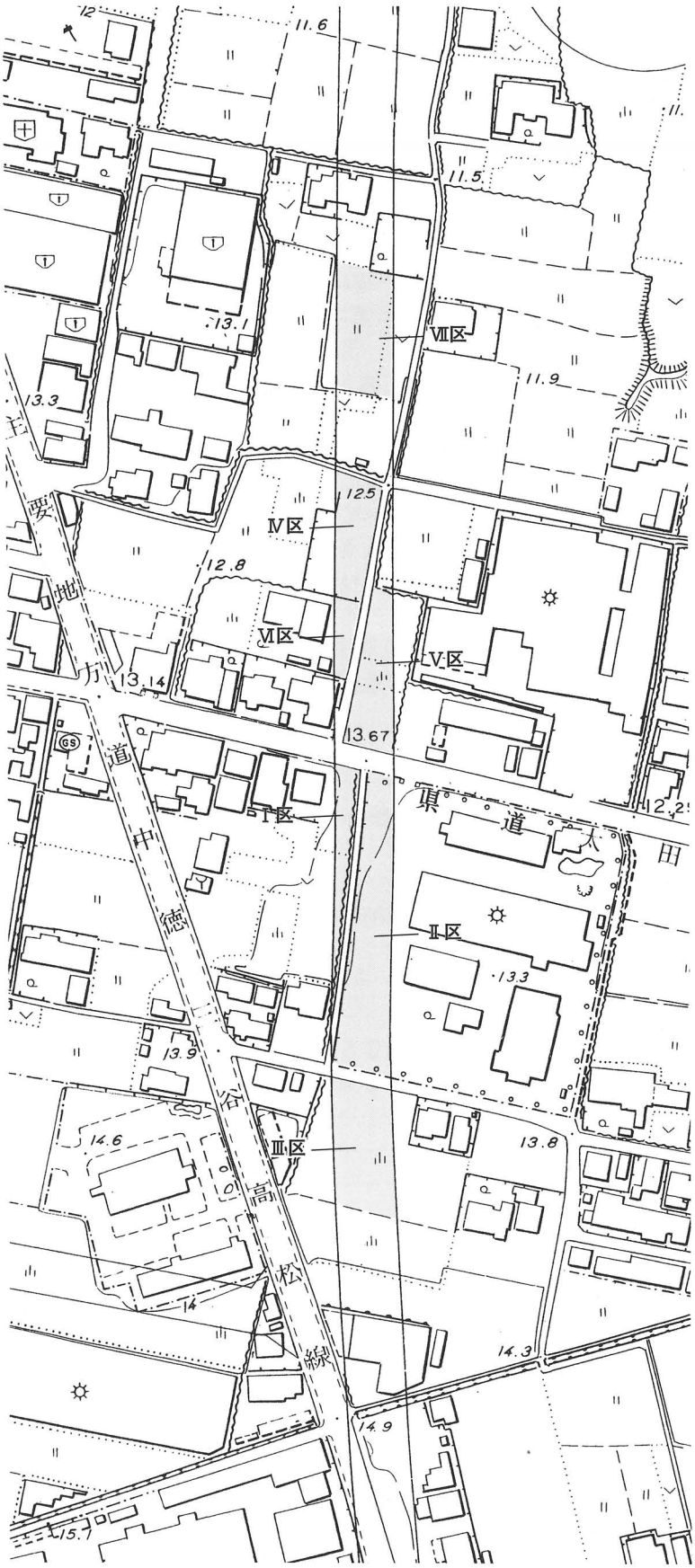
宗高坊城遺跡は，香川インテリジェント・パークから四国横断自動車道高松中央インターチェンジへと続く都市計画道路福岡三谷線南工区予定地内において所在が明らかとなった遺跡である。この高松中央インターチェンジ付近には，縄文時代晩期～弥生時代を中心とする林・坊城遺跡が，香川インテリジェント・パーク付近では，弥生時代～近世に至る複合遺跡である空港跡地遺跡が所在し，これらの中間に位置する本遺跡は，計画当初から遺跡の所在が想定されていた。

平成10年度に新規工事区間について試掘調査を実施した他，拡幅工事区間についても随時，工事立会を行い遺跡の確認調査を行った。その結果，新規工事区間内のうち，埋蔵文化財が確認された延長約350ｍの区間について，発掘調査を行うことで事業主管課である都市計画課と合意した。

第２節 調査の経過

発掘調査は，上記の区間内のうち，現有道路，用水路，宅地跡を除き，その結果７分割された調査区（計4,058㎡）について実施した。調査区の北端となるⅦ区については，高松市教育委員会の直営で平成11年６月10日～８月13日の期間において調査を行った。残るⅠ～Ⅵ区の調査については，（株）大王工務店に発掘調査掘削工事を委託し，平成11年３月23日～９月17日の期間で調査を行った。

また遺跡の空中写真撮影・測量図化の作業については，航空測量業務として（株）国際航業に委託し，平成11年６月18日，８月11日，９月８日に行った。



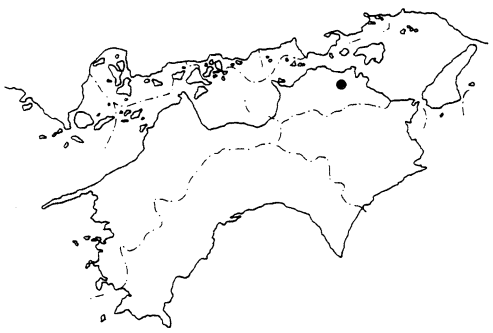
第１図　調査区位置図（1/2,500）

第２章 地理的・歴史的環境

第１節 地理的環境

瀬戸内海に北面した香川県のほぼ中央部に低い山塊に囲まれた高松平野がある。平野は南から五色台へと続く山地を西限とし，立石山山地を東限とし囲まれた東西20ｋｍ，南北16ｋｍの範囲に及んでいる。いずれの山地も花崗岩の上に緻密で侵食の受けにくい安山岩がギャロップと呼ばれる形でかぶさっており，そのため平野周囲の山塊のように侵食解析から取り残された台状の平坦面を有する山地（メサ），あるいは平野内部に見られる由良山等の孤立丘（ビュート）となっており，高松平野の自然環境を特徴付けている。

高松平野は，完新世に入ってから形成されたもので，讃岐山脈から流下し瀬戸内海へと注ぐ香東川をはじめ，本津川，春日川，新川などによって搬出された堆積物により緩やかな傾斜の扇状地を形成している。



第２図　遺跡位置図

石清尾山山塊の西を直線に北流する香東川は，17世紀に人工的に改変されたもので，それ以前は石清尾山山塊の南側を回り込んで平野中央部を東北方向に流れていた。高松平野には，これ以外にも旧流路は存在し，現在では水田および市街地の地下に埋没してしまっているが，空中写真等から，林町から木太町へかけての分ヶ池，下池，長池，大池，ガラ池を結ぶ流路等数本の旧河道が知られており，発掘調査でもその痕跡が確認されている。今回の調査地である宗高坊城遺跡も旧河道を確認している。

第２節 歴史的環境

高松平野中央部では，大池遺跡で表採された縄文時代草創期の有舌尖頭器が最古の事例として上げられる。長い空白の後，縄文時代晩期に居石遺跡，林・坊城遺跡が旧河道に沿って見られる。土掘り具と考えられる石器や伐採具（居石），諸手鍬や手鋤（林・坊城）の木製品があり，平野部での開墾・初期農耕の状況がうかがわれる。

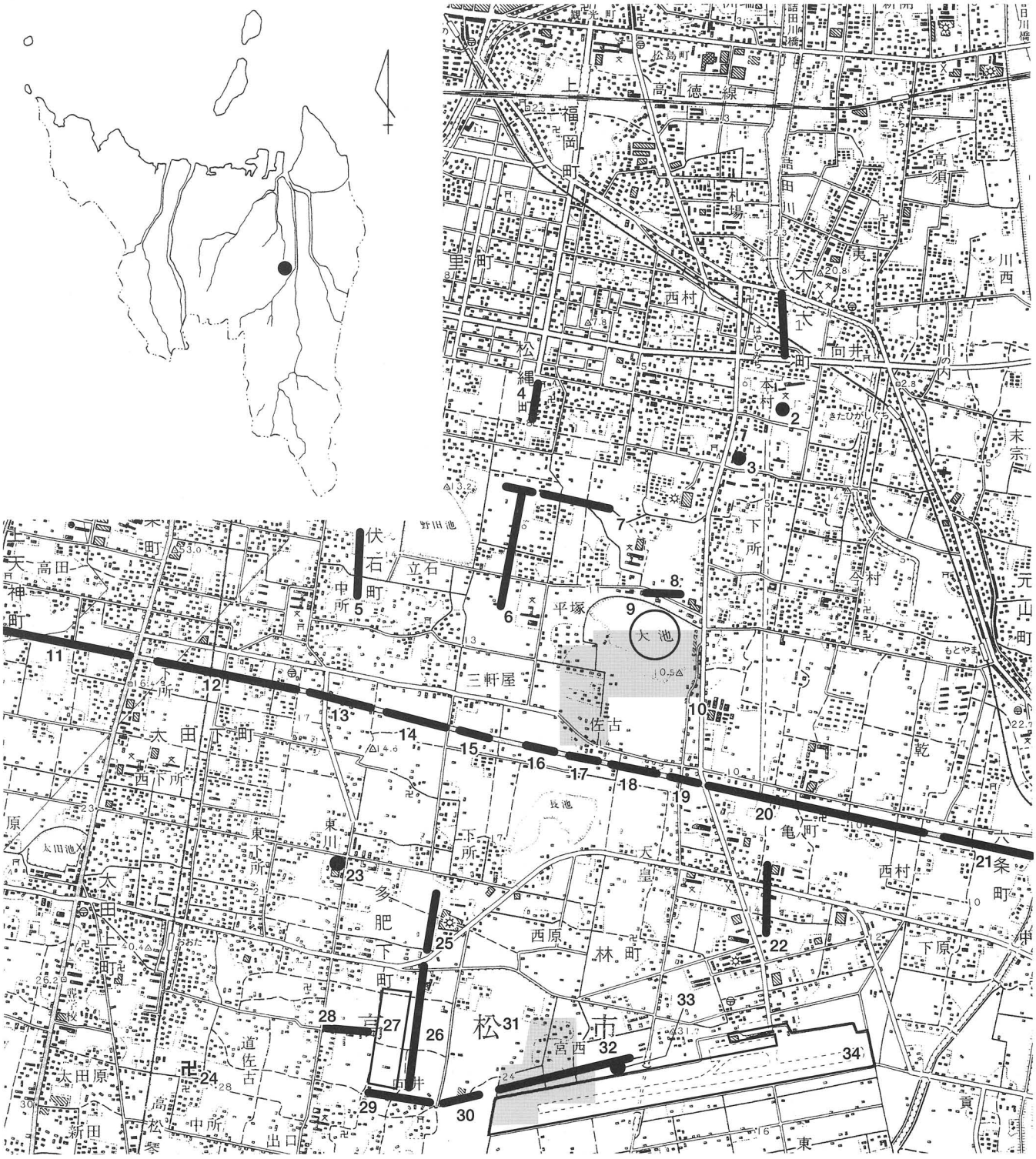
続く弥生時代前期には，上西原遺跡で大畦畔並びに小区画水田が検出され，さこ・長池Ⅱ遺跡でも前期末を下限とする小区画水田が広範囲に検出されている。集落では，前期中葉～後半にかけての天満・宮西，汲仏遺跡で環濠が確認されている。中期では掘立柱建物，竪穴住居からなる集落が日暮・松林，松林，多肥・松林遺跡に所在し，またこの下流域となるさこ・長池遺跡周辺にも集落が所在している。後期では遺跡数が増加し，主要な集落として上天神遺跡，空港跡地遺跡，天満・宮西遺跡，凹原遺跡，日暮・松林遺跡が挙げられる。

古墳時代になると，石清尾山山塊では著名な積石塚古墳が造営され，平野中央部の空港跡地遺跡においては前方後円・前方後方形の周溝墓をはじめ墳墓群が検出されている。一方，居石遺跡では，旧河道に設けられた取水口近くより３面の小形?製鏡が出土し，さらに取水口からのびる溝では木樋が確認されており，水祀及び灌漑施設整備の状況が窺える。その後の中期・後期では，六条・上所遺跡，太田下・須川遺跡で集落跡が見られるが，総じて集落数は少ない。

古代の高松平野では，日本最古の荘園絵図とされる「弘福寺領讃岐国山田郡田図」比定地が所在し，また条里遺構に関するものが目立つ。田図北地区比定地より北東に位置する木太本村Ⅱ遺跡では，８世紀代の井戸が確認されている。条里に関連した遺構の検出例は多く，中でも松縄下所遺跡の道路状遺構は７世紀後半に位置づけられ，条里施工の初現とされている。また，さこ・長池Ⅱ遺跡では旧香川・山田郡界上に道路状遺構を検出している。

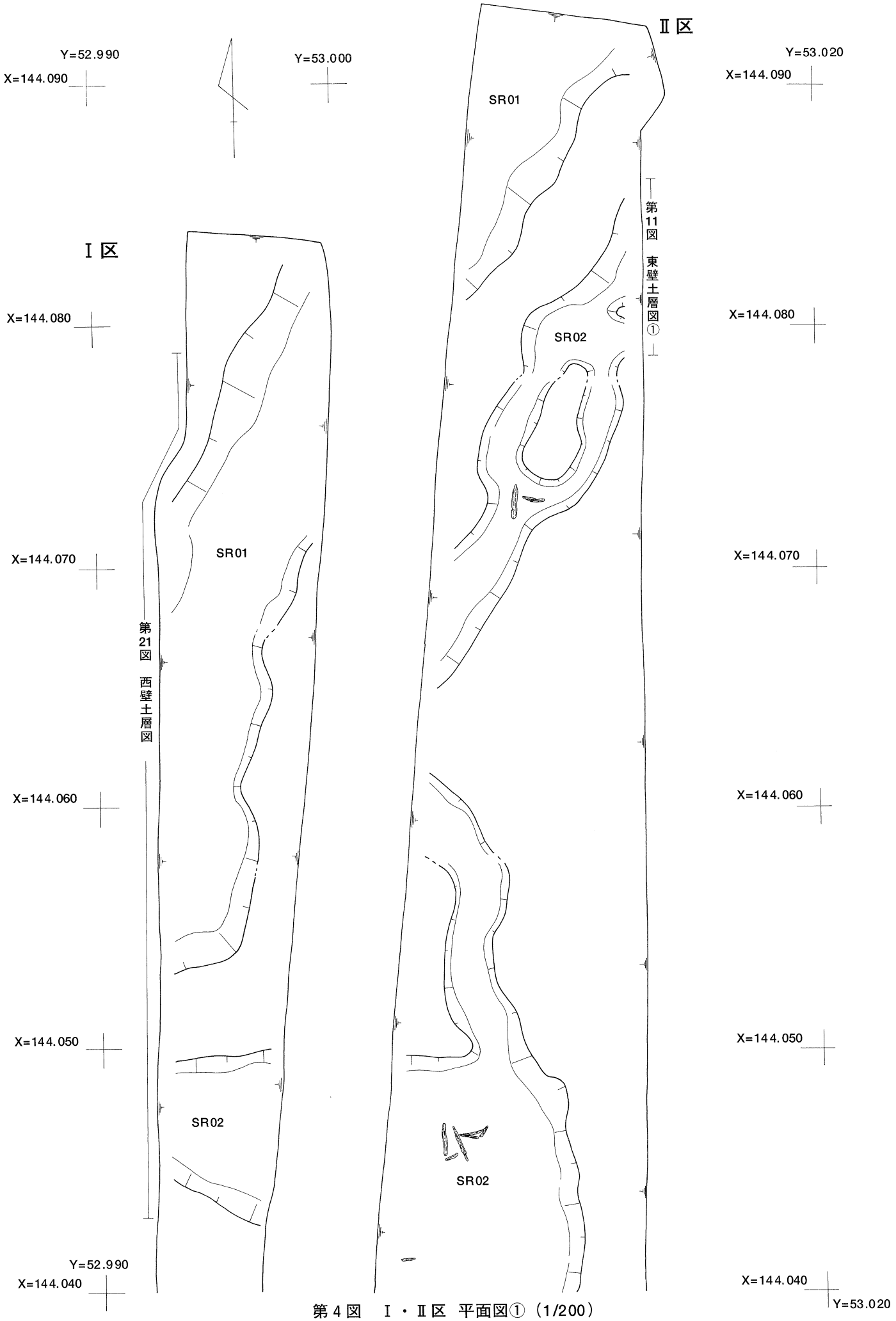
中世では，神内城跡，佐藤城跡（キモンドー遺跡）に関連する堀跡などが検出されている。空港跡地遺跡では区画溝をもつ居館跡等，中世期を通じて遺構・遺物が確認されており，平野部での村落の様相を窺い知ることとなった。

また，空港跡地遺跡周辺では旧軍用飛行場建設によって地割が大きく改変されているが，発掘調査によって検出した条里溝等から近世・近代期の失われた景観の復原が試みられている。

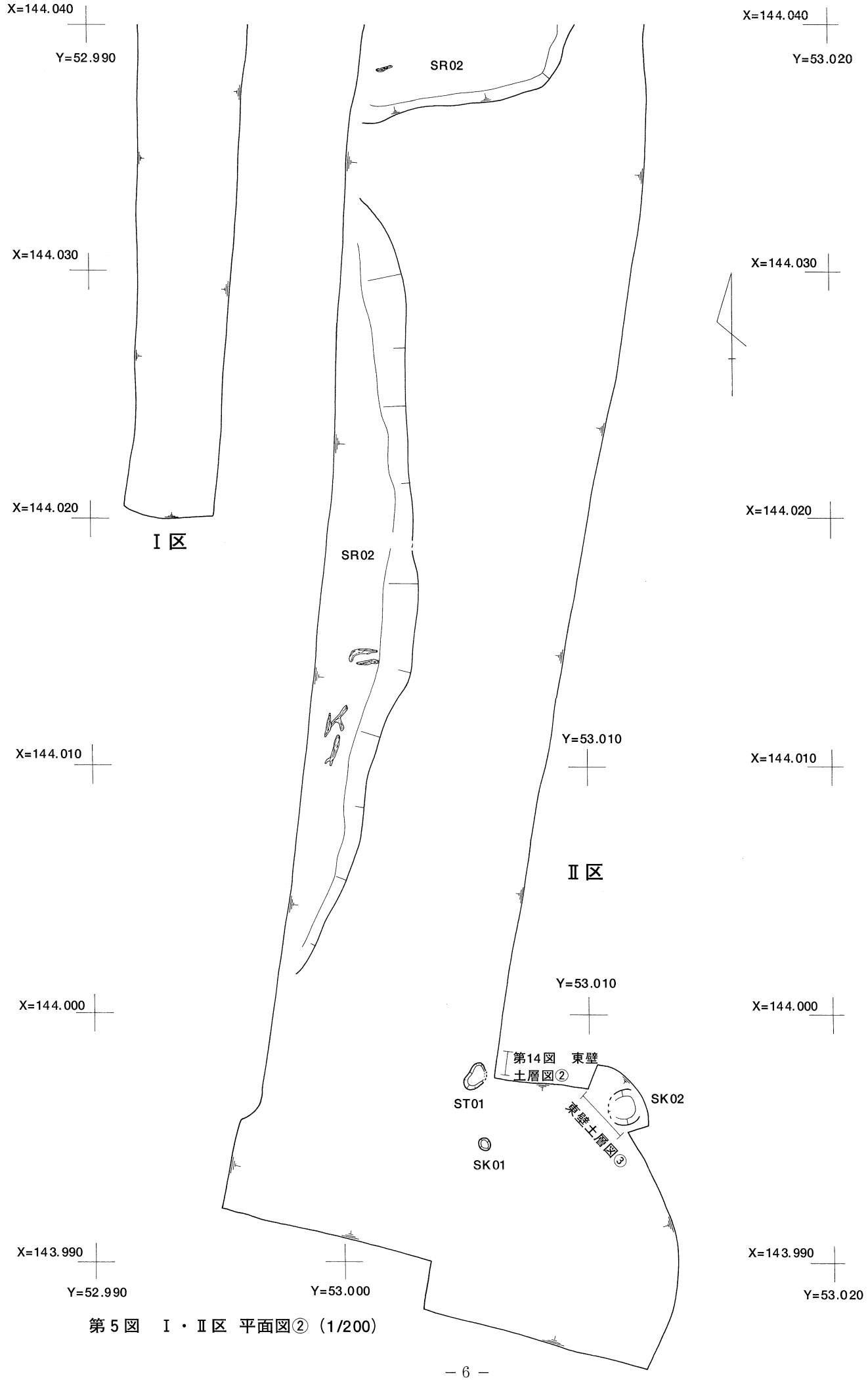


1	木太中村遺跡	2	白山神社古墳	3	木太本村Ⅱ遺跡	4	天満・宮西遺跡	5	キモンドー遺跡
6	松縄下所遺跡	7	境目・下西原遺跡	8	上西原遺跡	9	大池遺跡		
10	弘福寺領田図比定地北地区			11	上天神遺跡	12	太田下須川遺跡	13	蛙股遺跡
14	居石遺跡	15	井手東Ⅱ遺跡	16	井手東Ⅰ遺跡	17	さこ・長池Ⅱ遺跡	18	さこ・長池遺跡
19	さこ・松ノ木遺跡	20	林・坊城遺跡	21	六条・上所遺跡	22	宗高坊城遺跡	23	汲仏遺跡
24	多肥廃寺	25	凹原遺跡	26	日暮・松林遺跡	27	多肥松林遺跡	28	松林遺跡
29	多肥松林遺跡	30	多肥宮尻遺跡	31	弘福寺領田図比定地南地区			32	宮西・一角遺跡
33	一角遺跡	34	空港跡地遺跡						

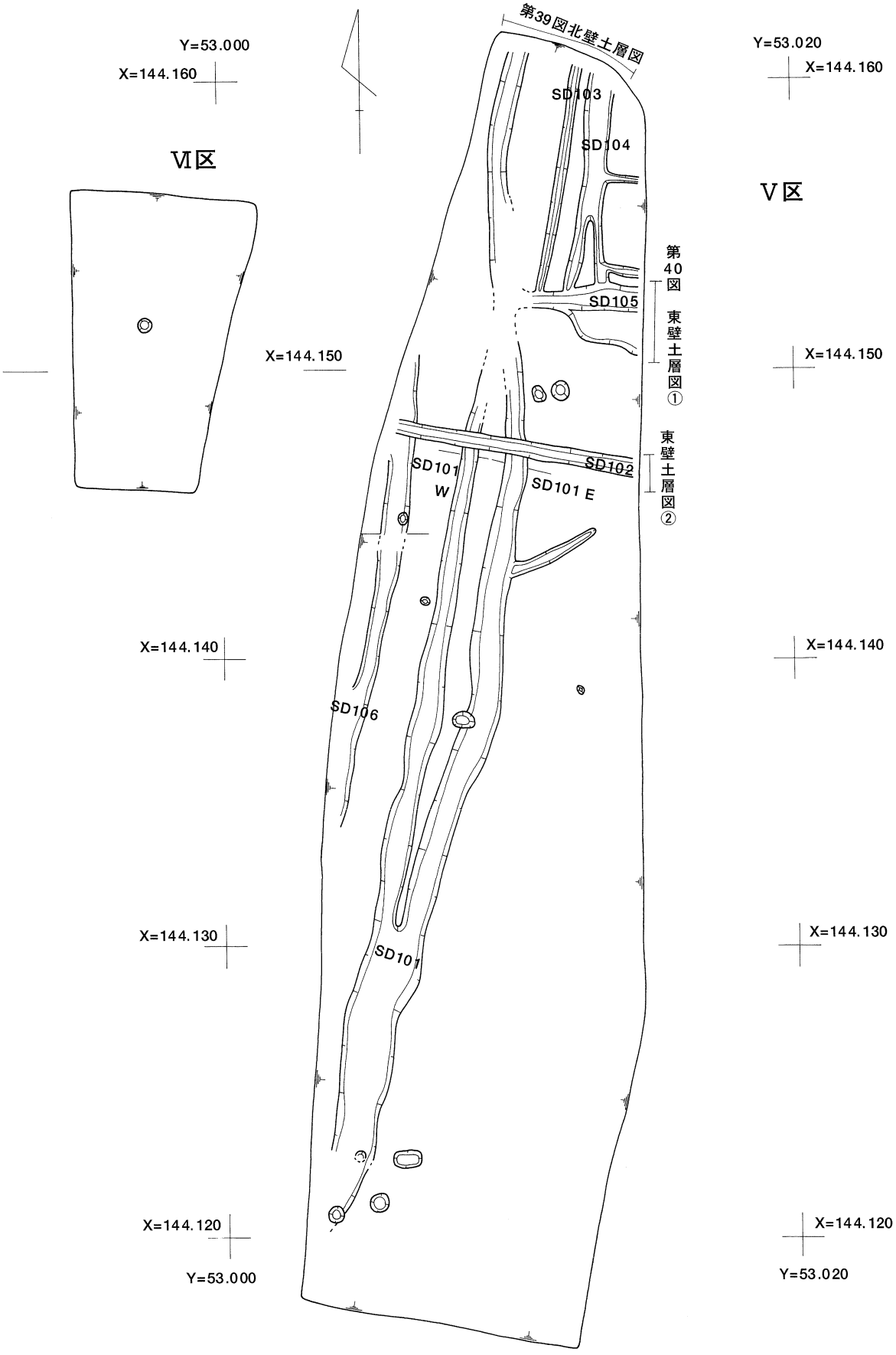
第３図　宗高坊城遺跡周辺主要遺跡分布図（1/25,000）



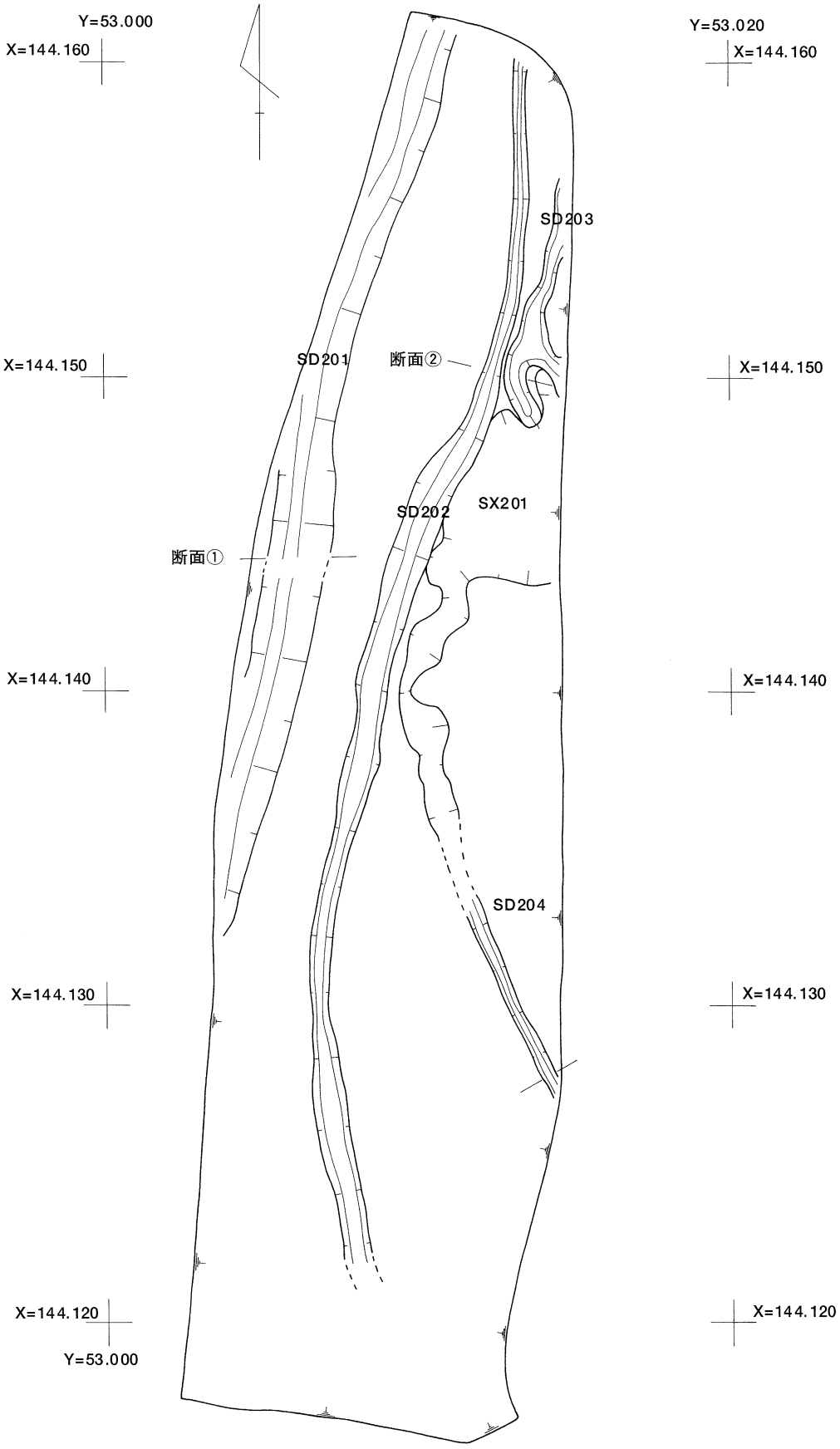
第4図　Ⅰ・Ⅱ区 平面図①（1/200）



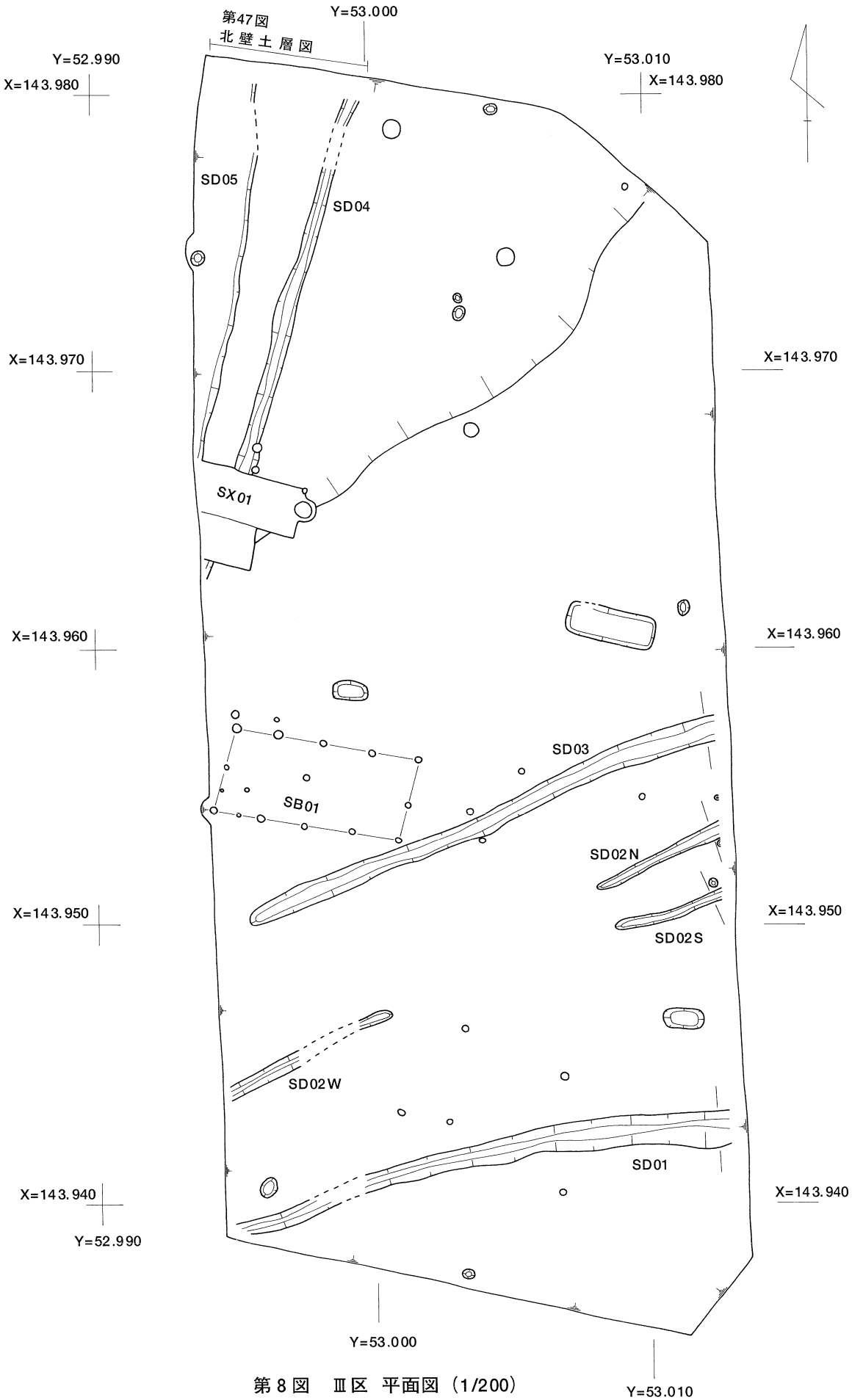
第５図　Ⅰ・Ⅱ区 平面図②（1/200）



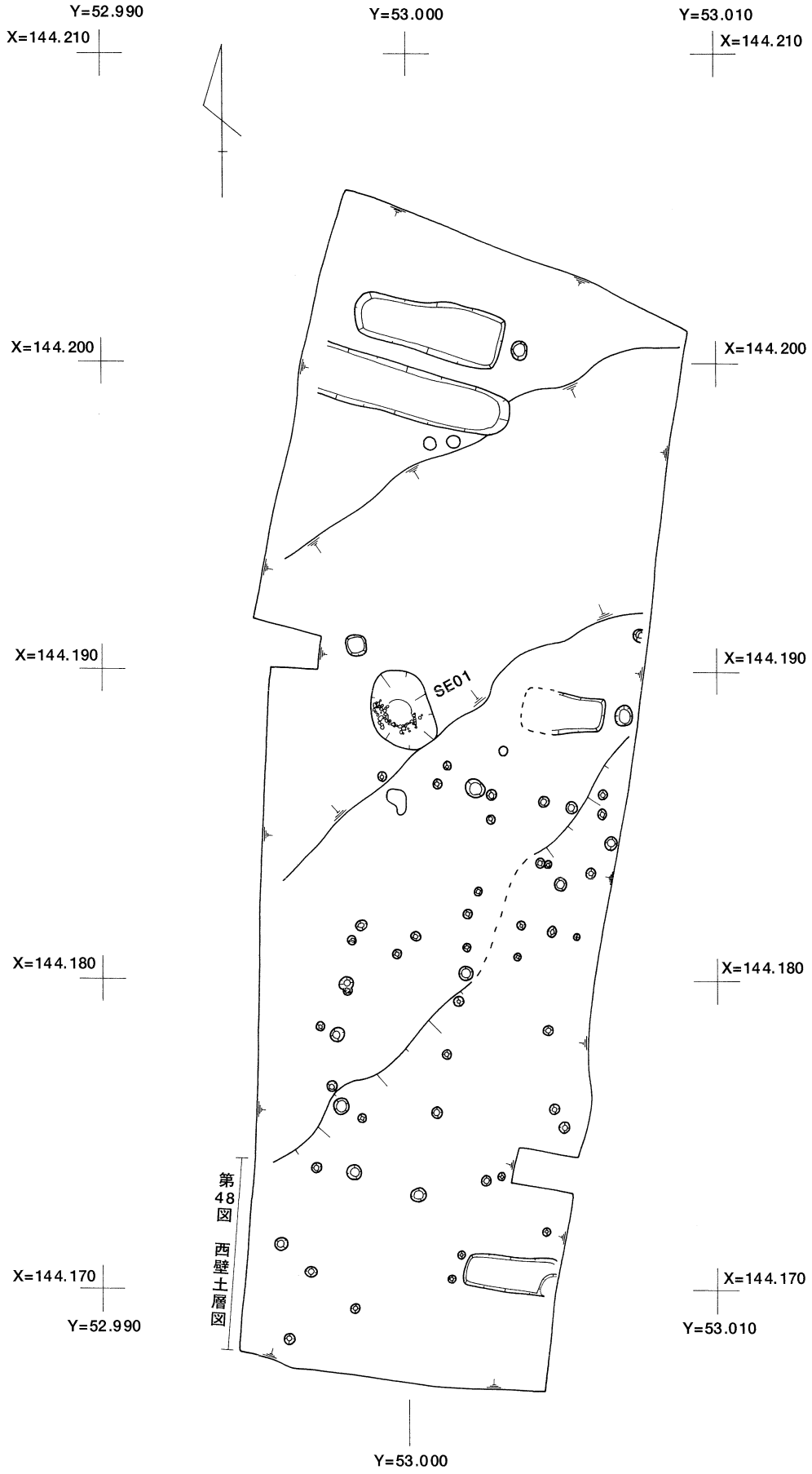
第6図　Ⅴ・Ⅵ区 第1遺構面 平面図（1/200）



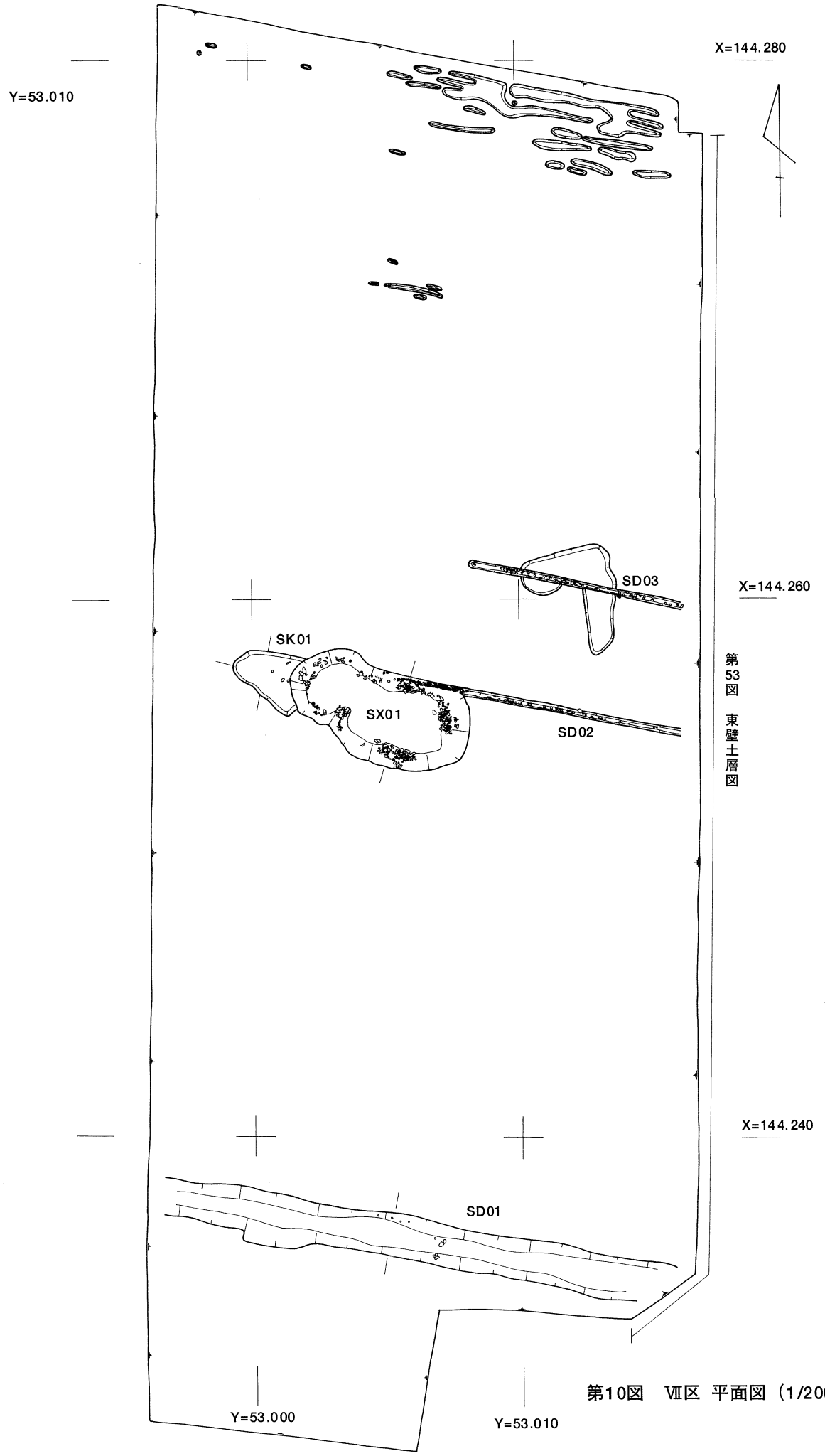
第７図　Ⅴ区 第２遺構面 平面図（1/200）



第８図　Ⅲ区　平面図（1/200）



第9図　Ⅳ区 平面図（1/200）



第10図　Ⅶ区 平面図（1/200）

第３章 調査の成果

第１節 調査区の設定と遺構番号

宗高坊城遺跡の発掘調査は，現有の道路等により７分割される。委託業務で行った調査区は，その調査順序に従いⅠ～Ⅵ区と呼称し，直営で行った調査区については，Ⅶ区と呼称する。

遺構番号については，煩雑なものについては整理作業時に随時変更を行った。なお今回，ピット及び鋤跡等でまとまりを持たないものについては報告の対象外とした。また近世・近代期の遺構・遺物についても省略し，重要と考えられるものについては概要のみを示している。

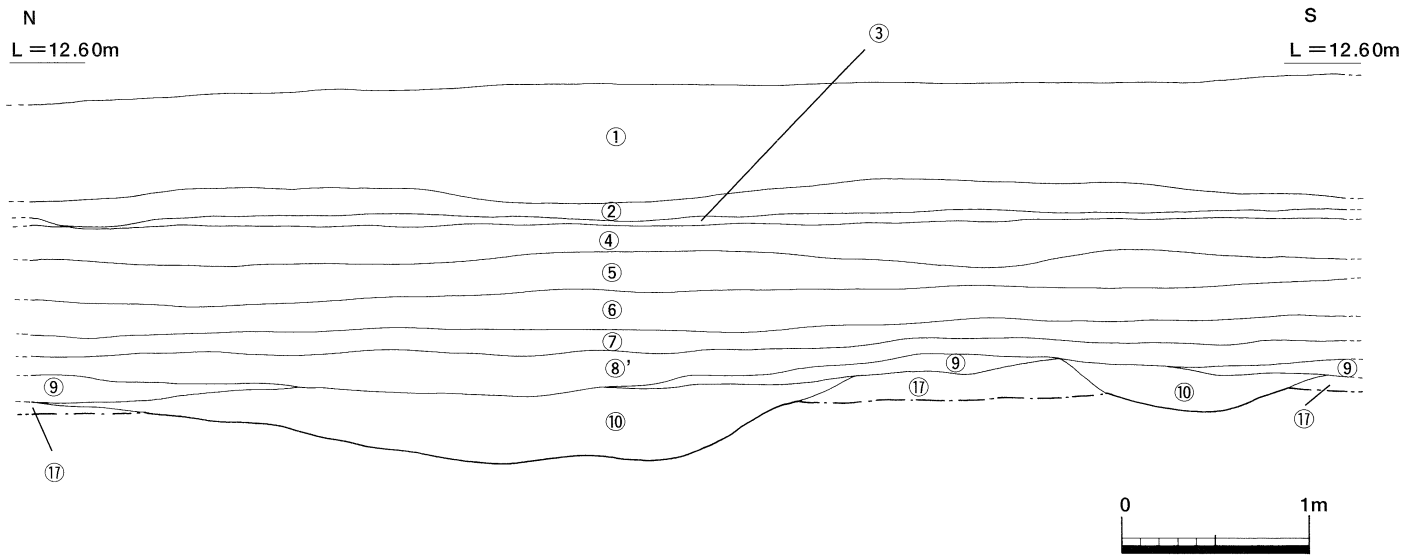
第２節 遺跡の概要と基本層序

１ 遺跡の概要

旧河道となるⅠ・Ⅱ区で縄文時代晩期～弥生時代前期の複数の流路を確認した。また，旧河道の両岸で弥生時代後期～古墳時代の遺構及び遺物包含層を確認した。Ⅴ区では古代の溝，弥生時代後期の溝を２面で検出した。Ⅲ・Ⅳ区は全体的に近代に属するもので占められるが，Ⅲ区で古代の溝，Ⅳ区で弥生時代後期～古代の遺物包含層を確認した。

２ 基本層序

本遺跡は，旧地形によりⅠ・Ⅱ区が埋没旧河道，Ⅲ～Ⅶ区が低地～微高地となる。遺跡全体の堆積層を上位から概観すると，中近世以降の耕作土と考えられるシルト質極細砂→古墳時代～古代の所産と考えられる褐灰～灰褐色シルト質粘土→弥生時代後期～古墳時代初頭の所産と考えられる黒褐色砂混じりシルト→安定した砂層→縄文時代晩期～弥生時代前期の泥炭化層→厚く不安定な砂層の順で見られる。Ⅲ・Ⅳ区の微高地上では，ほぼ表土及び旧耕作土直下で，遺構のベース面となる黄色砂及び礫層が認められる。



①：花崗土
②：2.5Y4/1 黄灰色砂混シルト質極細砂（旧耕作土）
③：2.5Y5/1 黄灰色シルト質極細砂
④：5Y6/2 灰オリーブシルト質細砂（しまらない）
⑤：2.5Y6/3 にぶい黄色シルト質極細砂（しまる）
⑥：10YR5/1 褐灰色シルト～粘土
⑦：10YR3/2 黒褐色粘土（耕作土？）
⑧'：10YR3/1 黒褐色砂質シルト
⑨：2.5Y7/2 灰黄色細砂（ややしまる）
⑩：10YR2/1 黒色粘土（植物遺体　流木を含む　泥炭化　SR埋土）
⑰：10YR7/1 灰白色細砂

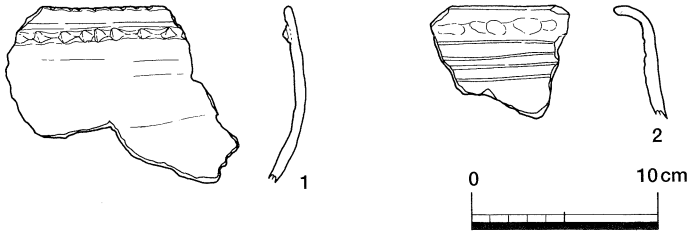
第11図　Ⅱ区 東壁土層図（1/40）

第３節　Ⅰ・Ⅱ区（第４・５図）

１ 旧河道

ＳＲ０１：Ⅰ・Ⅱ区の北端部を北東へと走る旧河道である。検出レベルは，Ⅰ区で11.10m前後，Ⅱ区で11.00m前後である。底面は，Ⅰ区で10.55m前後，Ⅱ区で10.25mを測る。埋土は，泥炭化した黒褐色粘土で流木等の植物遺体を含む。出土遺物は第12図２他土器片数点のみである。

ＳＲ０２：Ⅰ区中央部，Ⅱ区を蛇行する旧河道である。幾つかの支流に分かれ，Ⅱ区中央部で溜り状となる。検出レベルは，Ⅰ区で11.00m前後，Ⅱ区で11.00～11.25m。底面は，10.40m～10.80m前後を測るが，流路の方向が明確なものではない。埋土は，SR01と同様で泥炭化した黒褐色粘土に流木等を含む。所属時期を示す出土遺物は第12図１のみである。



第12図　SR01・02出土遺物（1/4）

SR01・02より下位では，厚い砂の堆積が見られ，より営力の大きな旧河道の存在が窺える。両旧河道とも湿地状の堆積物で充填されており，大きな旧河道の水流が停滞していた時期のものと考えられる。この時期は，出土遺物から縄文時代晩期～弥生時代前期と考えられ，これ以降弥生時代後期までの間では，水流を示す薄い砂層と緩慢な自然堆積と考えられる粘土層が認められる。この緩慢な堆積が見られる間，旧河道付近は比較的安定していたと考えられ，Ⅱ区南部では遺構が検出されている。以後，明確な砂層の堆積は認められず，常時は低湿地状の環境であったと考えられる。なお，Ⅱ区南部で溜り状となったSR02の南東側で，蛇行する支流が調査区東壁の観察により確認されたが，出土遺物が極めて希薄であったため，掘削を行わなかった。

ＳＲ０１・０２出土遺物（第12図）：１は，縄文土器深鉢。屈曲型の突帯文土器で口縁部端部に刻みが施される。２は，弥生土器甕。如意状の口縁で胴部に多条沈線文が見られる。１は縄文時代晩期後半，２は弥生時代前期中葉と考えられる。

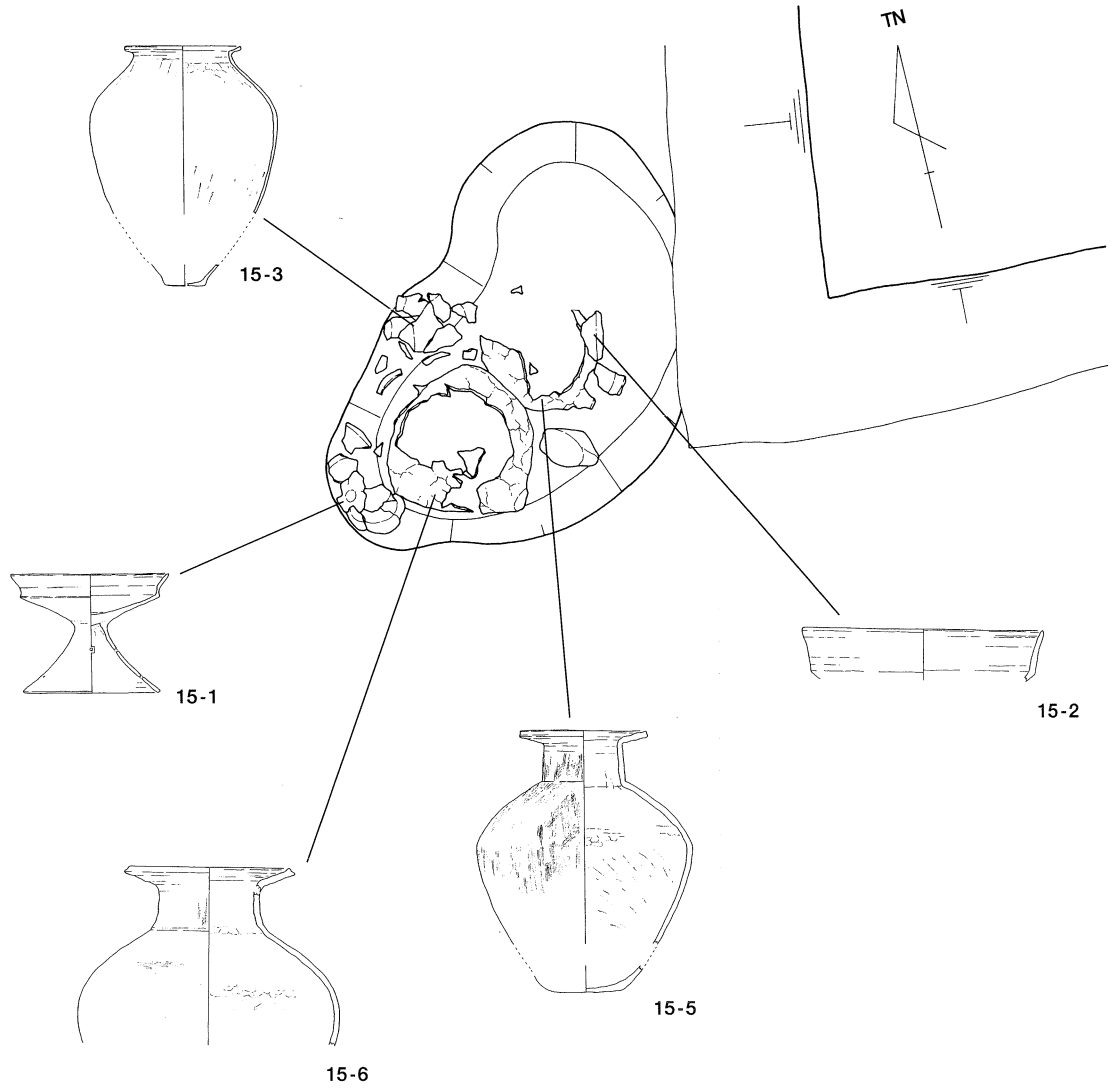
２ Ⅱ区遺構

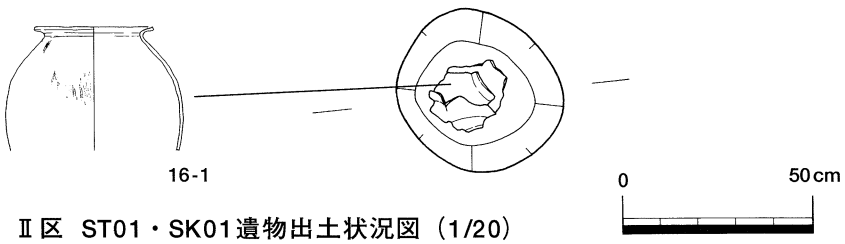
ＳＴ０１（第13～15図）：Ⅱ区南東部で確認した土器棺墓である。検出レベルは，11.50m～11.48m，底面は，11.38m前後を測る。検出した掘方の平面形状は，不正な長方形で長軸方向に約1.18m，短軸方向に0.78mを測る。但し，遺構の埋土は⑧層であるが判別がつかずに掘削したため，遺物が露出した状態となる⑨層上面で検出を行っている。遺物は，壺（６）が北西に口を向け，壺（５）は反対方向の南東方向に口を向け横たえられていた。共に，胴部上面が欠損している。蓋と考えられる大形鉢（２）が，壺（５）の肩部に，高杯（１）・甕（３）が壺（６）の両肩に置かれる。また壺（６）の底部と壺（５）の頸部の間に頭大の石が据えられていた。他の４，７，８の遺物は，北半の空いたスペースに埋納されていたものと考えられるが断定できない。

ＳＴ０１出土遺物（第15図）：１は高杯。２は大型の鉢。３は甕。４は，広口壺口縁部で，口縁部端面に鋸歯文が施される。５・６は広口壺。７は鉢の底部。８は壺（？）の底部。整理時において，いずれも接合部の状態が悪く，出土時の状態に比べ，接合・復原できる割合が少なかった。１・２・３・５・６の形態から，弥生時代後期後半，大嶋編年（大嶋2001）の様相４に位置づけられる。

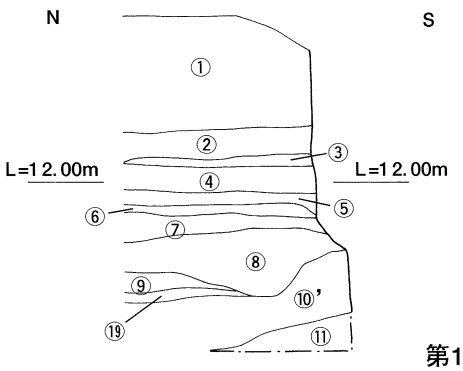
ＳＫ０１（第１３・１４・１６図）：Ⅱ区南東部で確認した土坑である。検出レベルは，11.61m～11.63m，底面は，11.44m前後を測る。検出した平面形態はほぼ円形で，長軸方向は約0.45m，短軸方向は0.4mを測る。埋土は，黒褐色シルトの単層である。遺物は，甕（１），小型鉢（２）が出土した。これらの遺物及び確認面から，上記のST01と同じ時期と考えられる。

ＳＫ０２（第１７・１８図）：Ⅱ区南東部で確認した土坑である。調査区東壁で確認したため，一部は調査区外に広がるため未調査となった。検出レベルは，12.00～11.88m，底面は，11.80m前後を測る。検出した平面形態はほぼ円形と考えられ，長軸は約1.5mを測る。埋土は，黒褐色砂質シルトの単層である。遺物は，小形の壺（１）が出土している。層序及び出土遺物から，古墳時代前期と考えられる。

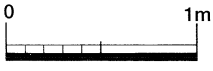




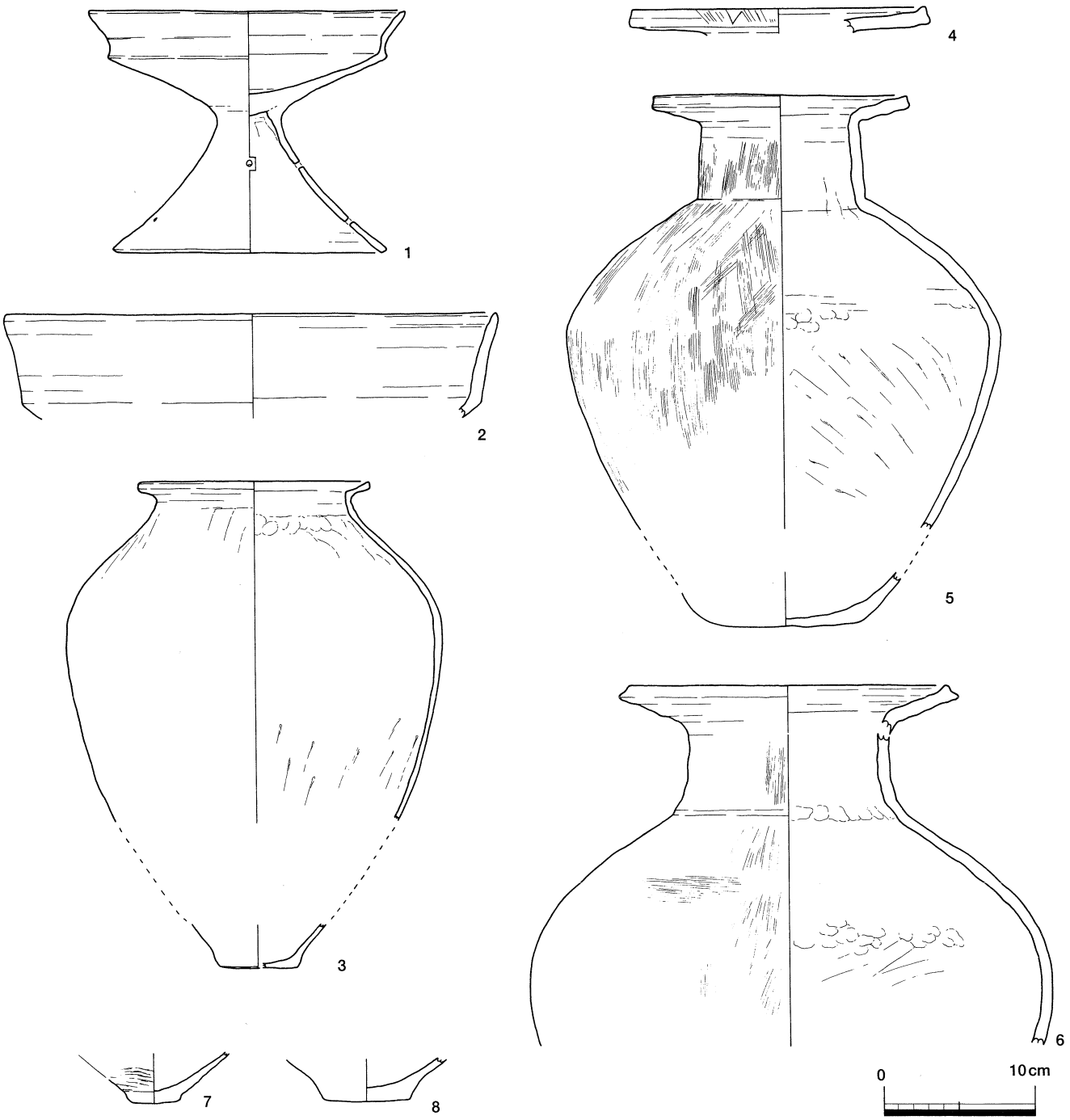
第13図　Ⅱ区 ST01・SK01遺物出土状況図（1/20）



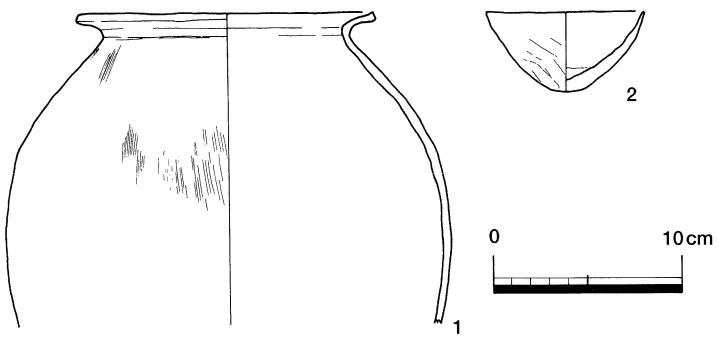
①：花崗土
②：2.5Y4/1 黄灰色砂混シルト質極細砂（旧耕作土）
③：2.5Y5/1 黄灰色シルト質極細砂
④：5Y6/2 灰オリーブ色シルト質細砂
⑤：2.5Y6/3 にぶい黄色シルト質極細砂
⑥：10YR5/1 褐灰色シルト～粘土
⑦：10YR3/2 黒褐色粘土（耕作土？）
⑧：7.5YR3/1 黒褐色～4/1褐灰色砂混シルト質粘土
⑨：2.5Y7/2 灰黄色細砂（ややしまる）
⑲：10YR6/3 明黄褐色極細砂
⑩'：7.5YR2/1 黒色粘土
⑪：7.5Y5/1 褐灰色シルト



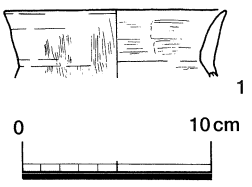
第14図　Ⅱ区 東壁土層図②・SK01断面図（1/40）



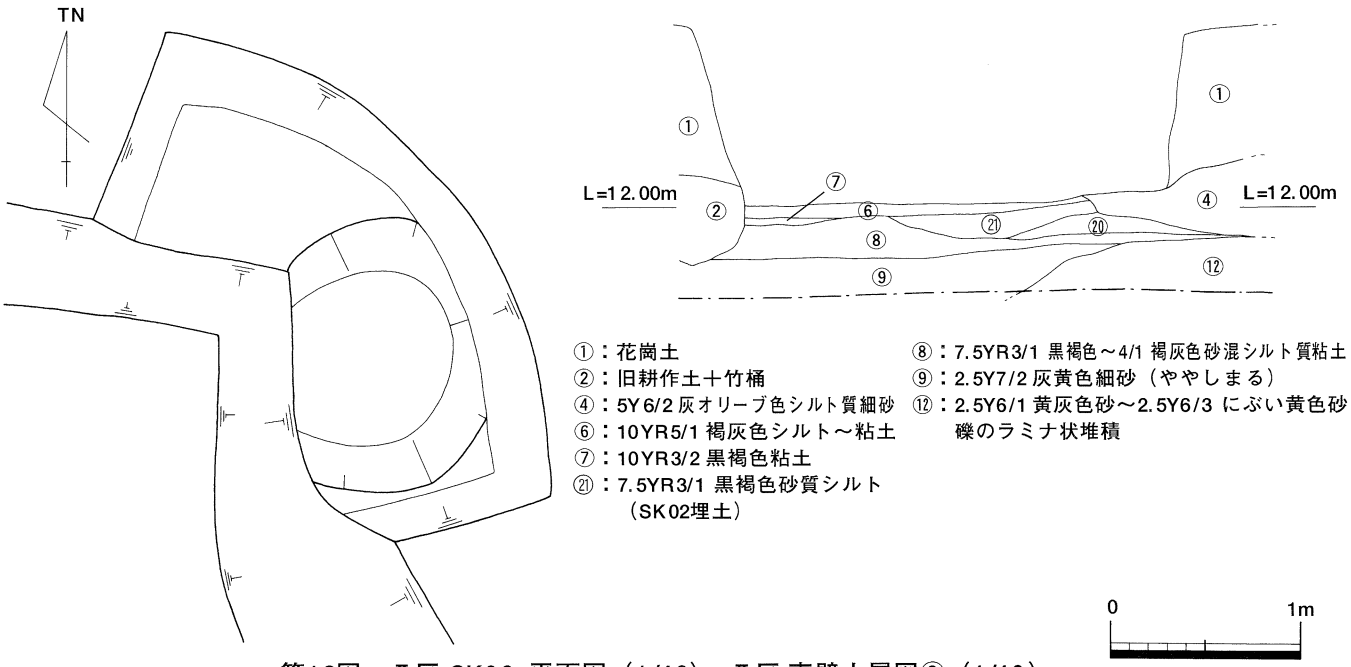
第15図　Ⅱ区ST01出土遺物（1/4）



第16図　Ⅱ区SK01出土遺物（1/4）



第17図　Ⅱ区SK02出土遺物（1/4）



第18図　Ⅱ区 SK02 平面図（1/40），Ⅱ区 東壁土層図③（1/40）

3 Ⅱ区遺物包含層

Ⅱ区南東部を中心に，遺物を包含した黒褐色～褐灰色土層（⑧層）が認められた。遺物は摩滅・風化が著しいが，30?入コンテナで約２箱分が出土した。

4 Ⅱ区⑧層出土遺物（第19図）：１～３は高杯。４・５は，頸部が直線的に外傾する細頸壺。６～９は甕。10～14は底部。14は製塩土器で，胎土に角閃石を多く含む。15～18は広口壺。15～17は下川津B類土器に類するが，やや黄色みを帯び角閃石が少ない。19の頸部と体部境には，刺突文が見られる。20・21は壺の頸体部。石器はＳ１の打製石庖丁のみで，本遺跡全域においても石器類の出土は極めて少ない。以上の出土遺物より，⑧層は弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の堆積物と考えられる。

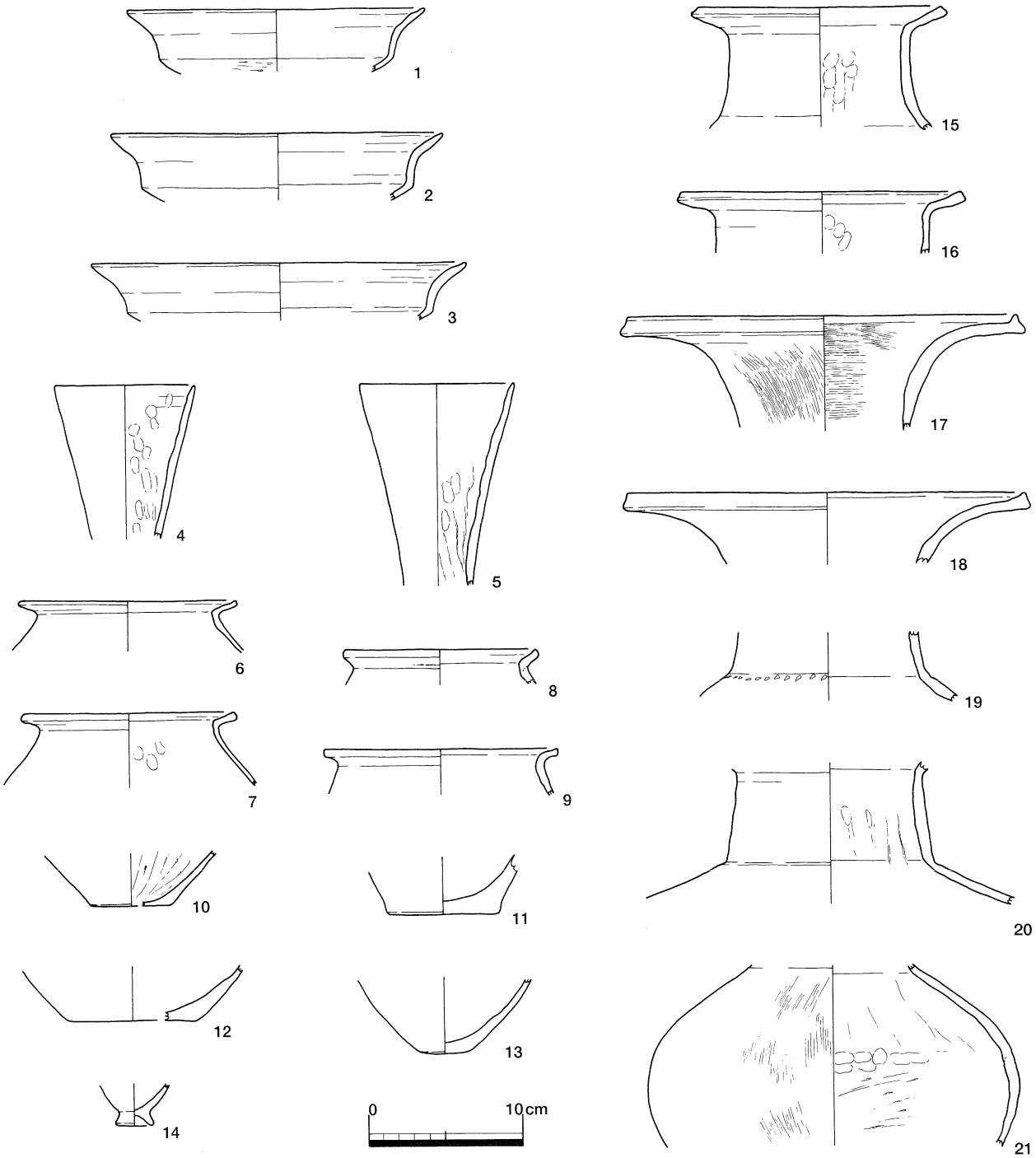
5 Ⅰ区遺物包含層

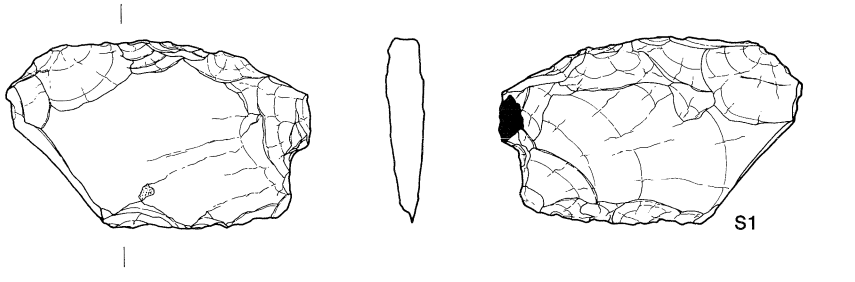
Ⅰ区⑩層（第20・21図）：Ⅰ区の北端部，埋没旧河道西岸で確認した多量の遺物を包含する堆積層である。黒褐色の土砂（砂礫混じりシルト）に30?入コンテナで約50～60箱分の土器片・木片を含んでいた。⑩層は，SR01の埋土とした泥炭化層（⑧層）と西端部では安定した砂層の上部に，約30～40ｃｍの厚さで堆積する。堆積状況や微高地上のＶ区遺構埋土（⑤・⑤’層）と酷似した堆積物であることから，西側の微高地上から流入した可能性も考えられる。洪水等により流入，もしくは人為的な廃棄によるものと考えられ，調査区の西側に集落が所在した可能性が推定できる。

6 Ⅰ区⑩層出土遺物（第22～30図）

当遺物包含層の土器片が遺跡全体における出土遺物の約８割以上を占める。概観すると，弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の土器群と考えられ，一部に弥生時代後期前葉の特徴を有するものも認められる。代表的なものを図化し，可能な限り胎土分析を実施した。

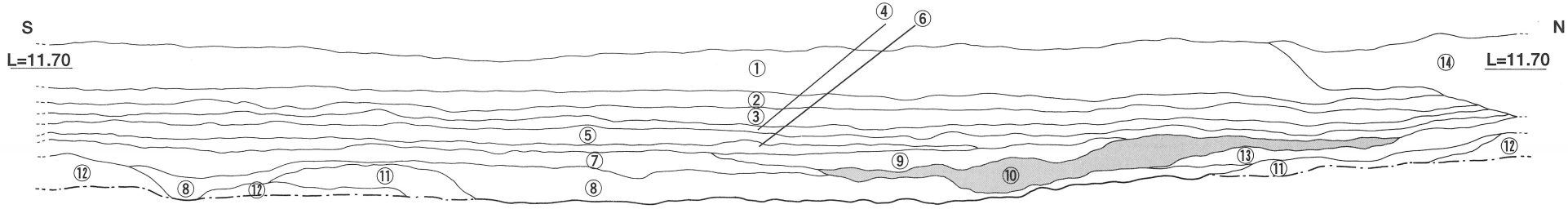
１～10は広口壺で，１～８は下川津Ｂ類土器の形態を示すものである。１～４は，短い口縁部がやや斜め上方に伸び，頸部が太いタイプ。４は，肩が張らず丸みを帯び，胎土はやや橙色を呈して角閃石を観察できない。５・７は体部径が小さく長頸のもので，頸部に篦描き沈線文が施される。８は，器壁の厚い大形のもので，口縁は長く外方に伸び，強い横ナデが施される。６も同形のもので，頸部に縦方向の沈線文が見られる。５・６の体部上半には，刷毛後に斜行するミガキ調整が施される。９・10の胎土は，橙色を呈する。９はなで肩の体部から太い頸部が付き，緩やかに外反して短い口縁となる。10は，丸みを帯びた体部に太い頸部が付き，中位で屈曲し口縁に至る。11～14は広口壺の口縁部。11は，大きく上下に拡張した口縁端部に鋸歯文を施す。頸部には刷毛調整が見られる。12は下川津B類土器の口縁部。
内面に赤色顔料の付着が認められる。13，14は，口縁端部に円形の刺突文が施される。14は，やや小形の広口壺で，精緻な胎土に角閃石を多く含む。15は口縁が水平に開く。17・18は壺の頸部で，それぞれ体部





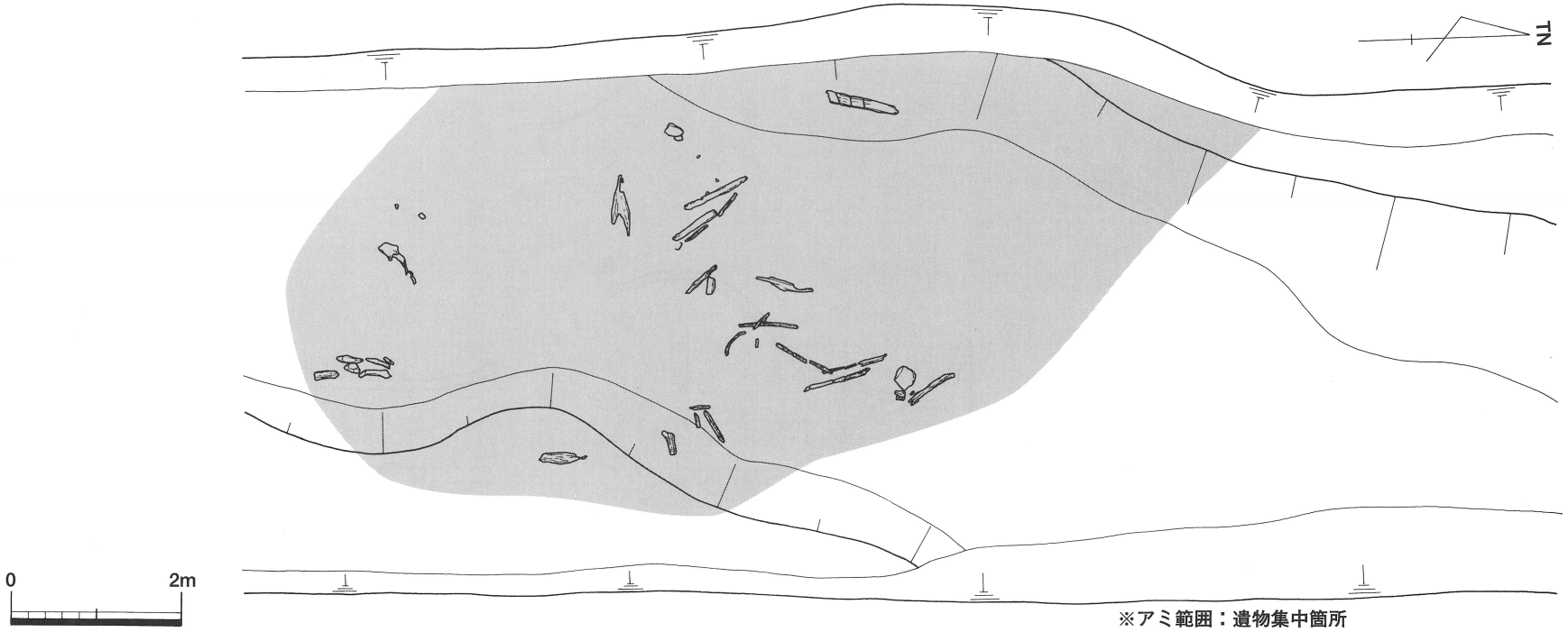
第19図　Ⅱ区⑧層出土遺物（土器1/4，石器1/2）

との境に刻目突帯・刺突文が施される。18は磨き調整が施され，やや赤色に発色する箇所がある。19・20は体部で，19は灰白色を呈する胎土で，ほぼ丸底化している。20・21は，下川津B類土器の体～底部。21は肩の張る体部で，底部は丸底に近い。22・23の底面は平面を残す。24～40は広口壺。24・25は灰白色を呈する胎土で，頸体部は刷毛調整である。24は水平に開く口縁を，25は口頸部が緩やかに外反し短い口縁をもつ。26は，なで肩の体部に短い頸部，斜め上方に開くやや長めの口縁を有する。体部外面に叩き，頸体部の内外面に刷毛調整が見られるが，非常に荒く仕上げられている。 28・29・31・33・34は，ほぼ同系と考えられるやや精緻な浅黄色の胎土が用いられている。28・29は頸部が長・短であるが，頸体部外面にやや装飾的な刷毛調整が施される。31は，口縁が水平に開き，頸部にはミガキ調整が見られる。33は，刷毛調整で頸部外面に篦描き沈線文が施される。34は，33と同じ長頸だが，頸部が内傾し，口縁部に横ナデを加え，端部を斜め上方に摘み上げる。30は，口縁部が水平方向からやや垂下し，端部に面をもつ。32は，口縁が長く斜め上方に伸び，端部を内側に摘み上げる。35～37は，頸部がラッパ状に外反し口縁部に至る。36の胎土は下川津B類土器と近似している。38～40は，体部からハの字に広がる口頸部を有する。38の頸体部境には，擬口縁状となる接合痕が明瞭に認められる。内面には，塗土の下に接合以前の調整痕を残す。胎土中に金雲母が目立つ。41～46は複合口縁壺。41は，やや長めに内傾する口縁で，胎土は褐色で角閃石を含む。44～46は，口縁部が外反し屈曲箇所に小さな突出が見られる。47～50は短頸壺。47は精緻な胎土が用いられ，口縁端部に面を持つ。48は丸みを帯びた肩で，口縁部内面への肥厚が認められる。49・50は，下川津B類土器と酷似した胎土を有する。49は，肩の張る体部より口頸部が直立する。全体的に精緻なつくりで口頸部に鋭い横ナデ，体部内面には顕著な指押えが見られる。51～56は長頸壺。51は，退化した凹線状の横ナデが施され，後期前葉の形態を呈する。52は，緩やかに口縁部へと外反する。52は下川津B類土器の胎土で，下川津Ⅰ式以前の形態である。55・56は細頸壺。54・55は口縁部へと直線的に外反し，56は内彎気味となり下川津B類土器。58・59は，細頸壺の体部。59は玉葱形となり，56と同じ形態の体部と考えられる。 57は，やや小形の広口壺で，肩が丸みを帯び，口縁部が水平に開く。口縁端部は拡張された面をもつ。60はやや小形の壺で，下膨れの体部から口頸部がハの字形に広がる。内外面刷毛調整で，体部外面に一部タタキ痕を残す。内面は，体部下半まで削り調整が行われる。61～63は，小形で丸底の鉢または壺。64・65はミニチュア土器。64はやや橙色を呈するが，65は角閃石を多く含み精緻な胎土を有する。66～86は高杯。66は，角閃石を多量に含む胎土で，後期初頭に見られる形態だが，外方向にのみ口縁端部が拡張される。67～72は，杯部が中位で外反するもので，下川津B類土器の高杯もしくは鉢である。口縁部内外面は，工具によると考えられる鋭い横ナデ，杯部外面は荒い磨き調整で削り痕を残す。75～77は，円盤充填法により成形され，杯部内外面に分割磨きが施される。77～81は，裾部が緩やかに外反する高杯脚部で，端部が僅かに肥厚もしくは上下に面をもち，内面に削り痕が認められる。 73・74は高杯。73は，灰白色を呈する精緻な胎土を用い，口縁部が長く外反する。74は小振りの杯部で，胎土はにぶい黄色を呈しやや粗い砂礫を含む。82～86は高杯脚部。82は精製で，一部赤色を発する箇所がある。脚部に沈線文を２箇所，中位に1対裾部に２対の穿孔を有する。85・86は低脚のものである。87～94は，下川津B類土器の大形鉢。93は口縁部があまり外反せず，やや内側に突出する端部は凹状となる。他は，小形の高杯とともにほぼ同形態のもので，口縁部には連続する横ナデ，杯部外面にケズリが施される。内面には刷毛，磨きが見られるものもある。95～98は，大形鉢の片口部。口縁端部の形態から，93の片口に98が該当する。99～105は鉢。99は大形のもので，体部から「く」字に屈曲し，口縁部には片口が付く。100も同形で，内面に磨きが認められる。101は碗形に近く，底は丸みを帯びる。外面下半を削り，上半を横ナデ，内面に刷毛調整を施す。102～104は器高が高く，口縁が内彎気味に立ち上がるもの。底部は平底で突出するもの，やや丸みの帯びるものがある。外面は103・105に叩き痕，102に亀裂痕が認められる。内面は102に分割した刷毛調整が，103は放射状の磨き調整が認められる。いずれも灰白色を呈する精緻な胎土が用いられる。106～110は，尖底部に穿孔された土器で甑底部と考えられる。111～115は下川津B類土器の甕。116は，頸部が「く」字に屈曲する。叩き痕を残し，内外面に刷毛調整を行う。胎土は，鈍い黄色を呈し砂礫を含む。117は，「く」字に屈曲する頸部から口縁が大きく外反する。118は，広口壺あるいは甕の口縁部で，端部は垂れ下がり面をもつ。119は大形のもので，強く張る肩から頸部で「く」字に屈曲し，口縁に至る。やや内側に突出する端部は凹状をなす。胎土は，褐色を呈し角閃石が含まれる。120は，体部から緩やかに屈曲し，端部を下方に拡張する。精緻な胎土に角閃石を含み，後期前葉に位置づけられる。121は，丸みを帯びた体部から屈曲し，短い口縁部のもの。122は，「く」字に屈曲し口縁部を外方向に摘み出す。内面は頸部まで削り痕が認められる。胎土は，精緻で比重が重く，121と同様に角閃石が見られる。123は，頸部で「く」字に屈曲するもので，内外面に刷毛調整が見られる。124は，細身で卵形の体部をもつ。125は，やや丸みを帯びる体部から「く」



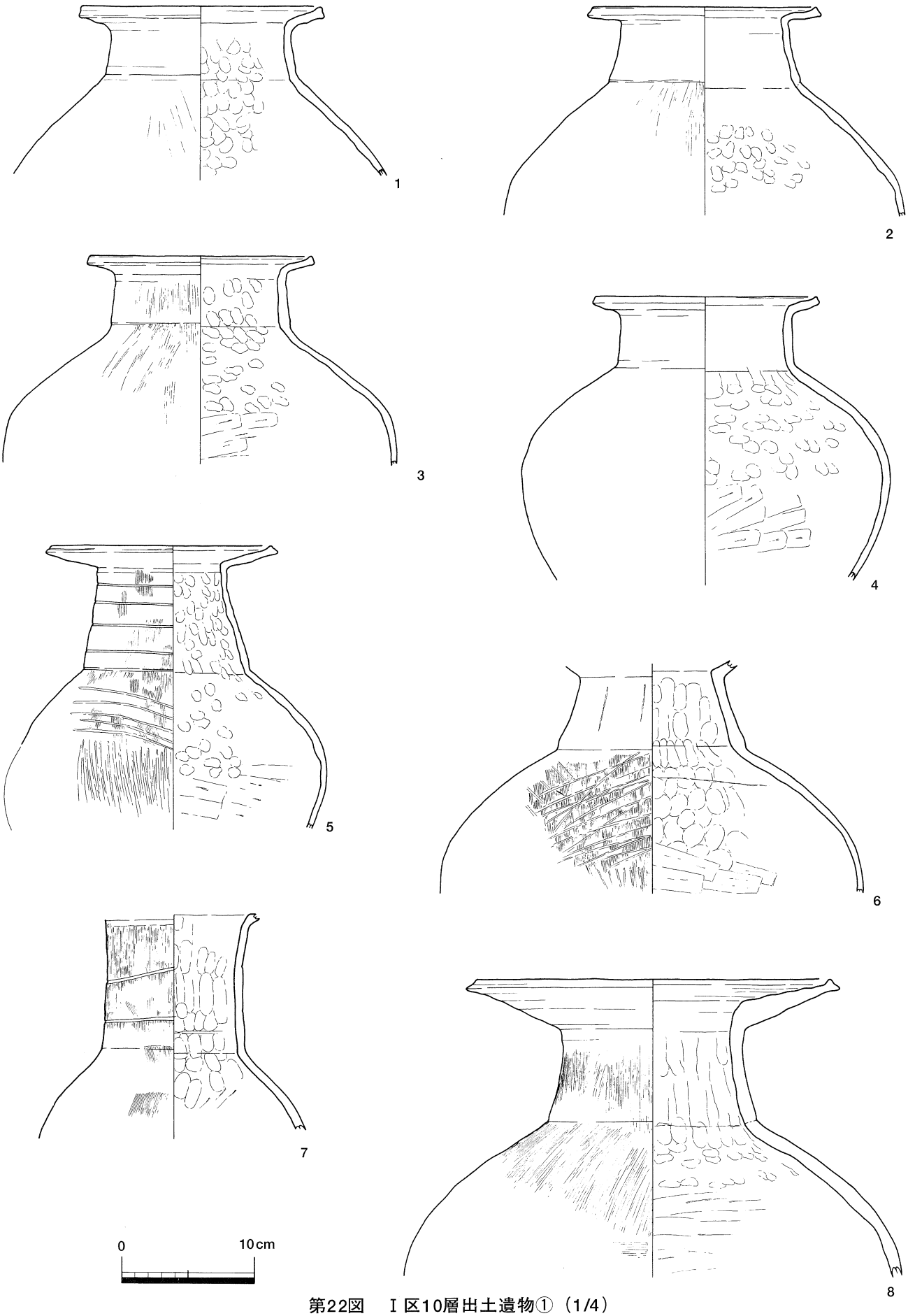
①：5Y5/2 灰オリーブ色シルト質極細砂（現耕作土）
②：2.5Y6/2 灰黄色シルト質極細砂（しまらない）
③：2.5Y6/4 にぶい黄色砂混シルト質極細砂
④：2.5Y6/4 にぶい黄色混シルト質極細砂（しまる）
⑤：2.5YR5/2 灰褐色シルト質粘土
⑥：7.5YR4/1 褐灰色シルト質粘土
⑦：10YR3/1 黒褐色粘土
⑧：2.5Y3/2 黒褐色粘土（植物遺体を含む泥炭化、SR01埋土）
⑨：10YR3/1 黒褐色砂礫混粘土
⑩：10YR3/1 黒褐色砂礫混シルト（土器を多量に含む、下位に木片集中）
⑪：10YR5/1 褐灰色細砂
⑫：2.5Y6/3 にぶい黄色砂礫
⑬：2.5Y6/1 黄灰色細砂（礫を含む）
⑭：花崗土十コンクリート基礎

第20図　Ⅰ区 西壁土層図（高さ1/80，長さ1/160）

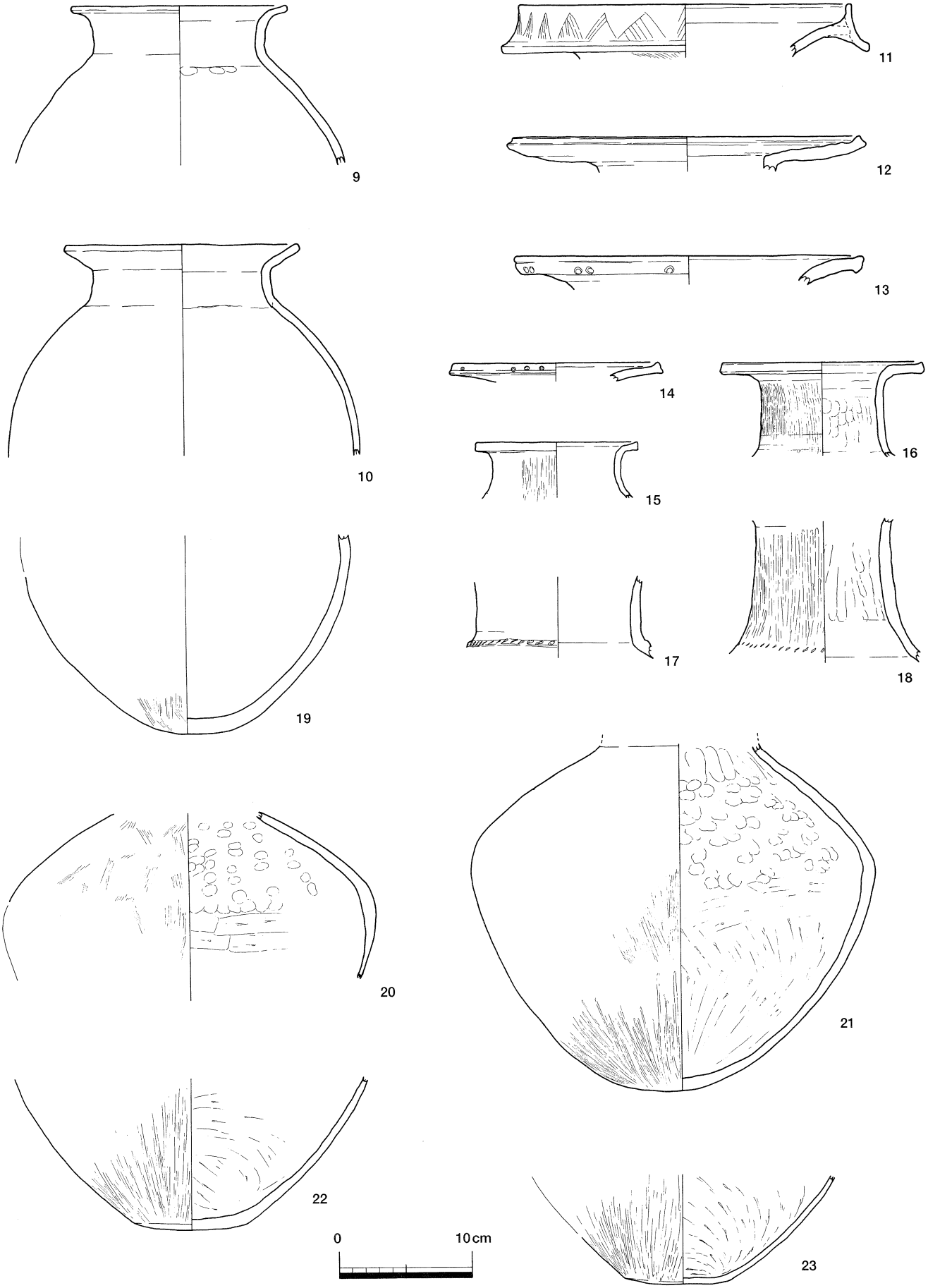


※アミ範囲：遺物集中箇所

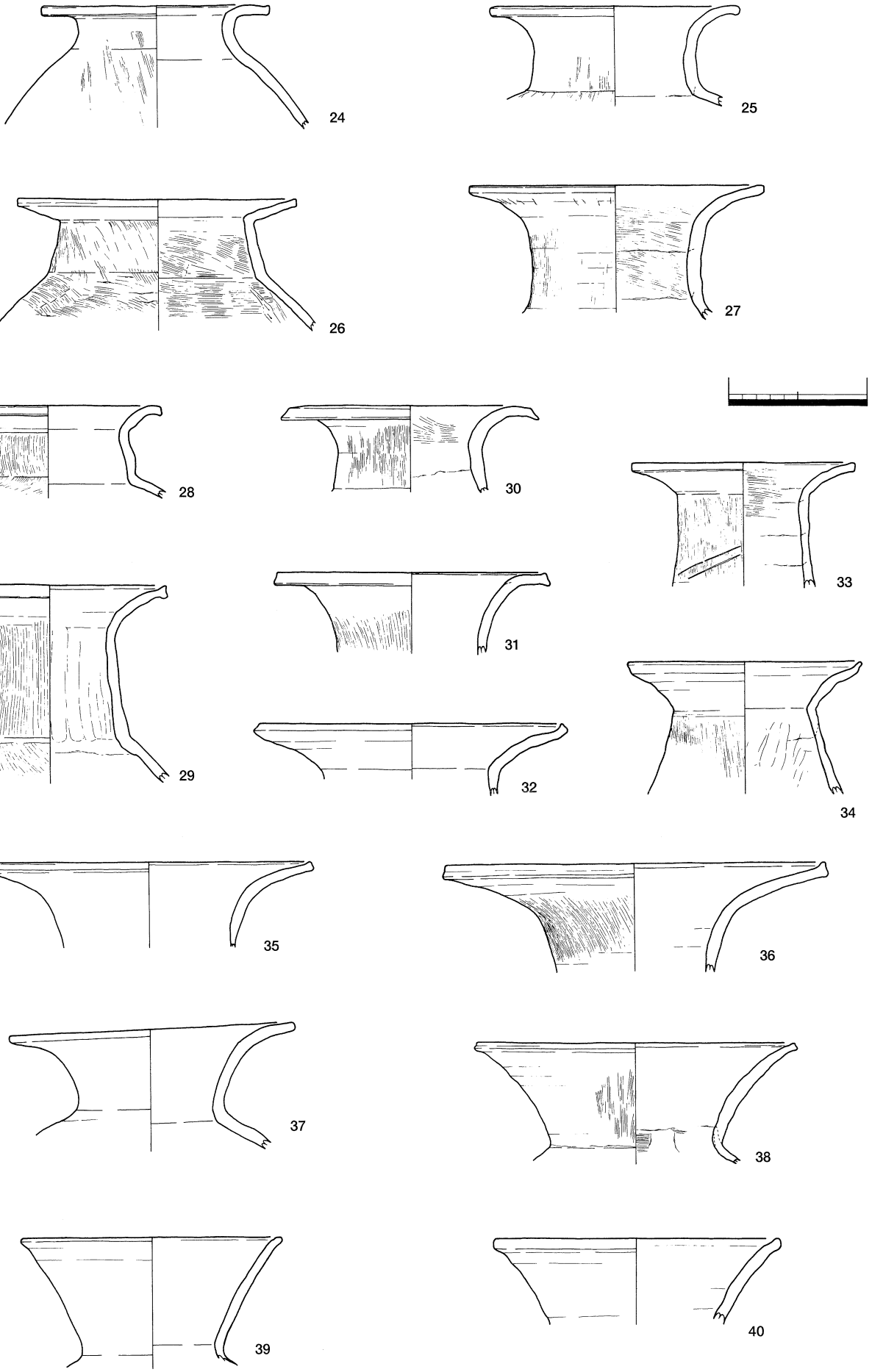
第21図　Ⅰ区SR01遺物出土状況図（1/80）



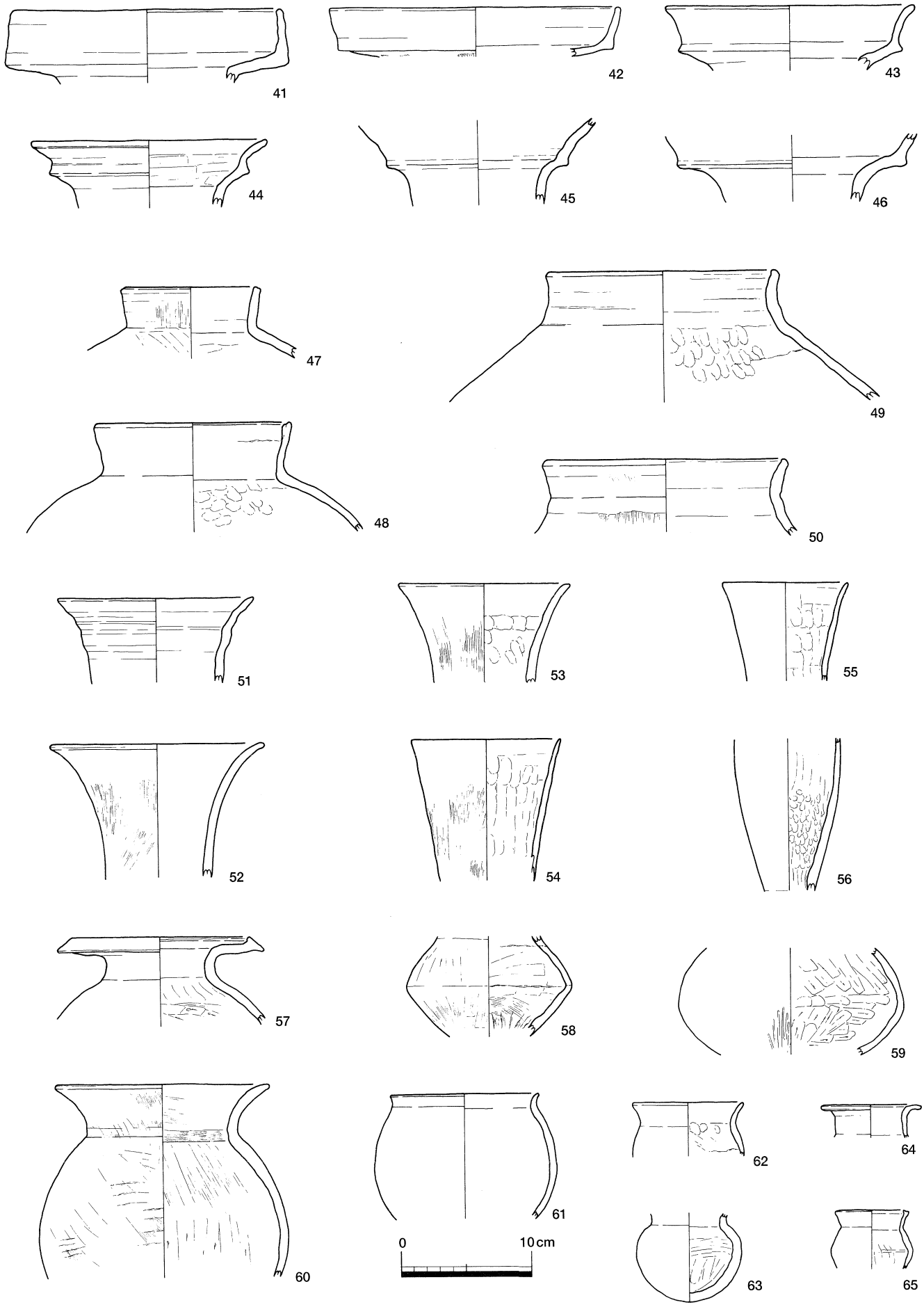
第22図　Ⅰ区10層出土遺物①（1/4）



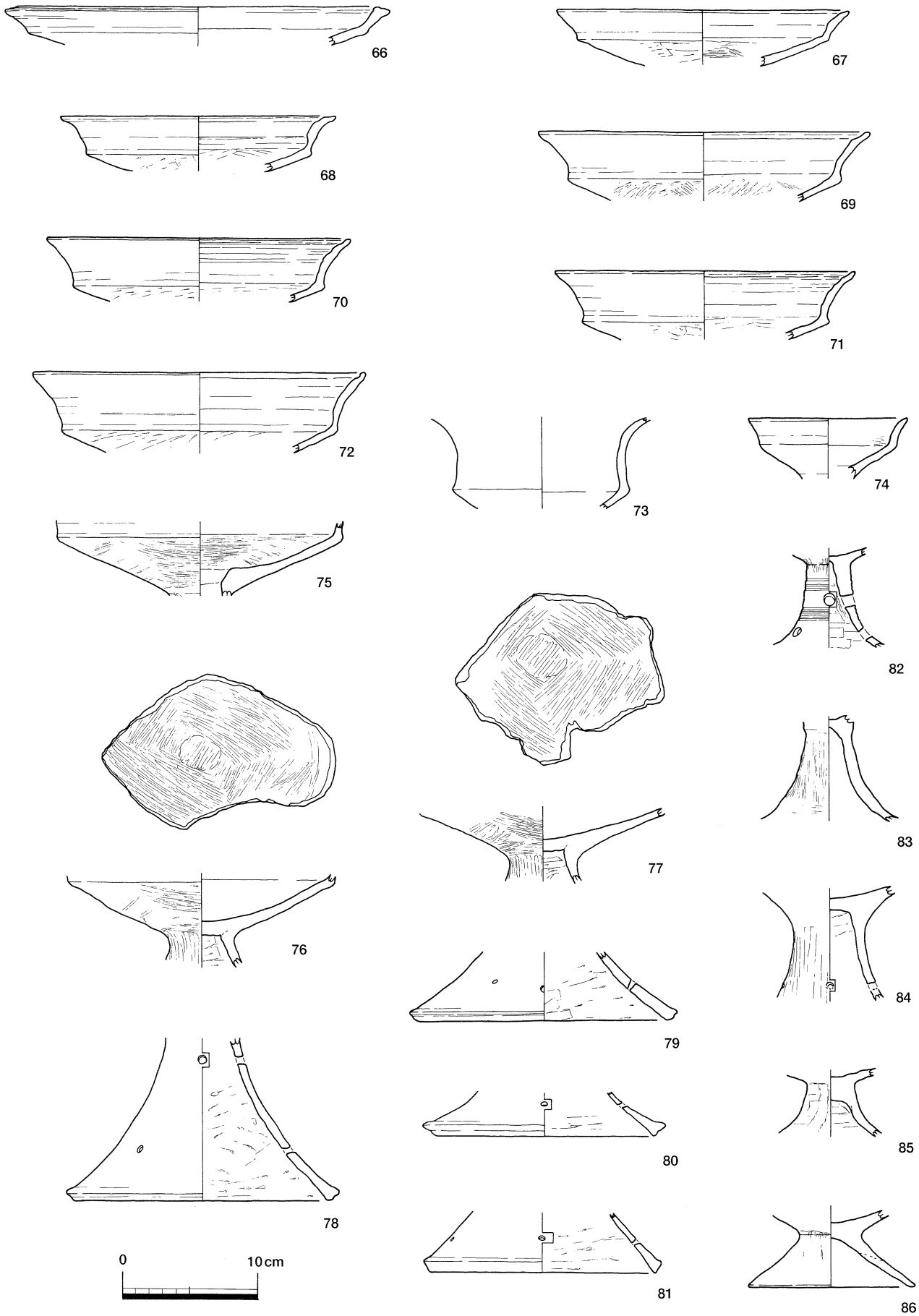
第23図　Ⅰ区10層出土遺物②（1/4）



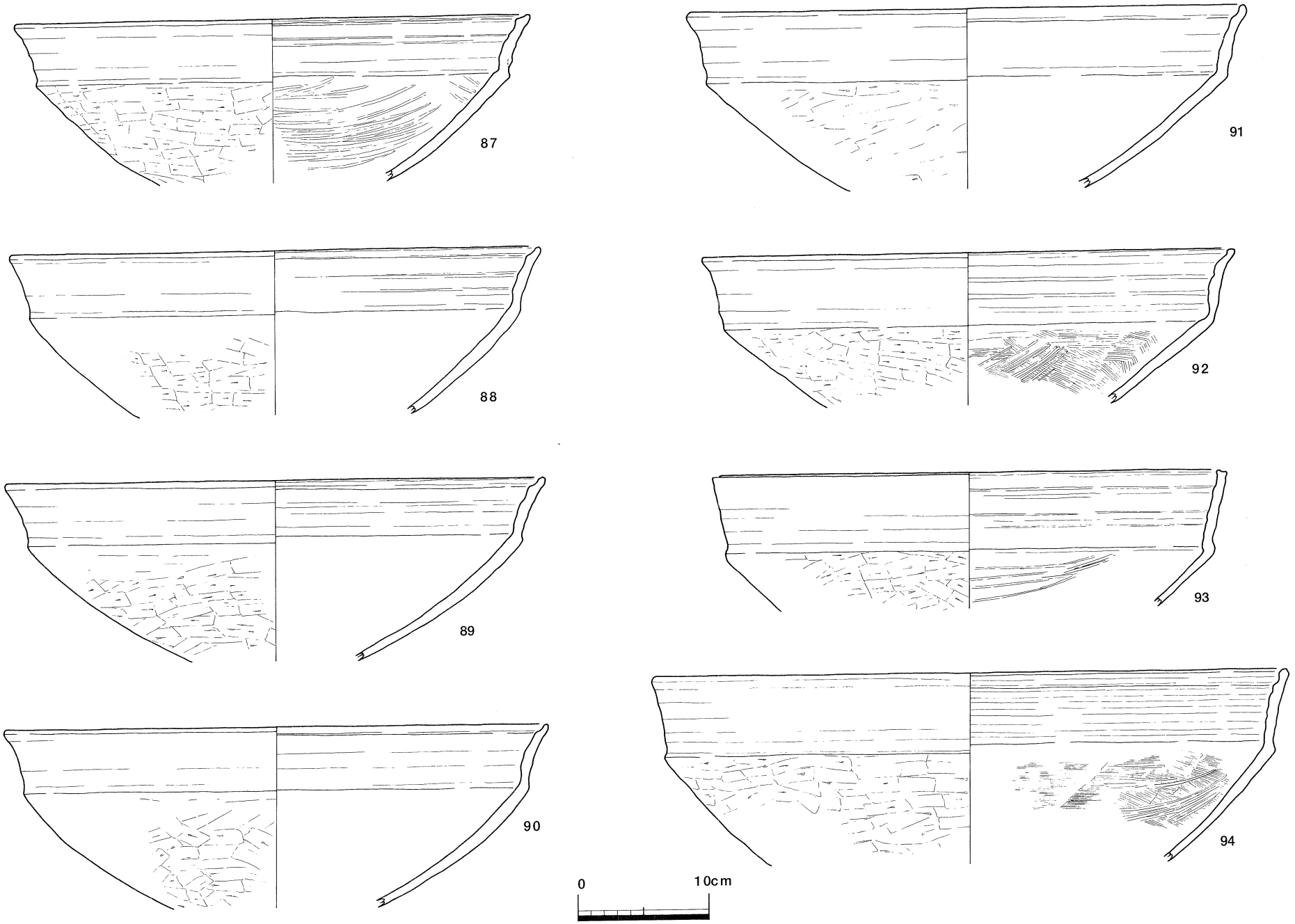
第24図　Ⅰ区10層出土遺物③（1/4）



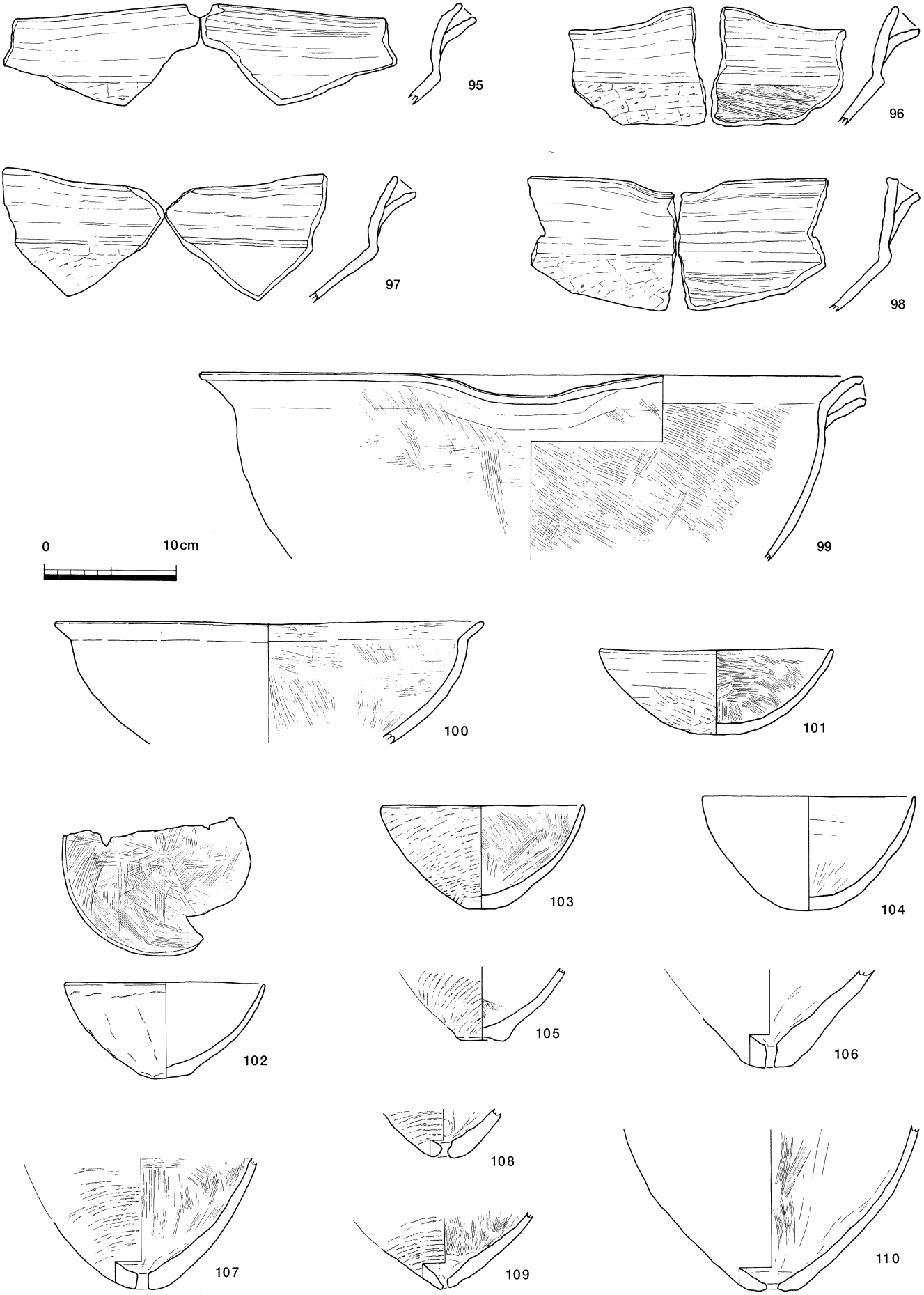
第25図　Ⅰ区10層出土遺物④（1/4）



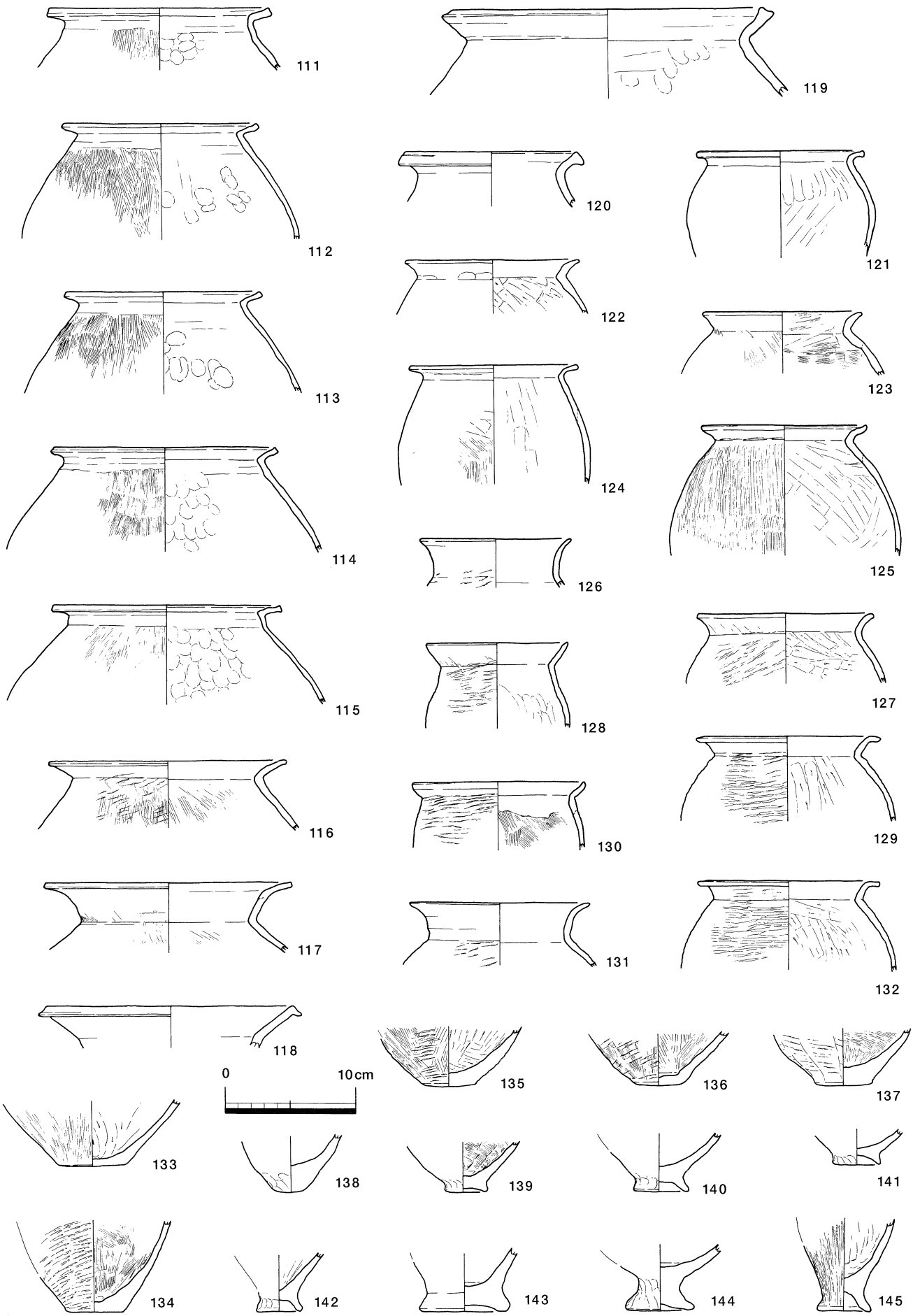
第26図　Ⅰ区10層出土遺物⑤（1/4）



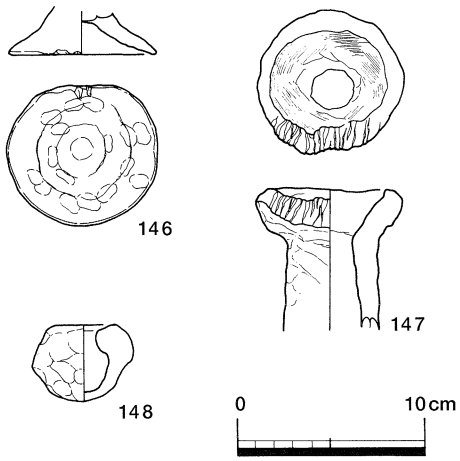
第27図　Ⅰ区10層出土遺物⑥（1/4）



第28図　Ⅰ区10層出土遺物⑦（1/4）



第29図　Ⅰ区10層出土遺物⑧（1/4）

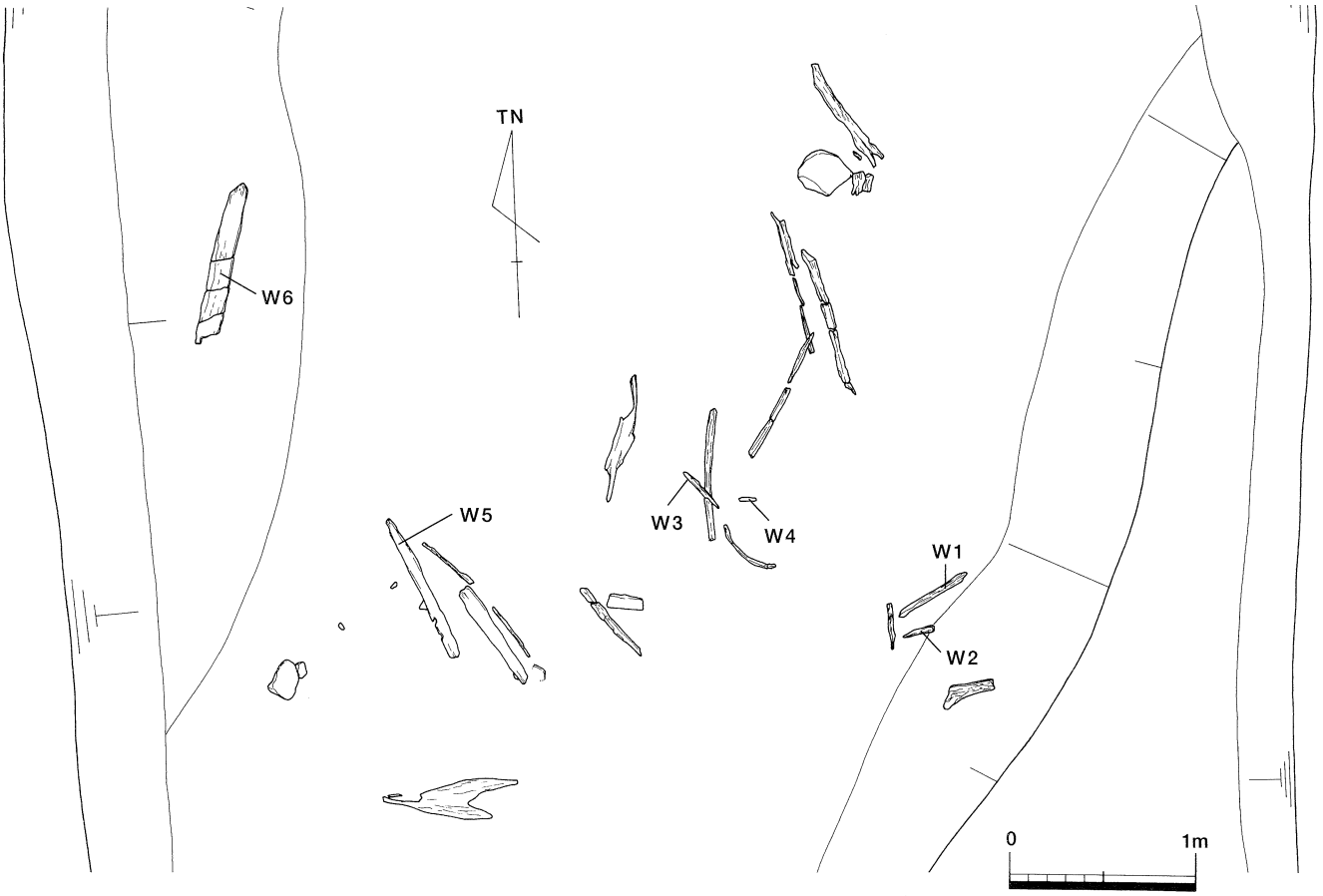


第30図　Ⅰ区10層出土遺物⑨（1/4）

字に屈曲し，口縁部端部を上方に摘み上げる。外面には磨きが加えられる。126～132は，叩き甕。129・132は頸部に叩き痕が残るもので，丸みを帯びた体部から長い口頸部となり，頸部・口縁部でそれぞれ屈曲する。127では，口頸部が短く屈曲する。ともに内面には，頸部に至る削り痕が認められる。128・130は小形のもので，頸部が「く」字に屈曲し，やや内彎して立ち上がる。133～146は底部。133は，下川津B類土器の甕底部。134～137は，外面に叩き痕が認められる。底面は，平底を呈するものとやや不明瞭なものがある。138は手捏ねと考えられるが，角閃石を含む精緻な胎土を用いて焼成も良い。139～144は台付鉢の底部と考える。145は138と同じ胎土を用いた製塩土器。内面に赤色顔料の付着が認められ，容器として使用されたと考えられる。146は底部としたが，端部の刻み，内面の粗雑なつくりから支脚等の受け部の可能性も考えられる。147は支脚で，筒形の中空のもの。内面に刷毛調整が，正面側の端部には刻みが認められる。裏面側は煤が付着している。148は，手捏ねのミニチュア土器。

出土木製品（第31・32図）

⑩層上位では形を留めて遺存するものがあまり見られなかったが，下位では製品と考えられるものが散在して出土している。W１は，枝を払って両先端部を尖らしたもので，円形の穿孔部が見られる。W５と共に部材（織機か？）と考えられる。W２は，曲柄鋤身で左半分が欠損する。右側面には，着柄部と考えられる抉りが見られる。W３は，W２同様の板状のものだが器種は明確ではない。W５は裏面側が欠損しているが棒状のもので，下端部に面取りの加工がなされている。上端部には方形の穿孔がなされており，中位には紐状の圧痕が螺旋状に認められる。W６も加工木で，裏面側の下端部のみが炭化しており転用品と考えられる。断面が三角形となるように木目に沿って正面側に加工がなされる。正面側に方形の３個所の窪みを加工していること，両側面方向から裁断しようと思われる加工が見られることから鋤身を連続して作出しようとした



第31図　Ⅰ区10層木製品出土状況図（1/40）

第32図　Ⅰ区10層出土遺物⑩（1/4）

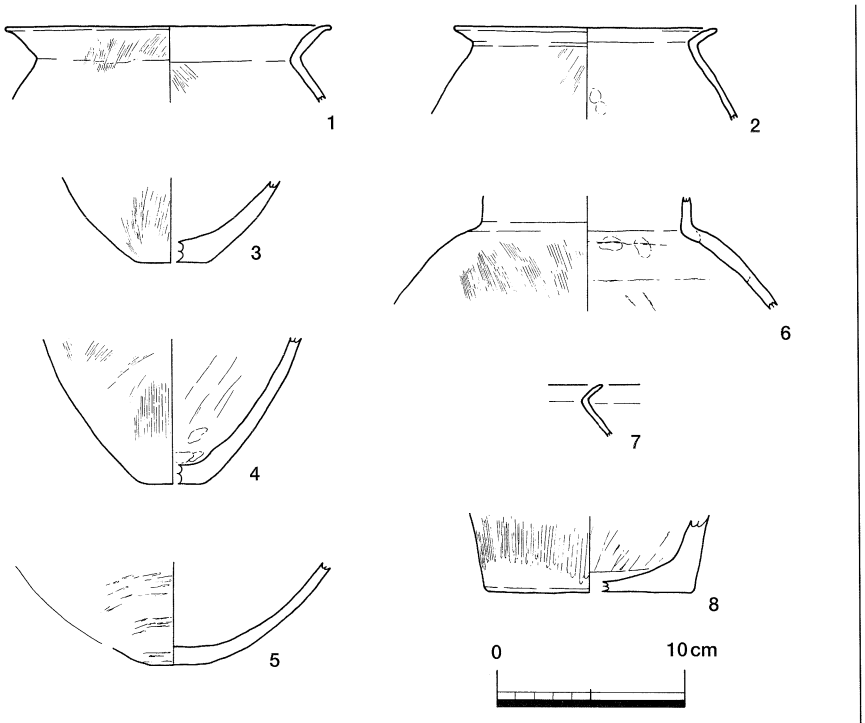
第4節 Ⅴ・Ⅵ区（第6・7図）

当調査区は埋没旧河道の北に位置する低地である。遺構確認は両調査区ともに，黒褐色土（⑤・⑥層）上面とこれを除去した黄色の地山で行った。Ⅵ区は，第1遺構面で時期不明のピットを検出し，須恵器片が出土したのみである。Ⅴ区の第1遺構面では，南北・東西方向に分岐する水路網（SD101・103～106）とこれより後出する東西方向の溝（SD102）を確認した。第2遺構面では南北方向の水路（SD201～203）と溜り状の遺構（SX201）を確認している。

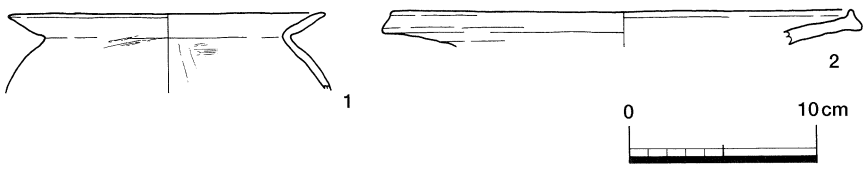
Ⅴ区 第2遺構面（第7図）

ＳＤ２０１（第33・42図）：Ⅴ区西部端で検出した南北方向の溝である。検出レベルは11.22～11.50m，底面は10.93～11.07m。底面のレベルに全体的な傾斜や方向性は認められない。断面は擂鉢状を呈し，埋土は3層に分層できる。最下層には溝が機能していた時のラミナ状の堆積が見られ，溝廃棄後に両岸より砂質土が流入し，その後は緩慢に埋没したと考えられる。遺物は8が最下層より，1～7が上層部より出土している。8は甕底部で，外面にヘラ磨き，内面に削りが認められる。胎土は角閃石を多く含む。弥生時代後期でも前葉頃の所産と考えられる。1・2・7は甕の口縁部。3・4は甕底部。5は壺底部。6は壺の頸体部。溝上層は，甕の形態及び球体化した底部等から弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭と考えられる。よってSD201は，弥生時代後期前葉～古墳時代前期初頭の存続時期が考えられる。

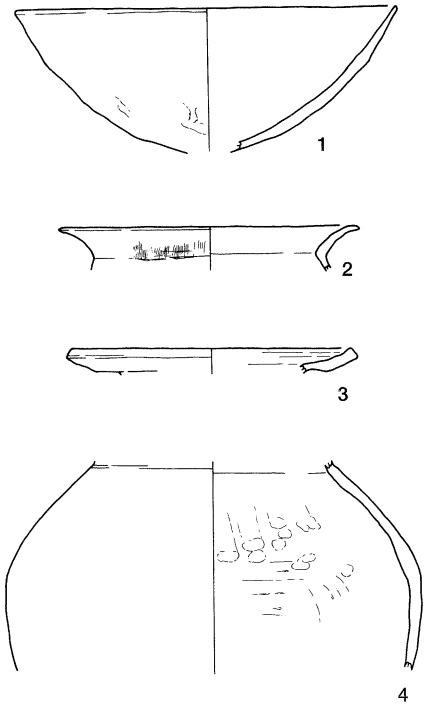
ＳＤ２０２（第34・42図）：Ⅴ区中央部で検出した南北方向の溝である。検出レベルは11.34～11.62m，底面は11.24～11.46m。緩やかに北方へ下る。断面はU字形である。埋土は2層に分割されるが，上位層はSX201と共通している。出土遺物は少量で2点を図化できた。1は甕の口縁部。2は広口壺の口縁部。これらの遺物及びSX201との関連から弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭と考えられる。

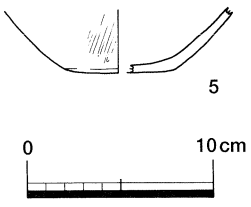


第33図　Ⅴ区 SD201 出土遺物（1/4）



第34図　Ⅴ区 SD202 出土遺物（1/4）





第35図　SX201 出土遺物（1/4）

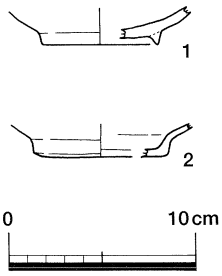
ＳＤ２０３（第42図）：Ｖ区北東隅で検出した南北方向の溝である。検出レベルは11.37～11.47ｍ，底面は11.21～11.27ｍ。南方へと下るものだが，SX201に繋がる箇所で分岐し急激に浅くなる。断面はU字形である。埋土はSD201の上部層とほぼ共通する黒褐色土の単層である。遺物は出土していないが，SX201との関連及び埋土の特色から弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭と考えられる。

ＳＸ２０１（第35図）：Ｖ区北東隅で検出した浅い窪み状の遺構である。検出レベルは11.55～11.58m，底面は11.48～11.53m。埋土は灰白色砂の単層である。SD202及びSD203に接する箇所が浅い溜り部となったもので，遺物が一定量出土した。撹乱のため明確ではないが，SD204に繋がるものと考えられる。１は鉢。２は甕口縁部。３は広口壺の口縁部。４は壺の体部。５は底部である。遺物より弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭と考えられる。

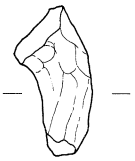
ＳＤ２０４（第42図）：Ｖ区南東隅で検出した小溝である。検出レベルは11.60～11.61m，底面は11.50～11.52ｍ。断面はU字形で，埋土は黒褐色砂混じりシルトの単層である。遺物は出土していないが，SX201との関連及び埋土の特色から弥生時代後期後半～終末期と考えられる。

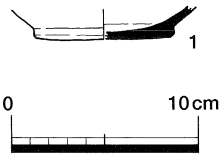
Ⅴ・Ⅵ区第１遺構面（第６図）

ＳＤ１０１（第36・41図）：Ｖ区中央部を南北に走る溝である。中央部で分岐（SD101W・ＳＤ101E）した箇所がある。検出レベルは11.45～11.70ｍ，底面は11.26～11.58ｍを測り，緩やかに北方へ下る。埋土は灰褐色シルト～砂混じりシルトの単層である。出土遺物は少量で，黒色土器椀（１），土師器杯（２）から概ね10～12世紀代の所属時期が考えられる。

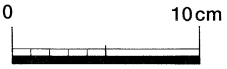


第36図 Ｖ区SD101 出土遺物（1/4）





第37図 Ⅵ区 出土遺物（1/4）



第38図 Ｖ区SD102 出土遺物（1/4）

ＳＤ１０２（第38・40図）：Ｖ区中央部を東西に横断する溝である。方向は現況の地割にほぼ一致する。検出レベルは11.57～11.62ｍ，底面は11.50～11.54ｍ，緩やかに東方へ下る。埋土は黄灰色砂混じりシルトの単層。出土遺物は，土師質土器煮沸具の脚部１点のみ。遺物及び埋土の特徴，切り合い関係から中世と考えられる。

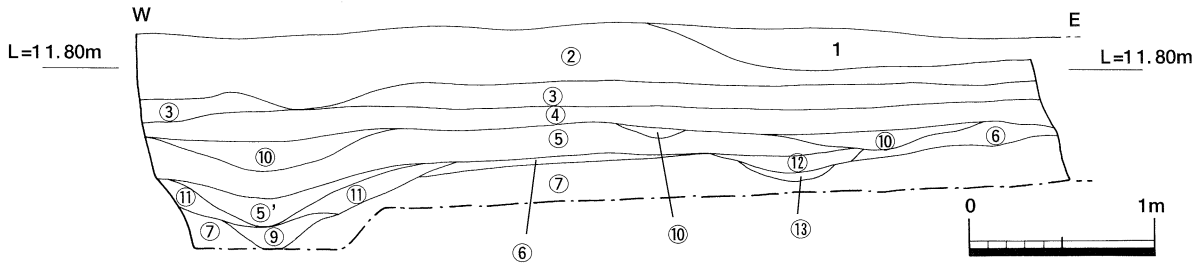
ＳＤ１０３（第39図）：Ｖ区北東部，SD105より発する南北方向の小溝である。方向は現況の地割にほぼ一致する。検出レベルは11.49～11.52m，底面は11.44～11.47ｍ，緩やかに北方へ下る。埋土は灰褐色シルト。出土遺物はないが，埋土の特徴からSD101と同時期と考えられる。

ＳＤ１０４（第39図）：Ｖ区北東部，SD105より発する南北方向の小溝である。東西方向にも分岐する箇所がある。検出レベルは11.48～11.52m，底面は11.44～11.47m，緩やかに北方へ下る。埋土は灰褐色シルト。出土遺物はないが，埋土の特徴からSD101と同時期と考えられる。

ＳＤ１０５（第40図）：Ｖ区北東部で検出した東西方向の溝である。検出レベルは11.52～11.56ｍ，底面は11.38～11.41m，緩やかに西方へ下る。南側肩部が拡張しており，東において分岐するものと思われる。埋土は灰褐色砂混じりシルト。出土遺物はないが，埋土の特徴からSD101と同時期と考えられる。

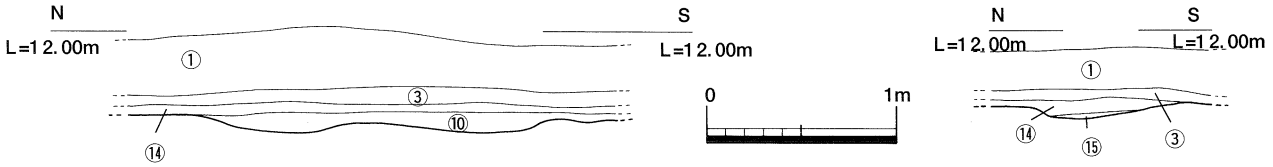
ＳＤ１０６（第41図）：Ｖ区西部端で検出した南北方向の溝である。検出レベルは11.55～11.68ｍ，底面は11.45～11.57m，緩やかに北方へ下る。埋土は灰褐色シルト。出土遺物はないが，埋土の特徴からSD101と同時期と考えられる。

以上，当該期の溝を位置関係・底面高からまとめると，幹線と考えられるSD101が北流し，SD106がこれに並走する。SD105は，SD101から東に配水を行うが，途中で北方向のSD103，104にも配水するものと考えられる。



①：花崗土
②：耕作土
③：2.5Y6/2 灰黄色シルト質極細砂
④：2.5Y6/4 にぶい黄色シルト質極細砂
⑤：7.5YR3/1 黒褐色粗砂混シルト（しまる）
⑥：7.5YR3/2 黒褐色砂質シルト
⑦：2.5Y6/4 にぶい黄色細砂～シルト（地山）
⑩：7.5YR5/2 灰褐色シルト（SD101,103,104 埋土）
⑤'：10YR3/1 黒褐色シルト（粘質，SD201埋土）
⑪：10YR4/1 褐灰色砂質シルト（SD201埋土）
⑨：7.5YR3/1 黒褐色シルト・10YR6/1 褐灰色の細砂のラミナ状堆積（SD201 埋土）
⑫：10YR3/2 黒褐色シルト（SD202埋土）
⑬：10YR5/12 褐灰色細砂（SD202埋土）

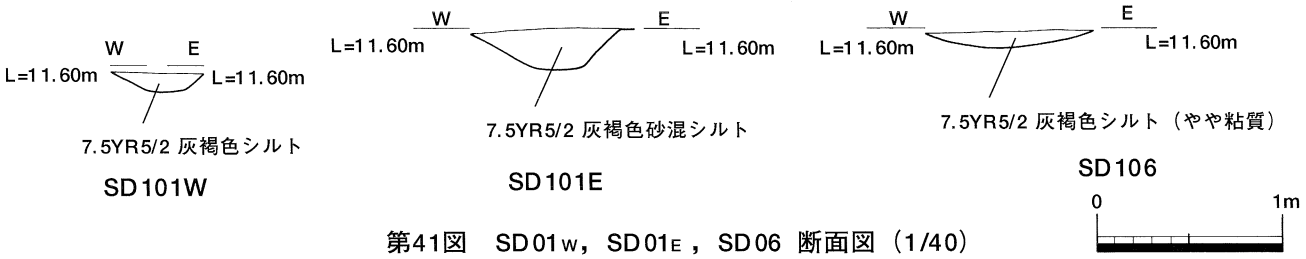
第39図　Ⅴ区 北壁土層図（1/40）



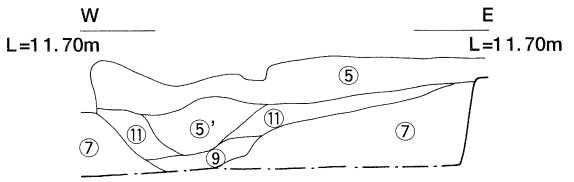
①：花崗土十現耕作土
③：2.5Y6/2 灰黄色シルト質極細砂
⑭：10YR7/6 明黄褐色シルト
⑩：7.5YR5/3 灰褐色砂混シルト（SD105埋土）

①：花崗土十現耕作土
③：2.5Y6/2 灰黄色シルト質極細砂
⑭：10YR7/6 明黄褐色シルト
⑮：2.5Y6/1 黄灰色砂混シルト（SD102埋土）

第40図　Ⅴ区 東壁土層図①②（1/40）

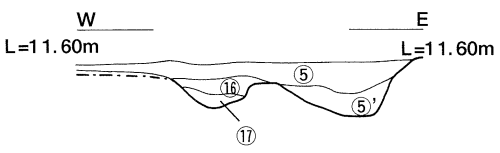


第41図　SD01W，SD01E，SD06 断面図（1/40）



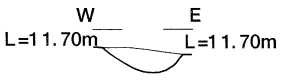
⑤：7.5YR3/1 黒褐色粗砂混シルト（しまる）
⑤'：10YR3/1 黒褐色シルト（粘質）
⑪：10YR4/1 褐灰色砂質シルト
⑨：7.5YR3/1 黒褐色シルト・10YR6/1 褐灰色細砂のラミナ状堆積（SD201埋土）
⑦：2.5Y6/4 にぶい黄色細砂～シルト（地山）

断面①土層図



⑤：7.5YR3/1 黒褐色粗砂混シルト（しまる）
⑤'：10YR3/1 黒褐色シルト（粘質，SD203埋土）
⑯：2.5Y7/1 灰白色細砂（SD202埋土，SX201と共通）
⑰：7.5YR3/1 黒褐色シルト・2.5Y7/1 灰白色細砂のラミナ状堆積（SD202埋土）

断面②土層図



SD204

第42図　断面①，② SD204 断面図（1/40）

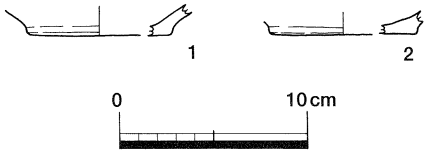
第５節　Ⅲ区（第８図）

当調査区は，埋没河川南側の微高地に位置する。北西部に低地部分があり，これを境に南側で礫層が認められ，以南は微高地が広がる。表土（花崗土）のほぼ直下で地山が認められ，遺構検出面とした。下記に報告する以外にも，ピット，長方形の土坑が散在して検出されたが，出土遺物がなく埋土の特色より近世・近代に比定されることから詳細は省略する。

ＳＤ０１（第43・44図）：調査区の南端部で確認した東西方向の溝である。検出レベルは，12.43～12.48ｍ，底面は12.30～12.33ｍ。流路方向は明確でない。埋土は褐灰色シルトの単層である。出土遺物は少量で，図化できるものは土師器杯底部（10世紀頃）１点のみである。

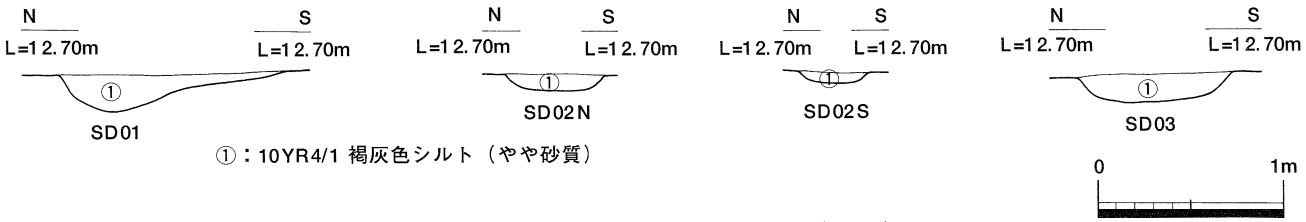
ＳＤ０２（第44図）：調査区の南部で確認した東西方向の溝である。花崗土による整地痕が激しく，中央部で明確に検出できなかったため３分割（SD02W・SD02N・SD02S）となったが，本来は同一の溝と考えられる。検出レベルは，12.39～12.49ｍ，底面は12.35～12.43ｍ。流路方向は明確でない。埋土は褐灰色シルトの単層である。出土物はないが，埋土がSD01及びSD03と同様であるため同時期と考えられる。

ＳＤ０３（第43・44図）：調査区の南端部で確認した東西方向の溝である。検出レベルは，12.28～12.49ｍ，底面は12.28～12.34ｍ。緩やかに西方に下る。埋土は褐灰色シルトの単層である。出土遺物は少量で，図化できるものは土師器杯底部（10世紀頃）。



第43図 Ⅲ区SD01、03 出土遺物（1/4）

ＳＤ０４（第47図）：調査区の北西部で確認した南北方向の溝である。



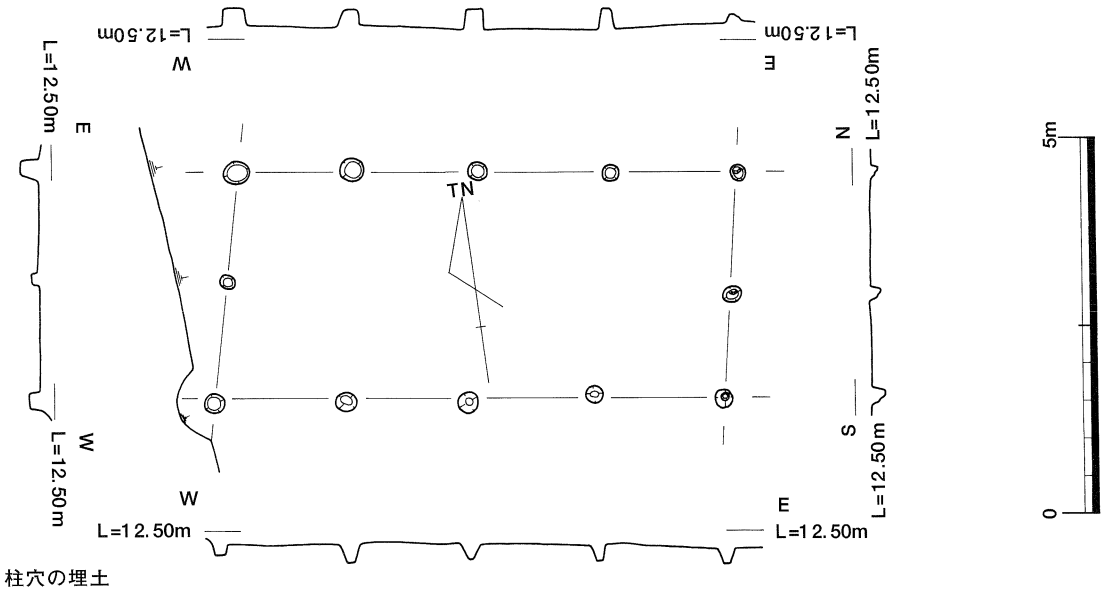
第44図　Ⅲ区SD01～SD03 断面図（1/40）

現況の地割方向とほぼ一致し，坪界に相当する調査区の北端部付近で僅かに東に傾く。検出レベルは，12.10～12.25ｍ，底面は12.04～12.15ｍ。緩やかに北方に下る。埋土は，明黄褐色シルト及び最下部の黄灰色シルト質細砂に分割される。出土遺物はない。埋土及び周辺の状況から近世～近代と考えられる。

ＳＤ０５（第47図）：調査区の北西部で確認した南北方向の溝である。現況の地割方向とほぼ一致し，坪界に相当する調査区の北端付近で僅かに西に傾く。検出レベルは，12.03～12.24m，底面は12.04～12.11m。緩やかに北方に下る。埋土は明黄褐色シルトの単層で，出土遺物はない。埋土及び周辺の状況から近世～近代と考えられる。

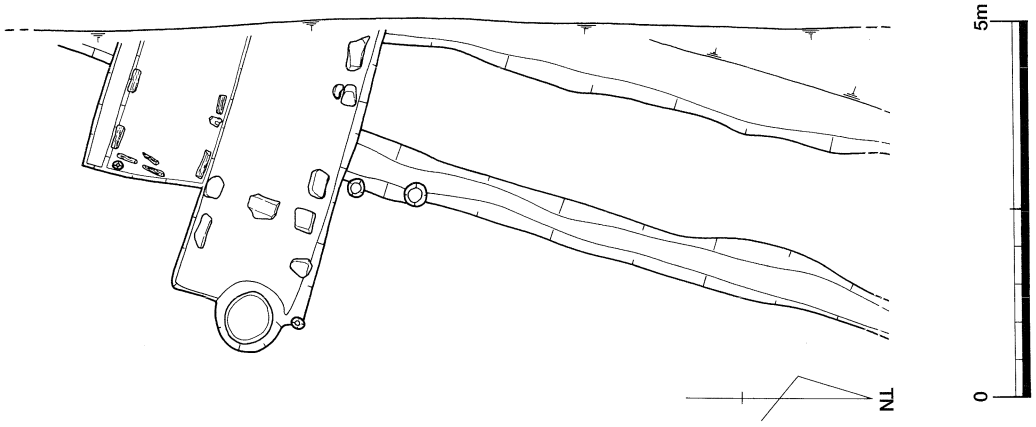
ＳＤ０１（第45図）：調査区の西部で確認した２×４間の側柱建物である。梁間6.75ｍ，桁行3.05ｍの規模をもつが，西側が調査区外のため明確ではない。主軸は現況の地割方向に一致する。柱間の距離は，梁間で約1.7ｍ，桁行で約1.5ｍ。柱穴は，ほぼ円形で底面のレベルもほぼ一定して見られる。埋土は全て黄灰色シルト質極細砂で，遺物の出土はなかった。埋土及び周辺の状況から近世～近代と考えられる。

ＳＸ０１（第46図）：調査区の北西部で検出した近代以降の所産である水場遺構である。長方形の掘り込みが段差により２分割し，砂礫層の末端部となる北東隅には井戸（鉄製の井側）が設置されている。南部のものが一段下がり角材を，北は角礫を敷き，それぞれ上部構造物の土台と考えられる。またSD04・05を切り込んで開削されているが，これより南ではSD04がややずれた位置で検出されており，両溝の分岐点，若しくは西への屈曲点に位置していたと考えられることからSD04・05と関連した施設であると推察できる。地元の人の話しによれば，昭和初期まで渇水時に使用された灌漑用の水車であるという。

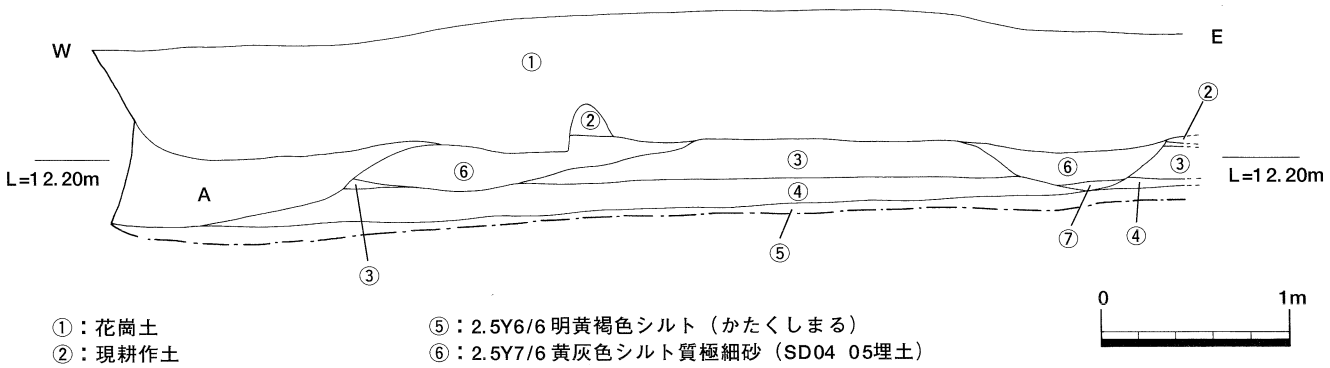


柱穴の埋土
全て 2.5Y6/1 黄灰色シルト質極細砂

第45図　Ⅲ区SB01平・断面図（1/100）



第46図　Ⅲ区 SX01平面図（1/100）



①：花崗土
②：現耕作土
③：2.5Y6/3 黄灰色シルト質極細砂
④：10YR6/1 褐灰色シルト
⑤：2.5Y6/6 明黄褐色シルト（かたくしまる）
⑥：2.5Y7/6 黄灰色シルト質極細砂（SD04 05埋土）
⑦：2.5Y6/3 にぶい黄色細砂（SD04埋土）
A：撹乱

第47図　Ⅲ区北壁土層図（1/40）

第６節 Ⅳ区（第９図）

当調査区の南東部はⅤ・Ⅵ区より続く低地であり，その埋土が弥生時代～古代の遺物包含層（⑤・④層）となっている。以北は微高地となり，埋没旧河道の方向に砂礫層が認められる。この砂礫層は，近現代の撹乱を受けており（土取り？），この下位で石組みの井戸（ＳＥ01）を確認した。この他，旧耕作土直下となる近代の整地層直下で，多数のピット，長方形の土坑，井戸等を上記の遺物包含層上面で，微高地上では地山において検出した。検出時にはＳＥ01と併存するものと想定したが，掘削の結果，出土遺物の大半は近代以降の所産で，また調査区は昭和初期まで宅地であったが，その後耕作地になったという話を地元の人より得た。このことから，SE01を除くⅣ区の遺構群は近代の旧宅地跡と考えられる。

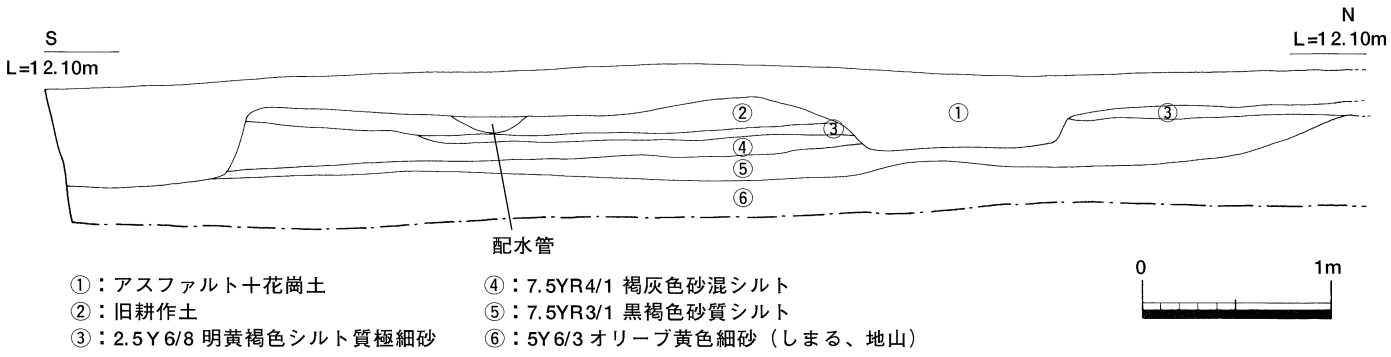
井戸（第51・52図）

ＳＥ０１（第　図）：調査区中央部で確認した石組み井戸である。北半は大きく削平され，石は抜かれている。このため掘り方の平面形は楕円のように見られるが，本来は径約2mの円形と考えられる。掘り方の断面は逆台形をし，中位より上方にハの字に開くものと考えられる。拳～人頭大の角礫が用いられ，井側が径0.8ｍ程の円もしくは隅丸方形となるように組まれている。検出高の約１ｍで底面に達し，細砂層から湧水が得られる。遺物が底面付近で１点出土している。１は土師質土器煮沸具の脚部で中世と考えられる。

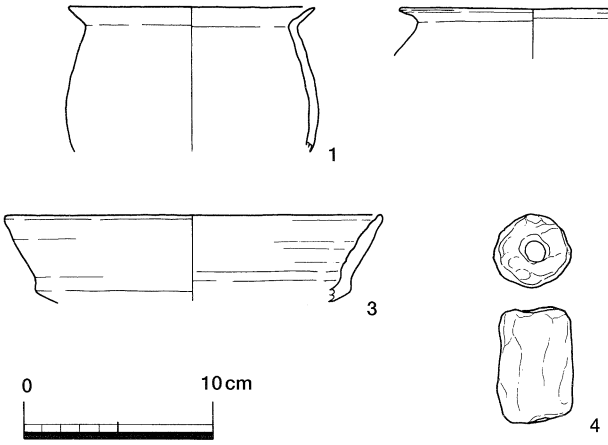
包含層（第48図）

⑤層（第49図）：Ⅳ区の南部，地山とした黄色細砂層の上部に堆積する弥生土器片を含む遺物包含層。１は，頸部において「く」字に屈曲する甕で，体部は下膨れとなる。２は甕口縁部で，口縁が矮小化し肩が張る。３は高杯口縁部で，口縁部は長く連続した横ナデが加えられる。４は管状土錘である。

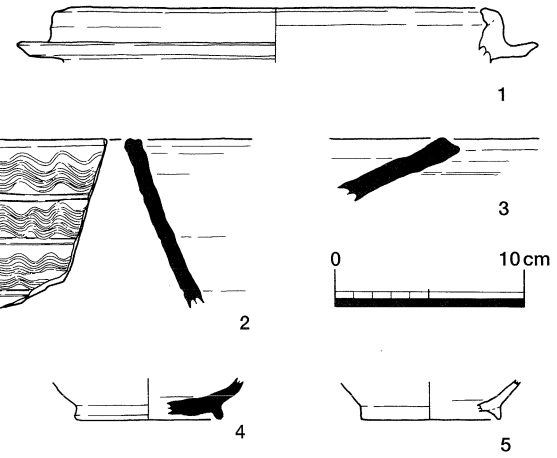
④層（第50図）：Ⅳ区の南部，⑤層の上部に堆積する古代の遺物包含層。１は土師器羽釜の口縁部で，端部は内側に折り込まれ，鍔端部は上方に伸ばされる。２・３は大形の須恵器片。２は，外面に凹線と波状文が施される。４は須恵器杯底部。５は黒色土器Ａ類椀の底部である。



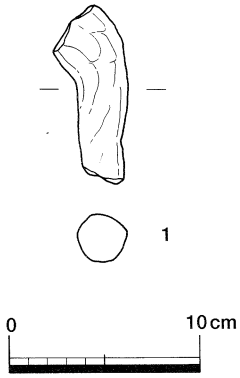
第48図 Ⅳ区西壁土層図（1/40）

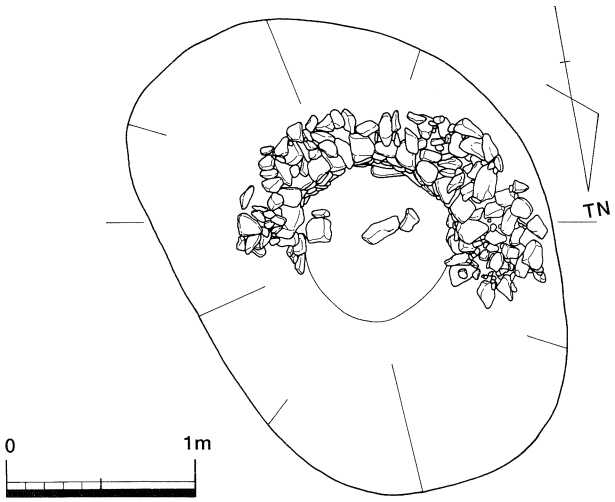


第49図 Ⅳ区⑤層出土遺物（1/4）

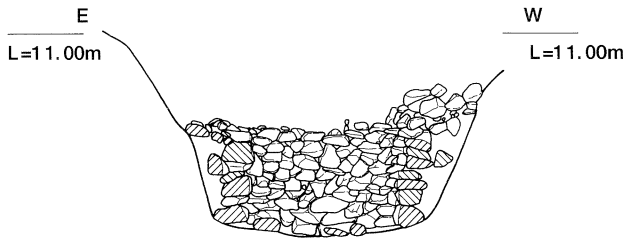


第50図 Ⅳ区④層出土遺物（1/4）





第51図 Ⅳ区 SE01出土遺物（1/40）

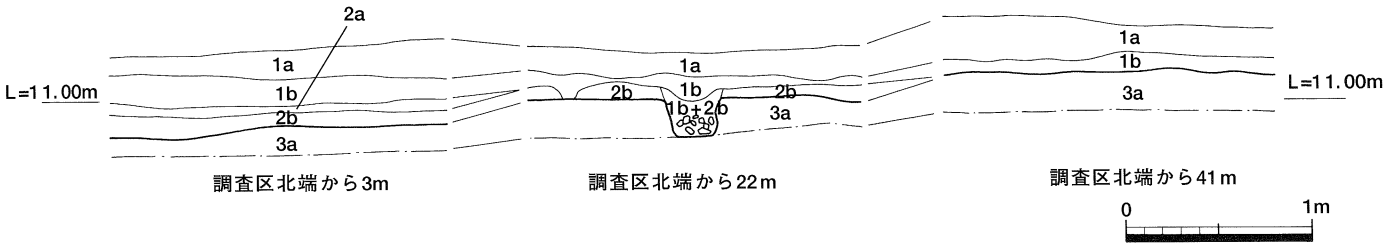


第52図 Ⅳ区 SE01 平・断面図（1/40）

第７節 Ⅶ区

Ⅶ区基本層序（第53図）

第３章第２節「遺跡の概要と基本層序」で述べているとおり，Ⅶ区は微高地部分にあたる。この為，後世の影響を受けている部分が多く認められ，調査区北半分の耕作土・床土下は中世頃と想定される褐灰色シルトの土壌層（水田層）が存在するのに対して，南半分の現耕作土・床土下は基盤層である明黄褐色シルトが現れる。基盤層である明黄褐色シルトは南から北に向けて緩やかに下るが，調査区北端では，耕作による上部土壌層からの撹乱があり，上面は凹凸が激しい。



1a　現耕作土
1b　床土　10YR6/3 にぶい黄橙色シルト質極細砂
2a　10YR6/1 褐灰色シルト
2b　10YR5/1 褐灰色シルト
3a　10YR7/6 明黄褐色シルト（ベース）

第53図 Ⅶ区東壁土層図抜粋

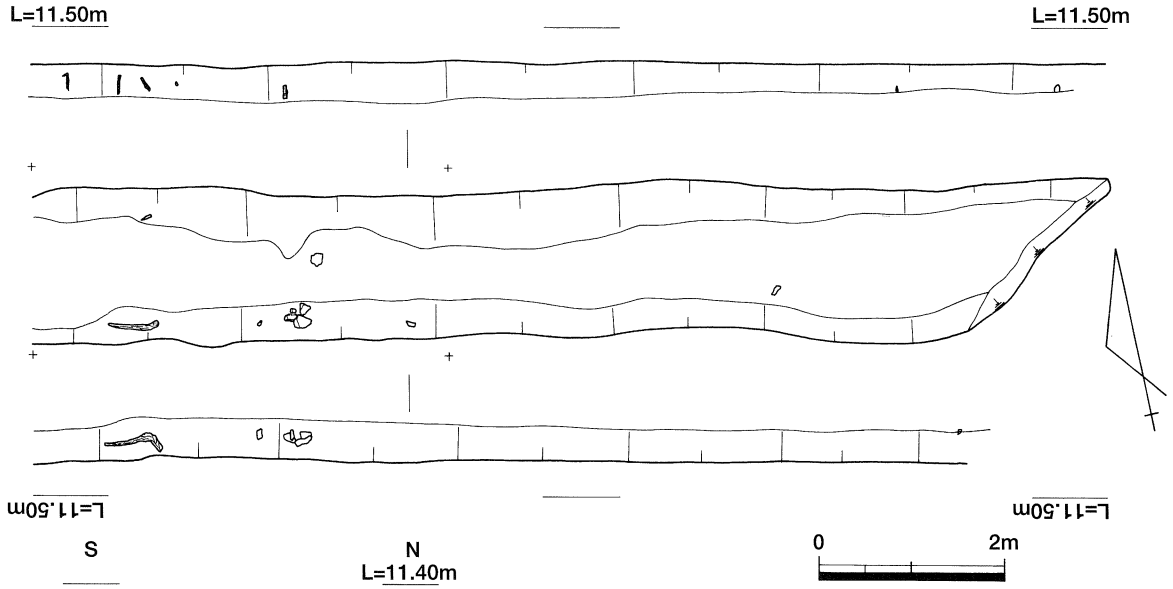
Ⅶ区遺構

Ⅶ区は，今回実施した宗高坊城遺跡の北端にあたる調査区である。遺構は溝１（ＳＤ01），土坑1（ＳＫ01），出水状遺構１（ＳＸ01），石組み暗渠（ＳＤ02・03），鋤溝群等を確認した。

ＳＤ０１（第54・55図）：調査区の南端で確認した東西溝である。西半部南側では肩が広がる部分がある。溝の規模は幅1.60ｍ，深さ50㎝であり，土層は４層に分層できる。堆積土のうち，２層にはにぶい黄橙色シルトをブロック状に含むことから，ある時期，人為的に溝が埋められた可能性が考えられる。溝の特徴として溝底近くに杭が打たれている状況を確認した。杭は，溝の東半分を中心に確認しているが，検出した杭の配置に計画性は認められない。確認した杭は残存状況が悪く最も残りのよいものでも20㎝程度である。溝内では縦杭とは別に横方向に置かれたと想定される木も1点認められるが，これのみであることから，すべての箇所に横木が使用されていたかは不明である。確認した杭が溝内に露出している状況や杭の確認位置が部分的である状況から，護岸用として部分的に打設された杭であると考えられる。

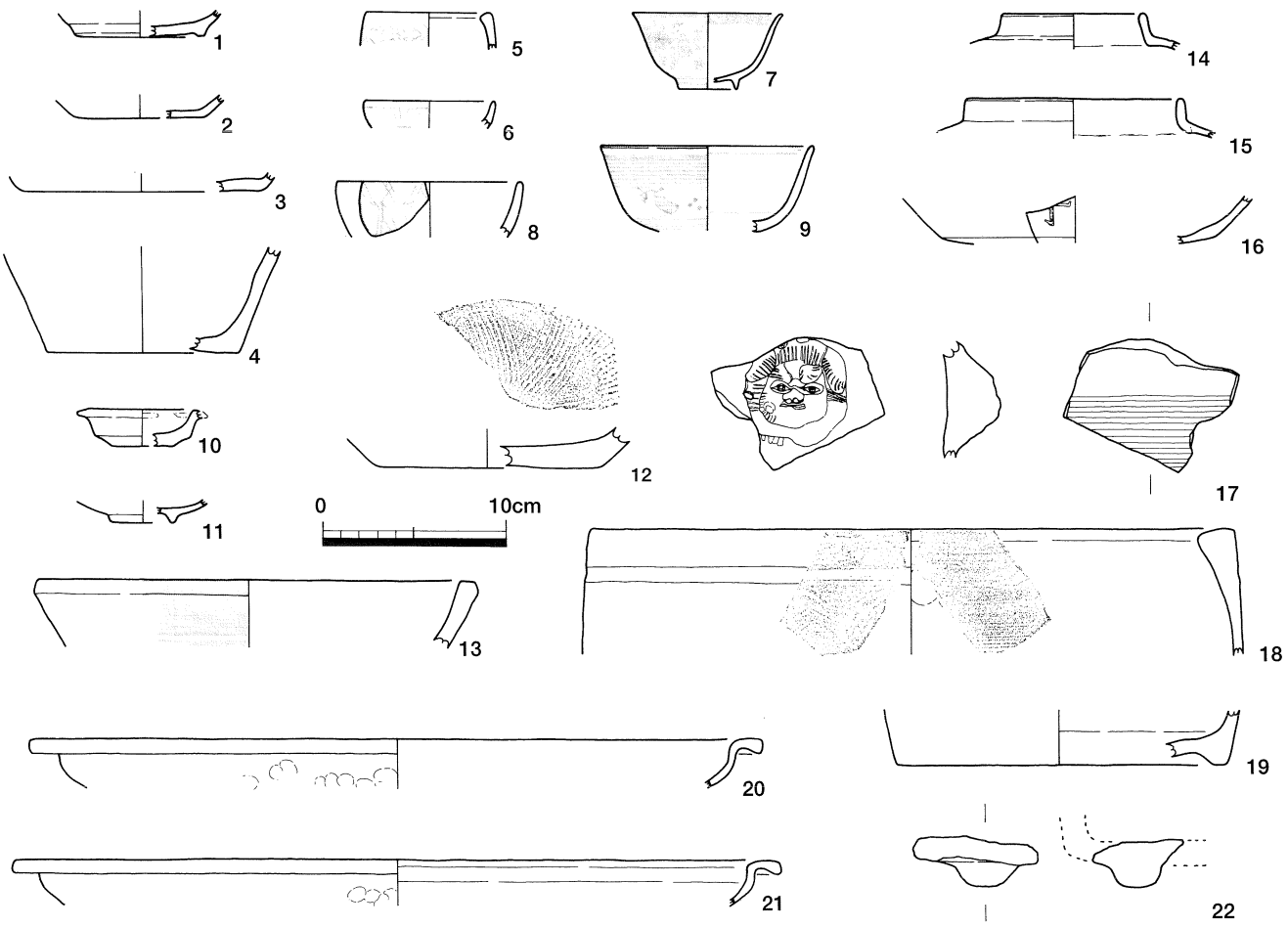
溝の方向から，現在高松平野に残存する条里方向に合致する溝であるが，方１町の土地割りからは27ｍ北にずれている。Ⅶ区の南側は調査前には民家が存在していたことを考え合わせると，溝は屋敷の北側を区画する役目と，水田への水懸かりを兼ねた機能であったものと想定される。出土遺物は9～10世紀にかけての遺物も少量見られるが，周辺部からの混じり込みと考えられ，遺物の量から少なくとも江戸時代には開削され機能していた溝が，周辺部の配水方法の変化に伴い18世紀後半以降に廃棄されたものと想定される。

１～22がＳＤ01から出土した遺物である。１～４は須恵器である。1は杯の底部である。華奢な高台がつく。２は平底の杯である。３は底径から皿になるものと考えられる。４は壺の底部である。５～９は染付である。5は火舎であると考えられ，口縁部外面には四方襷文を描く。６は小皿で外面には赤絵で太陽?を描く。７は小碗で外面は菊に梅の文様を，口縁部内面は四方襷文を描く。8・9は碗である。８は外面には二重網目文を９は外面に圏線と中央部に不明文を描く。10～13は陶器である。10は蓋のみの出土であるが，急須の蓋になるものと想定される。11は碗である。12は明石焼の擂鉢である。体部の条溝が見込みに入らないことから，18世紀後半以降のものであると考えられる。13は肥前刷毛目鉢である。形態等から18世紀中頃から末にかけてのものと想定される。14～21は瓦質土器である。14・15は土釜の口縁部である。16は土釜の体部で，字の判読はできないが，外面には粘土で貼りつけた文字が認められる。17～19は火鉢である。17は体部片であるが外面には獅子の顔に見える突起物を作り付けてある。内面調整のハケメの位置から把手になるものと想定される。直接は接合しないが，内面の調整法等から，17・18は同一個体であると考えられる。18は体部外面に凹線が1条引かれ，その下には草のような模様が描かれている。内面下半はハケメである。19は底部である。20・21は鍋である。形態等から内耳がつくものと想定されるが，この破片には内耳は認められない。22は破片であるが土師器の火鉢の底部であると想定される。

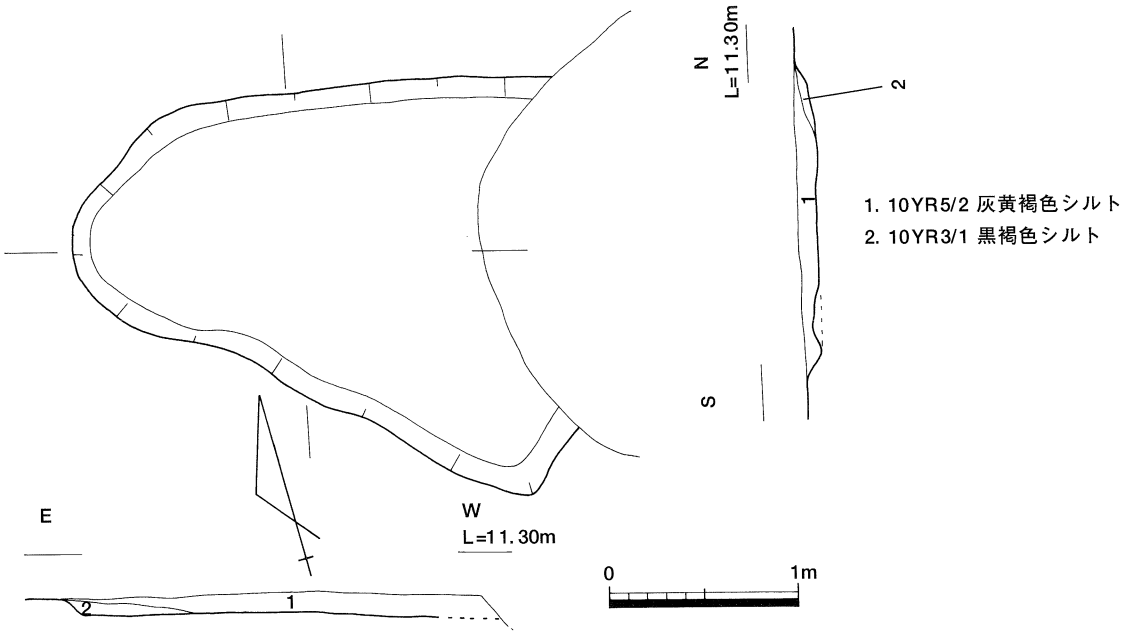


1　10YR5/1 褐灰色シルト
2　10YR5/1 褐灰色シルト（にぶい黄橙色シルトをブロック状に含む）
3　10YR4/1 褐灰色シルト
4　10YR7/3 にぶい黄橙色シルト

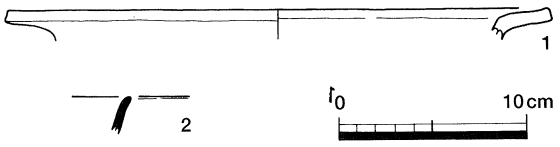
第54図　ＳＤ０１平・断面図



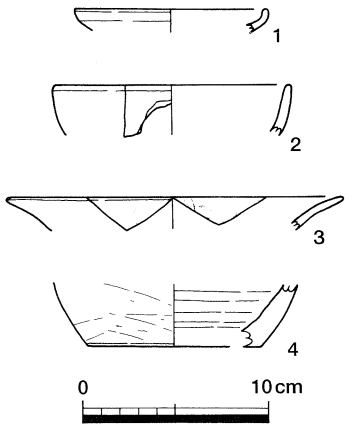
第55図　ＳＤ０１出土遺物（1/4）



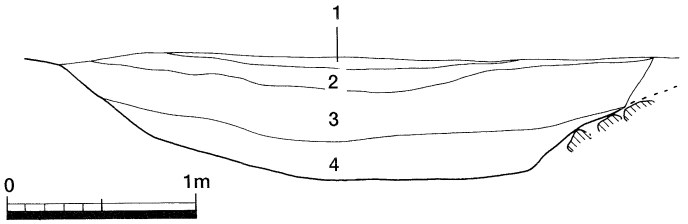
第56図 SK01平・断面図



第57図 SK01出土遺物（1/4）



第59図 SX01出土遺物（1/4）



1. 10YR6/1 褐灰色シルト
2. 10YR5/1 褐灰色シルト
3. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
4. 10YR4/1 褐灰色シルト

第58図 SX01平・断面図

ＳＤ０２（第10図）：　調査区の中央部で確認した東西方向の石組み溝である。暗渠２と約5mの距離をおき平行している。幅28㎝，深さ20㎝の規模をもち，検出長は11.6ｍである。遺構はＳＸ01と重なり，西側の延長は不明である。溝内部は一辺が5㎝前後の小礫で充填されている。小礫の上部は床土であるにぶい黄橙色シルト質極細砂と２ｂ層である褐灰色シルトが混在した土で充填されている。遺物の出土はない。

ＳＤ０３（第10図）：　ＳＤ02と同様に調査区の中央部で確認した東西方向の石組み溝である。幅22㎝，深さ22㎝の規模をもち，検出長8.0ｍである。暗渠1と同様に溝内部は一辺が5㎝前後の小礫で充填されている。遺物の出土はない。

ＳＫ０１（第56・57図）：　平面形が逆三角形状を呈する土坑である。東側を出水状遺構に切られているため，正確な規模は不明であるが，現存の規模は東西2.20ｍ，南北1.70ｍ，深さ10㎝である。土坑の底は平坦である。土坑の埋土は２層存在し，土坑北側から西側にかけての斜面部に堆積する黒褐色シルトとそれ以外の部分に堆積する灰黄褐色シルトがある。遺物は土師器鍋口縁部片，須恵器杯身片等が出土している。１は土師器の鍋である。口縁端部は若干つまみあげる形態をする。２は破片が小さなことから不確定要素があるが，口縁端部が外反することから須恵器杯身であると考えられる。１・２ともに破片であることから細かな時期を決めることはできないが，１は中世，２は古代のものと想定される。このことから土坑の時期は中世頃の所産と考えられる。

ＳＸ０１（第58・59図）：　調査区中央部で確認した遺構である。平面形は達磨状を呈し，遺構の新旧関係は，前述のＳＫ01を切り，暗渠１に切られる。遺構の規模は長軸7.0ｍ，短軸（西側）3.0ｍ，短軸（東側）3.35ｍ，深さは（西側）62㎝，深さ（東側）51㎝である。この遺構の特徴として，遺構東側の北側および南側斜面部を中心に円礫を部分的に使用した石積みが認められる。確認した石積みについては，崩落が著しく，本来，斜面部全てに石積みが施されていたか不明である。土層は４層存在し，いずれもシルトであることから，堆積状況から徐々に埋没していった状況が認められる。当遺構の特徴として，調査中においても湧水量が多かったことから，湧水施設であると想定されるが，当遺構の下方には，湧水施設からの導水施設（溝）が現在は認められないことから，現段階では部分的な水掛りに関係する施設と想定しておきたい。

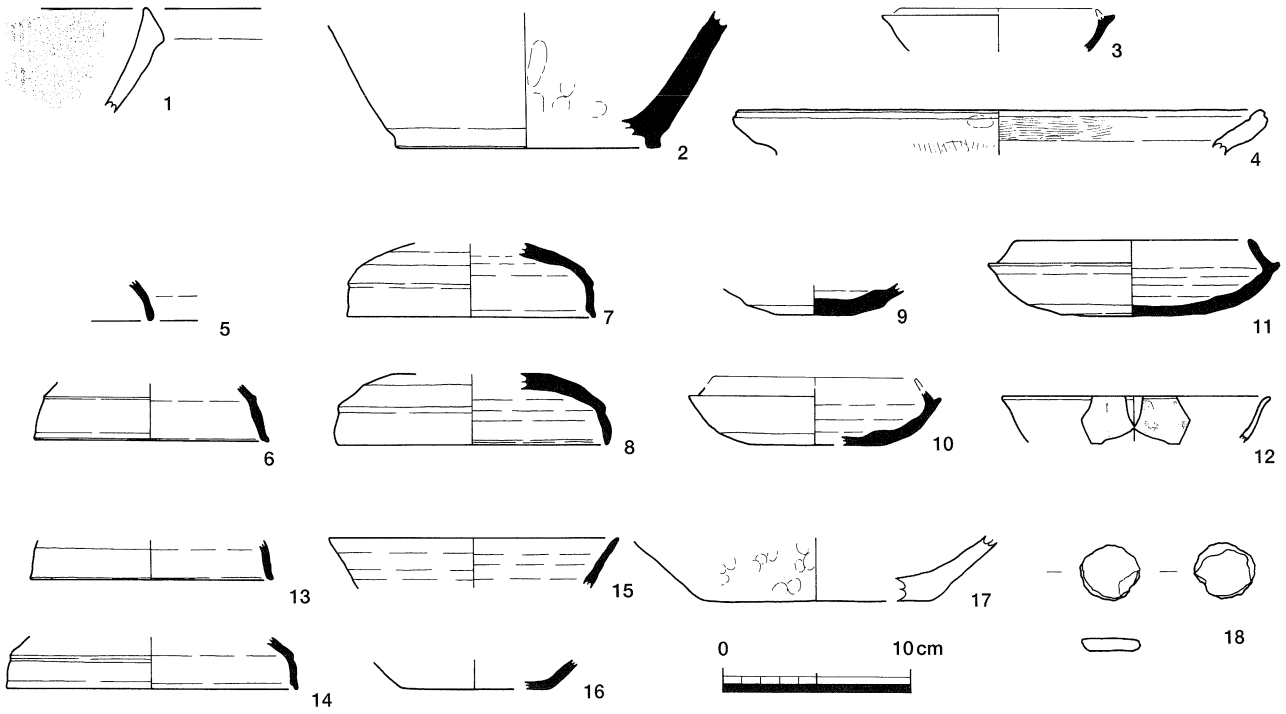
１は染付の壺の口縁部と考えられる。2は龍泉窯系青磁の小碗である。幅広の鈍い蓮弁をもつこと　から森田分類のⅢ－２類に該当するものであると考えられる。３は染付のⅢである。小片であるため全体の文様構成を確認することはできないが，外面は渦を，内面は区画文を描く。４は備前焼小徳利の底部である。外面にはヘラケズリが認められる。

鋤溝（第10図）：　調査区北端を中心に概ね東西方向を指向する溝群で，調査区内を通して続くものは認められず，いずれの溝も断続的に確認した。規模に多少の差はあるが溝幅20～30 ㎝，溝間10～15㎝，深さ２～5cmと非常に浅い。確認した溝は上記の特徴から，耕作に伴うものであると考えられる。鋤溝埋土中からの遺物の出土はない。

土壌層（第60図）：　調査区北半部において平面で確認した褐灰色シルトである。最も深い北端では15㎝程の堆積が見られるが，南半部は後世の削平により存在しない。土壌層の比較的残りのよい北半部において畦畔の検出を行ったが，上部の削平が著しく確認できなかった。土壌層からの遺物は出水状遺構ＳＸ01の西側周辺部を中心に比較的大きな破片が出土している。

１～４は北半部の土壌層から出土したものである。1は瓦質の擂鉢である。口縁部は上下に多少拡張する。内面には4条の条溝が認められる。2は須恵器壺の底部である。底部はしっかりとした高台がついている。３は須恵器の杯身である。口縁部のかえりを欠損するが，華奢なかえりが付く形態になるものと想定される。４は土師器甕の口縁部である。口縁端部はつまみあげない形態をするもので，口縁部内面と，頸部外面にハケメが認められる。５～12はＳＸ01の西側を中心に出土したものである。５～８は杯蓋，口径は12～14㎝で口縁部と天上部の境の稜は明瞭である。口縁部内面に段を持つものと持たないものが認められ，持たないものが時期的には後出するものであろう。９～11は杯身である。口径は13.5～15.5㎝である。11は法量等から８とセットになるものと考えられる。12は染付の碗である。内面には吉祥文字と考えられる「回・貴」に見える文字が描かれている。13～18はＳＸ01の東側を中心に出土したものである。13・14は須恵器の杯蓋である。上記の６・７同様，口縁部内面に段を持つ。15・16は須恵器の杯である。17は弥生土器壺の底

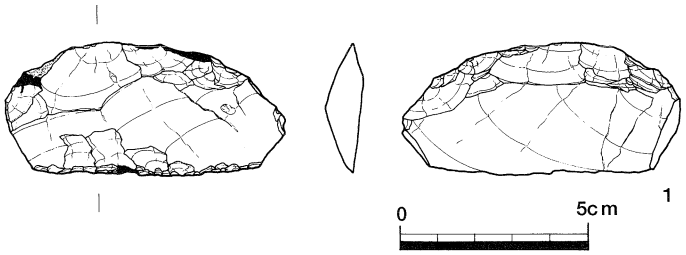
部と考えられる。18は泥面子もしくは紡錘車の未製品であると考えられる。　土壌層出土土器の出土位置をみた場合，北半部については古代から中世の遺物が出土し，ＳＸ01を挟んだ周辺部に限定して古墳時代の須恵器が出土している。古墳時代の須恵器は，当調査区以外の調査対象地からは出土していない状況を考えると，当調査区周辺に古墳時代の遺構の存在が想定される。また，12を除く他の出土遺物を見た場合，当土壌層の長期間にわたる使用が考えられる。



第60図　土壌層出土遺物（1/4）

側溝掘削時出土遺物（第61図）

１はサヌカイト製のスクレイパーである。下縁部は片方からのみの調整により刃部をつくる。上縁部は両側からの粗い調整がみられるが，敲打による背潰しが認められないことから，未製品であるものと想定される。



第61図　側溝掘削時出土遺物（1/4）

参考文献：第１章～３章

香川県教育委員会1996～2002『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 空港跡地遺跡Ⅰ～Ⅴ』

香川県教育委員会1998『宮川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　木太本村Ⅱ遺跡』

高松市教育委員会1992・1999『讃岐国弘福寺領の調査Ⅰ・Ⅱ』

高松市教育委員会他1995『一般国道11号高松東道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第７冊　居石遺跡』

高松市教育委員会2000『太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第２冊　上西原遺跡』

高松市教育委員会2001『太田第２土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第５冊　凹原遺跡』

高松市教育委員会2000『市道林町47号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　宮西・一角遺跡』

香川県教育委員会1993『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第２冊　林・坊城遺跡』

香川県教育委員会1992『中小河川大束川改修工事（津ノ郷橋～弘光橋間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　川津元結木遺跡』

庄内式土器研究会2001『庄内式土器研究ＸＸⅣ』

菅原康夫・梅木謙一編2000『弥生土器の様式と編年四国編』

森田勉 横田賢次郎 1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について―型式分類と編年を中心として―」『九州歴史資料館研究論集』４集　九州歴史資料館 後に『大宰府陶磁器研究―森田勉氏遺稿集―』1995 森田勉氏遺稿集・追悼集刊行会 所収

第４章　自然科学的分析・胎土分析

第１節 高松市宗高坊城遺跡より出土した赤色顔料付着遺物の蛍光Ｘ線分析について

徳島県立博物館 魚島純一

高松市教育委員会の依頼を受けて，宗高坊城遺跡出土遺物の表面に付着した赤色顔料の同定を目的とした定性分析を行ったのでその結果を報告する。

１．試料

宗高坊城遺跡出土 土器破片（台付鉢底部）１点 （第29図145）
土器内面底部付近に，赤色顔料が点々と付着していることが肉眼で容易に観察できる。

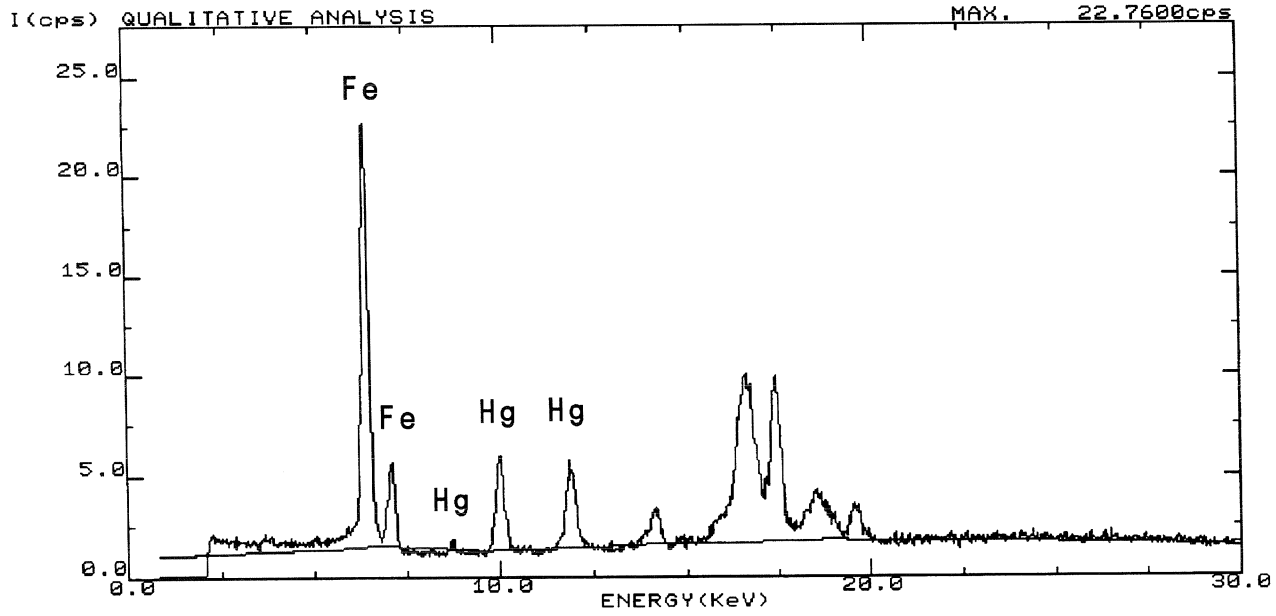
２．方法

蛍光Ｘ線分析装置を使って試料表面の非破壊定性分析を行い，試料に含まれる元素の種類を調べ，用いられた赤色顔料を推測することとした。
分析には徳島県立博物館に設置されたテクノス製エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置TREX630Lを用いた。
測定の条件は次のとおり。

Ｘ　線　管	：Ｍｏ	Ｘ線管電圧	：50ｋＶ
Ｘ線管ｓ電流	：0.2ｍＡ	検　出　器	：Ｓｉ（Ｌｉ）
測 定 時 間	：100秒	測定雰囲気	：大気

３．結果と考察

試料の内面に付着した赤色顔料部分を分析した結果，Hg（水銀）が検出された（第62図）。このことから，この試料に付着した赤色顔料はHg（水銀）を主成分とする水銀朱（辰砂 HgS）であると考えられる。



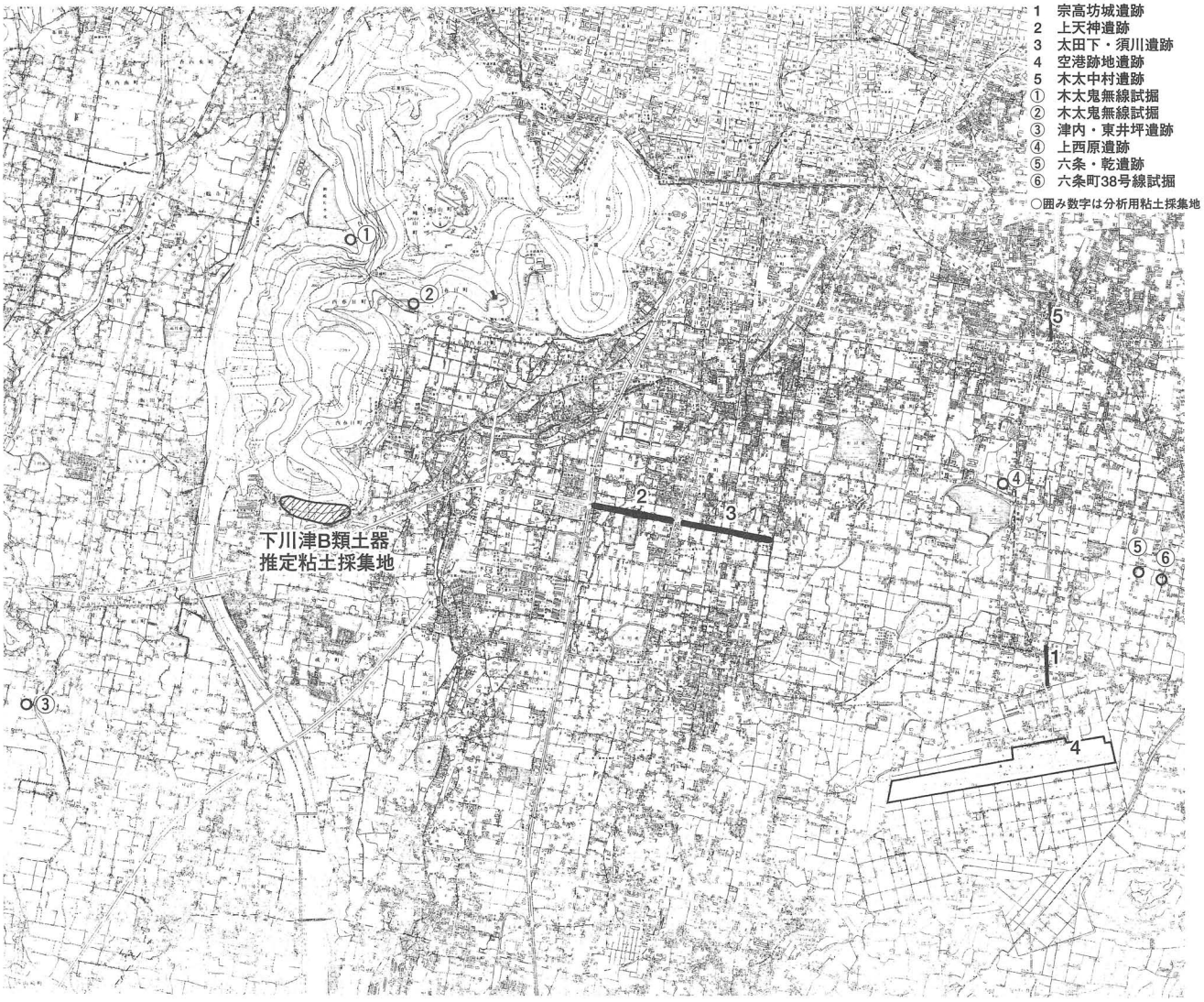
第62図　試料内面赤色顔料付着部分の蛍光X線分析結果

第２節 宗高坊城遺跡出土土器の胎土分析 －下川津Ｂ類土器の分析を中心に－

岡山理科大学自然科学研究所
白　石　　純

１．分析の目的

宗高坊城遺跡出土の弥生時代後期～古墳時代初頭の土器で、多量の角閃石・長石の混入や形態的特徴から、いわゆる『下川津Ｂ類土器』と呼ばれている土器がある(1)。しかし、中には角閃石の含有量が少ない土器がみられる。そこで、これら土器が理化学的な胎土分析でどのように分類されるか。特に、下川津Ｂ類土器のなかで、細分が可能か。また、高松平野部の上天神遺跡(2)、空港跡地遺跡(3)、中間西井坪遺跡(4)、岡清水遺跡(5)から出土している下川津Ｂ類土器が遺跡や地域で、胎土に違いがあるかどうか。そして、同平野部の６地点でサンプリングした粘土と遺跡出土土器を比較検討した。



第63図　下川津B類土器推定粘土採集地および胎土分析関係遺跡位置図

２．分析方法・試料

胎土の分析方法には、二つの方法を採用した。

一つは、蛍光Ｘ線分析法で、胎土中の成分(元素)量を調べる方法である。この方法は、分析試料を一部破壊して測定した。以下に試料作製、測定装置、方法、について述べる。

試料の作製方法は、土器表面の汚れを除去し、乾燥（80℃で１時間）したものをタングステンカーバイト製の粉砕容器に詰め、試料粉砕機により約200メッシュほどに細かく粉砕し粉末試料にする。この粉末試料を塩化ビニール製のリング（直径約25mm、厚さ約2mm）に詰め、油圧式成形機で約15ｔ圧力を加えコイ

ン状に成形したものを、蛍光X線分析装置の測定試料とした。分析装置はエネルギー分散型卓上型蛍光X線分析計SEA2010L（セイコーインスツルメント社製）を使用した。測定条件は、X線照射径：10mm、電流：50～200mA、電圧：50KV・15KV、測定時間：200秒、測定室：真空で測定した。また、各元素の定量値は、地質調査所のJA-1標準試料を用いて検量線を作成し求めた。測定した元素はSi（珪素）、Ti（チタン）、Al（アルミニウム）、Fe（鉄）、Mn（マンガン）、Mg（マグネシウム）、Ca（カルシウム）、Na（ナトリウム）、K（カリウム）、P（リン）、Rb（ルビジウム）、Sr（ストロンチウム）、Zr（ジルコニウム）の13元素である。このうちRb、Sr、Zrの3元素は微量元素であり単位はppmである。

もう一つは、実体顕微鏡を用いた土器表面の砂粒観察である。これは、胎土に含まれている砂粒（岩石・鉱物）の種類、含有量を肉眼観察により判別し、どのような地質基盤の粘土を用いているか調べる方法である。

分析試料は、表1に示した114点の試料で、土器100点、粘土14点である。

3．分析結果

（1） 蛍光X線分析法

第64図K-Ca散布図では、宗高坊城遺跡Ⅰ区SR01、Ⅱ区SK01出土の弥生時代後期～古墳時代初頭の下川津B類とその他の土器が胎土分析でどのように分類されるか検討した。その結果、3つの胎土に分類された。

Ⅰ類・・・・・Ca量が約3%以上で、K量が約1%以下に分布する。

下川津B類1、3、4、9、20、25、26、31、35、36、37、38、47、53、54、57、59、60、61、62、64、65、66、67、68、69、75、76、103、104、201、202、203、204、205

Ⅱ類・・・・・Ca量が約1.5%～約3%で、K量が約0.8%～約1.5%に分布する。

下川津B類13、33、34、56、58、63、71

その他12、14、39、41、77

Ⅲ類・・・・・Ca量が約1%以下で、K量が約1%～3.5%に分布する。

その他の土器

なお、Ⅰ類が下川津B類土器である。

第65図K-Ca散布図では、宗高坊城遺跡出土土器と高松平野でサンプリングした粘土の比較を行った。すると、サンプリング1-1木太鬼無線試掘（弥生中期後半の遺構ベース層）がⅡ類の角閃石の含有量が少ない下川津B類土器に、サンプリング1-4木太鬼無線試掘（弥生中期後半の包含層）がⅠ類の下川津B類土器の分布域に分布した。サンプリング2木太鬼無線試掘（地山粘質土）の粘土は6、11、42の土器と分布が重複した。その他のサンプリング3（津内・東井坪遺跡）、4（上西原遺跡）、5（六条・乾遺跡）、6（六条町38号線試掘）の粘土はⅢ類にすべて分布した。SR01とSK01から出土した下川津B類土器の比較では、どちらも同じ胎土であった。ただ、SK01の205はⅡ類に分布した。

第66図K-Ca散布図では、宗高坊城遺跡と高松平野部の上天神遺跡、空港跡地遺跡、中間西井坪遺跡、岡清水遺跡から出土している下川津B類土器が各遺跡別で違いがあるかどうか調べた。すると宗高坊城Ⅰ類と中間西井坪および、宗高坊城Ⅱ類と空港跡地の分布範囲がそれぞれ同じであった。そして、上天神・空港跡地・岡清水の各遺跡の分布域がそれぞれ重なった。

第67図Ti-Ca散布図では、木太中村遺跡のSR4001出土土器[6]で、考古学的な知見から山陰系301(第153図44)、吉備系302(第153図48)と考えられるものが、どこに推定されるか検討した。その結果、302の吉備型甕と考えられる土器は、吉備地方の胎土に類似していた。しかし、301の山陰系と考えられる土器は、宗高坊城遺跡の在地産土器が分布する領域に分布した。

（2） 実体顕微鏡による砂粒観察法

宗高坊城遺跡出土土器を実体顕微鏡観察したところ、以下の胎土に分類された。

1類・・・・・1mm以下の角閃石・長石を多量に含み、閃緑岩の岩片もみられる。（写真1）

2類・・・・・1mm以下の黒雲母を多量に含み角閃石・長石も含まれる。（写真2）

3類・・・・・1mm～2mmの石英・長石と、0.5mm以下の火山ガラスを含む。（写真3・4）

4類・・・・・1mm前後の石英・片岩？を少量含む。素地は非常に精製した粘土。

（写真5・6）

以上のように、4つの胎土に分類される。そして、1・4類は下川津B類土器（蛍光X線分類Ⅰ類）に、2

類は、蛍光X線分類のⅡ類に、3類は蛍光X線分類のⅢ類に、それぞれ該当する。また、4類は蛍光X線分析では、下川津B類土器の分析値と同じであったが、砂粒観察では片岩？が観察された。

高松平野部でサンプリングした粘土の観察では、サンプリング1-4木太鬼無線試掘（弥生中期後半の包含層）（写真7）は1mm以下の角閃石・長石を多量に含み、閃緑岩の岩片が観察され1類に、サンプリング1-1木太鬼無線試掘（弥生中期後半の遺構ベース層）（写真8）は1mm以下の黒雲母を多量に含み角閃石・長石が観察され、2類にそれぞれ類似していた。

4．考察

宗高坊城遺跡出土土器の『下川津B類土器』を中心として蛍光X線分析法と実体顕微鏡観察法の胎土分析を実施したところ、以下のことが明確になった。

（1）宗高城遺跡出土土器は、蛍光X線分析法で3つに、実体顕微鏡観察法では4つにそれぞれ分類できた。このうち蛍光X線分類Ⅰ類と砂粒観察1・4類の分布域(下川津B類土器)には、顕微鏡観察でB類土器以外のものがみられた。それは、15と27の土器である。この土器は顕微鏡砂粒観察では、素地土が精製した粘土で、片岩？らしき砂粒が観察されることから、搬入品と推定される。また、蛍光X線分類Ⅱ類と砂粒観察2類および蛍光X線分類Ⅲ類と砂粒観察3類が胎土分析でそれぞれ対応した。

（2）高松平野部でサンプリングした粘土との比較では、サンプリング1-4木太鬼無線試掘（弥生中期後半の包含層）の粘土が蛍光X線分類Ⅰ類の下川津B類土器の分布域に分布した。また、砂粒観察でも下川津B類土器の砂粒によく類似していた。このことから、下川津B類土器の粘土は、この地点および周辺の粘土が使用されていることが推定される。

サンプリング1-1木太鬼無線試掘（弥生中期後半の遺構ベース層）は、蛍光X線分類Ⅱ類・砂粒分類2類に類似していた。

以上のように、サンプリング1地点でも角閃石・黒雲母・長石の含有量が層位により異なっており、当時の粘土サンプリングもこれらの層位から採集されたと推定される。

（3）高松平野部の各遺跡から出土している下川津B類土器で、遺跡によっては胎土差がみられるのは、（2）で述べたような理由により同一サンプリング地点でも、層位的に異なった層順から粘土を採集したために、胎土差がでたものと推定される。

（4）木太中村遺跡より出土している吉備系土器は、胎土分析では吉備系からの搬入と推定された。しかし、山陰系の土器は、明らかにならなかった。

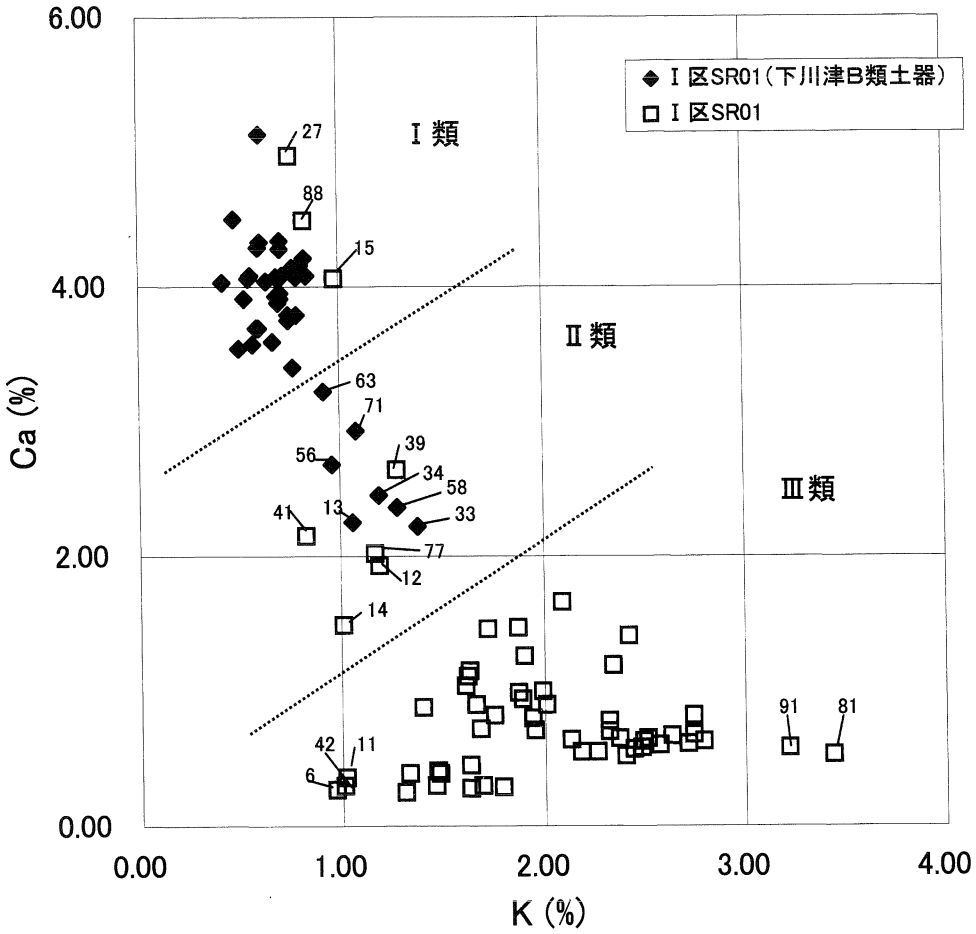
このように、今回の胎土分析では、いろいろと成果があった。特に、下川津B類土器の粘土採集地がほぼ特定された(7)。また、この粘土採集地でも粘土堆積層のサンプリング場所により、いわゆる下川津B土器からそれに類似するものまであることがわかった。

また、下川津B類土器に胎土分析値が類似する土器（砂粒観察では全く異なる）は、この砂粒観察から、搬入品と推定された。そして、この土器の生産地であるが、現在蓄積しているデータで検討すると、徳島県の吉野川流域の胎土に類似していることが推定されるが、再検討する必要がある。

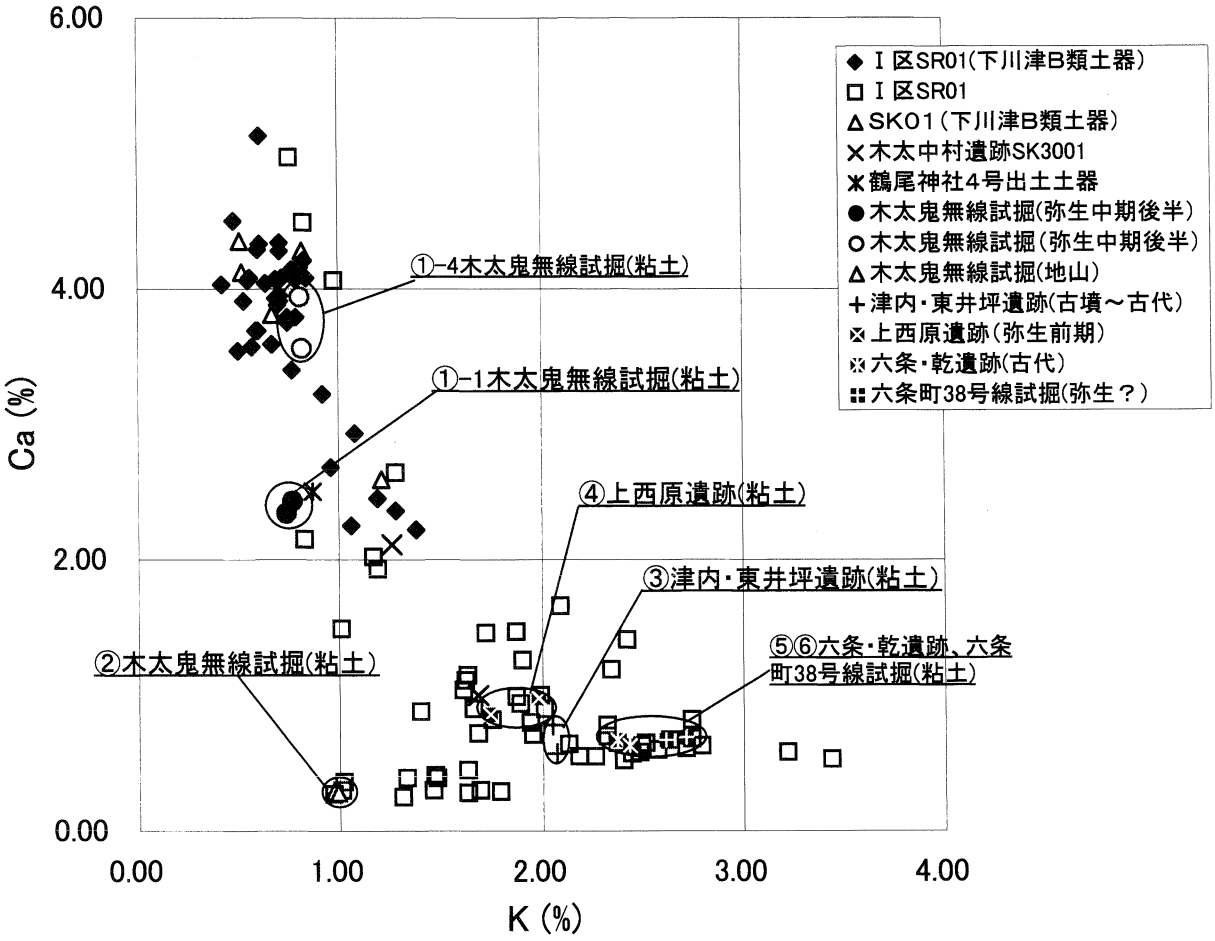
この胎土分析の機会を与えていただいた山元敏裕氏、小川　賢氏をはじめ、高松市教育委員会の職員の方々にはいろいろとお世話になった。記して感謝致します。

註

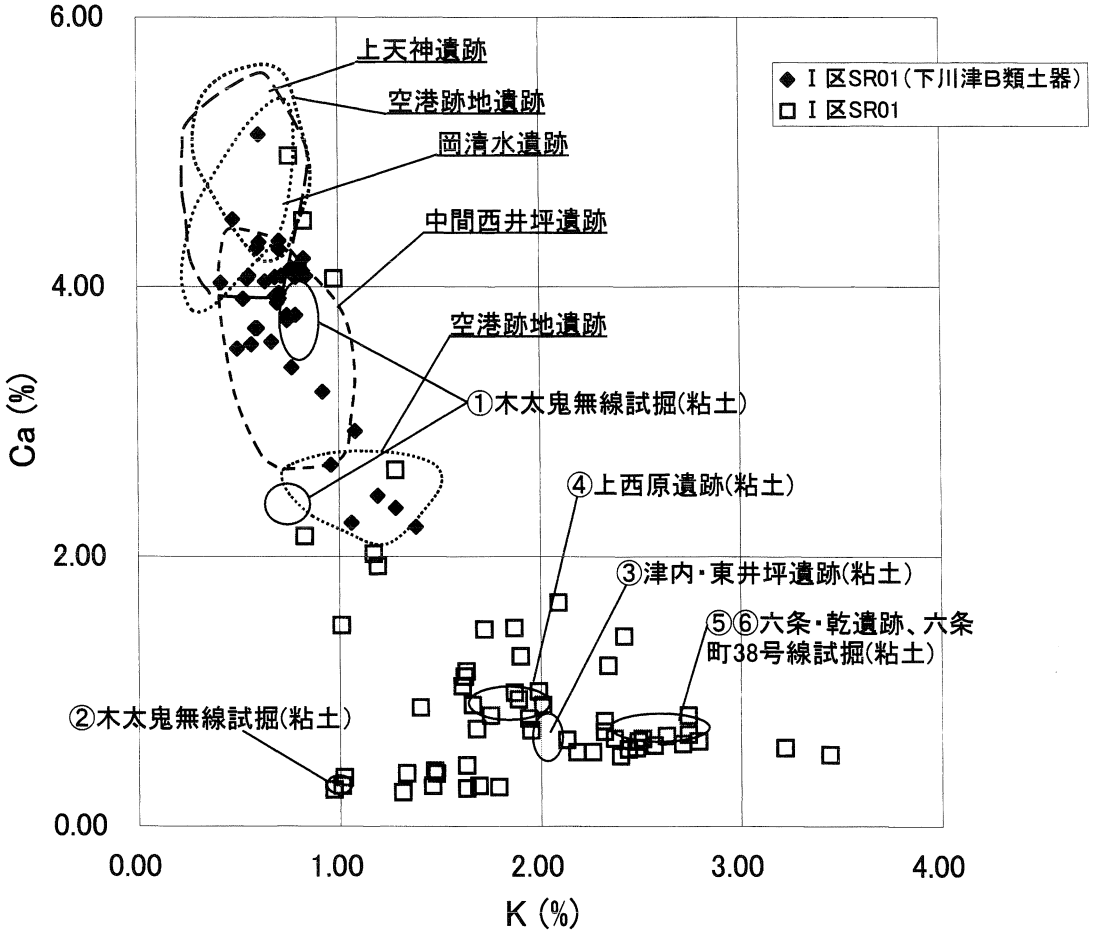
（1）大久保徹也『下川津遺跡』瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ 香川県教育委員会　1990
（2）白石　純「上天神遺跡出土土器の胎土分析」『上天神遺跡』香川県教育委員会　1995
（3）白石　純「空港跡地遺跡出土土器の胎土分析」『空港跡地遺跡Ⅱ』香川県教育委員会　1997
（4）白石　純「中間西井坪遺跡出土土器の胎土分析」『中間西井坪遺跡Ⅱ』香川県教育委員会　1999
（5）白石　純「岡清水遺跡出土土器の胎土分析」『岡清水遺跡』香川県教育委員会　2001
（6）中西　克也『木太中村遺跡』高松市教育委員会 2001
（7）森下　友子・奥田　尚『太田下・須川遺跡』香川県教育委員会　1995
この報告でも、今回サンプリングした1地点付近から下川津B類土器に使用された粘土が産出することが指摘されている。



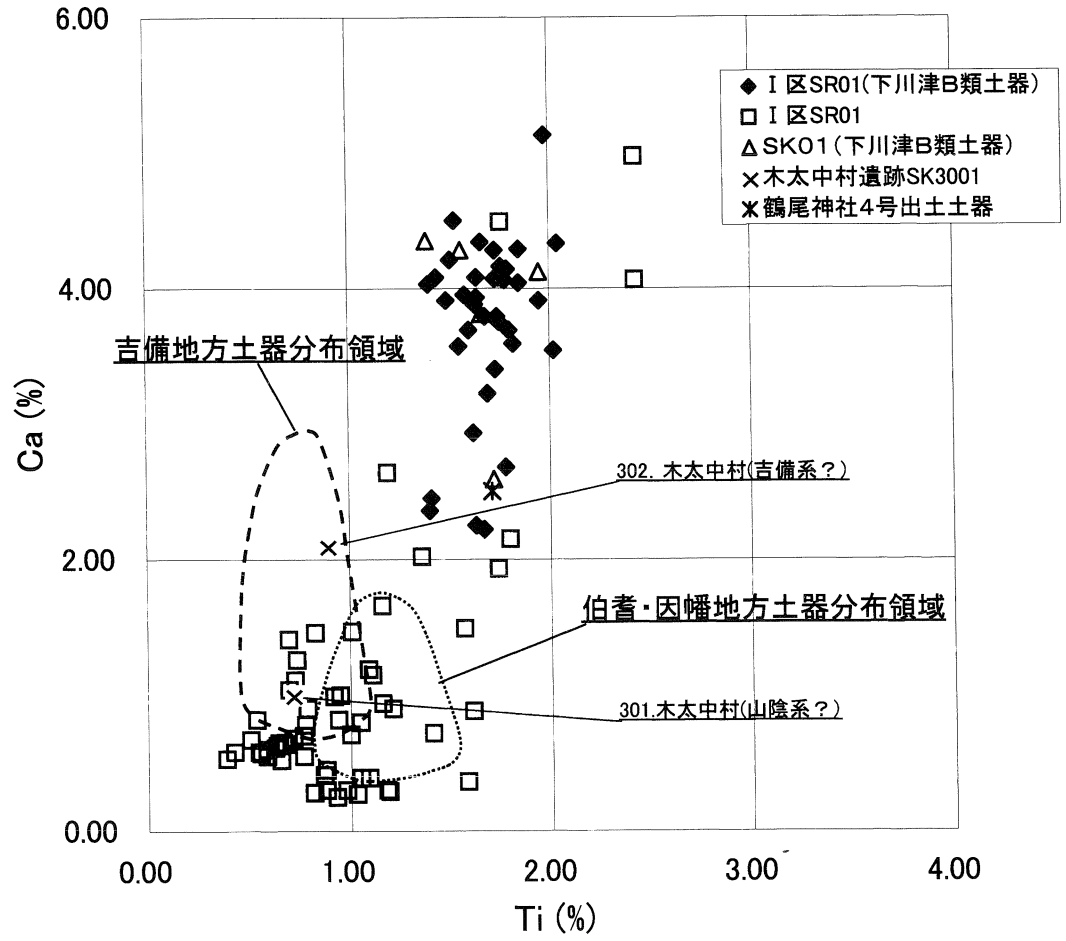
第64図　宗高坊城遺跡出土下川津Ｂ類、その他土器との比較（K-Ca散布図）



第65図　宗高坊城遺跡と高松平野部出土粘土との比較（K-Ca散布図）



第66図　下川津Ｂ類土器（宗高坊城遺跡と周辺遺跡）の比較（K-Ca散布図）



第67図　宗高坊城遺跡と搬入品土器の比較（Ti-Ca散布図）

第1表　宗高坊城遺跡他出土土器の胎土分析一覧表（%）　ただし、Rb・Sr・Zrはppm

番号	遺跡名	地区	器種	Si	Ti	Al	Fe	Mn	Mg	Ca	Na	K	P	Rb	Sr	Zr	備考
1	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	54.16	2.04	21.30	12.31	0.20	2.29	4.33	1.79	0.61	0.71	72	185	187	B類土器
2	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	70.56	0.74	18.42	3.45	0.03	1.68	1.26	1.20	1.90	0.51	104	204	434	
3	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	55.33	1.68	22.24	10.54	0.17	2.35	3.79	1.68	0.79	1.27	66	258	194	B類土器
4	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	55.33	1.73	22.30	10.16	0.20	2.43	4.28	1.75	0.71	0.92	37	258	187	B類土器
5	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	66.38	0.95	19.92	5.59	0.04	1.77	1.00	1.96	1.99	0.12	219	166	381	
6	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	72.22	1.03	19.14	2.05	0.01	1.70	0.27	2.12	0.97	0.33	87	64	398	
7	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	68.72	0.92	19.44	3.24	0.02	1.70	0.99	2.17	1.87	0.75	188	159	364	
8	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	71.35	1.00	18.02	2.13	0.02	1.64	0.71	2.29	1.95	0.73	175	138	355	
9	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	53.99	1.75	22.35	11.41	0.23	2.46	4.08	1.95	0.84	0.72	107	187	197	B類土器
10	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	75.18	0.88	14.98	1.70	0.01	1.64	0.30	2.50	1.69	0.96	148	71	362	
11	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	65.02	1.58	20.97	5.97	0.07	1.86	0.36	2.56	1.02	0.39	108	52	462	
12	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	60.80	1.74	17.99	11.52	0.13	2.06	1.93	2.21	1.19	0.24	127	95	285	
13	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	56.17	1.63	22.79	10.75	0.15	2.13	2.25	1.93	1.06	0.96	125	231	184	B類土器
14	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	54.91	1.57	23.20	13.53	0.22	2.22	1.49	1.67	1.01	0.07	107	147	143	
15	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	58.95	2.43	20.38	7.86	0.11	2.26	4.06	2.10	0.98	0.68	93	165	344	
16	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	69.04	0.59	18.74	3.41	0.03	1.61	0.55	2.64	2.26	0.89	187	109	322	
17	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	67.21	0.79	20.17	3.71	0.04	1.82	0.90	3.32	1.66	0.12	196	164	333	
18	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	67.44	0.70	20.70	3.31	0.03	1.80	1.04	2.32	1.61	0.74	184	145	251	
19	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甕	70.01	1.05	17.56	4.89	0.03	1.77	0.39	2.00	1.33	0.82	191	69	368	
20	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	短頸壺	53.99	1.40	24.22	9.95	0.17	2.64	4.03	2.19	0.42	0.76	38	179	138	B類土器
21	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	短頸壺	75.33	0.82	15.80	1.28	0.01	1.68	0.28	2.36	1.63	0.63	148	62	364	
22	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	短頸壺	70.43	0.72	17.99	2.38	0.02	1.72	0.68	2.47	2.74	0.69	171	132	349	
24	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	長頸壺	66.00	1.21	21.87	3.67	0.03	1.69	0.90	1.49	2.01	0.89	200	141	397	
25	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	長頸壺	53.02	1.49	23.68	10.18	0.19	2.66	3.91	3.44	0.53	0.75	33	166	147	B類土器
26	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	複合口縁壺	53.91	1.44	21.97	12.66	0.19	2.54	4.08	2.23	0.56	0.21	60	292	178	B類土器
27	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	複合口縁壺	58.93	2.43	19.31	8.67	0.14	2.55	4.97	1.73	0.76	0.35	26	161	300	
28	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	複合口縁壺	71.65	0.65	17.86	1.38	0.00	1.72	0.63	2.44	2.79	0.69	207	128	292	
29	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	複合口縁壺	70.70	0.77	18.28	1.80	0.02	1.68	0.70	2.72	2.32	0.85	218	131	303	
30	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	口縁部	66.43	1.05	19.65	5.22	0.05	1.80	0.80	2.68	1.94	0.10	155	130	492	
31	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	壺(長頸)体部	56.90	1.76	20.86	10.43	0.17	2.39	4.16	2.01	0.81	0.62	79	221	139	B類土器
32	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	壺(長頸)体部	71.10	0.68	17.90	3.22	0.03	1.71	0.64	1.96	2.13	0.41	178	128	321	
33	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	長頸壺	60.78	1.67	20.20	8.40	0.11	1.90	2.22	2.27	1.38	0.90	82	263	320	B類土器
34	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	長頸壺	61.66	1.41	20.35	8.16	0.11	1.98	2.45	2.26	1.19	0.25	103	309	261	B類土器
35	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	長頸壺	53.84	1.64	22.35	11.04	0.20	2.53	3.93	2.85	0.69	0.80	75	194	165	B類土器
36	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甕	54.56	1.98	20.09	12.16	0.18	2.28	5.13	2.27	0.61	0.59	58	329	192	B類土器
37	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甕	54.38	1.85	21.75	11.55	0.18	2.31	4.04	2.45	0.64	0.65	63	269	152	B類土器
38	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甕	54.29	2.02	22.37	12.70	0.22	2.14	3.54	1.45	0.50	0.56	51	287	183	B類土器
39	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甕	60.43	1.19	20.62	8.20	0.12	2.20	2.64	2.84	1.28	0.22	122	300	416	
40	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甕	63.03	0.83	20.65	6.42	0.05	1.95	1.46	3.07	1.72	0.51	220	241	344	
41	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甕	51.78	1.80	24.59	12.95	0.15	2.25	2.15	2.32	0.83	0.97	95	173	156	
42	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甕	71.31	1.18	18.95	2.13	0.02	1.63	0.30	2.21	1.01	1.10	99	75	463	
43	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甕	66.19	0.73	20.49	3.71	0.04	1.70	1.11	2.99	1.62	1.07	182	190	402	
44	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甕	62.00	1.41	23.61	5.40	0.04	1.80	0.72	2.53	1.68	0.55	160	101	640	
45	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甕	71.40	0.59	17.48	2.61	0.01	1.68	0.60	2.48	2.57	0.41	199	121	315	
46	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甕	71.36	0.65	17.43	2.61	0.02	1.58	0.65	2.67	2.37	0.47	181	133	309	
47	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甕	54.66	1.58	22.65	10.08	0.18	2.26	3.95	2.21	0.71	1.53	47	224	149	B類土器
48	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	大形鉢	69.19	0.54	19.33	1.92	0.01	1.60	0.82	3.13	2.74	0.58	204	101	178	
49	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	鉢	70.18	0.70	16.49	3.58	0.03	1.75	1.41	2.52	2.42	0.75	165	169	251	
50	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	小形丸底壺	71.93	0.88	16.79	2.51	0.01	1.77	0.45	2.51	1.63	1.29	186	76	349	
51	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	鉢	71.85	0.63	17.68	1.42	0.01	1.65	0.61	2.55	2.71	0.69	205	149	345	
52	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	鉢	71.52	0.67	18.12	2.06	0.01	1.57	0.65	2.13	2.51	0.56	189	142	312	
53	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	大形鉢	54.29	1.55	23.45	11.02	0.17	2.45	3.57	2.24	0.57	0.52	60	167	195	B類土器
54	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	大形鉢	55.44	1.51	20.79	11.69	0.17	2.05	4.21	2.31	0.83	0.82	91	352	186	B類土器
55	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	大形鉢	56.10	1.73	21.48	9.64	0.16	2.16	3.40	3.46	0.77	0.88	83	254	229	B類土器
56	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	大形鉢	59.55	1.78	21.27	8.03	0.17	2.15	2.68	2.50	0.96	0.74	67	201	258	B類土器
57	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	大形鉢	55.83	1.75	20.49	11.87	0.22	2.38	3.75	2.56	0.75	0.27	72	190	220	B類土器
58	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	大形鉢	59.54	1.40	20.14	9.88	0.13	1.94	2.36	2.99	1.28	0.10	120	282	224	B類土器
59	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	大形鉢	55.40	1.79	21.05	11.66	0.19	2.40	4.14	1.98	0.77	0.42	85	271	160	B類土器
60	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	大形鉢	54.43	1.77	21.93	10.87	0.17	2.29	4.07	2.50	0.79	0.99	69	279	159	B類土器
61	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	大形鉢	55.13	1.60	23.19	10.32	0.18	2.40	3.69	1.89	0.60	0.87	80	190	109	B類土器
62	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	大形鉢	54.36	1.80	22.56	11.67	0.18	2.38	3.69	2.01	0.59	0.60	60	248	208	B類土器
63	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	大形鉢	58.88	1.69	20.50	9.97	0.16	2.03	3.22	1.74	0.92	0.68	92	270	231	B類土器
64	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯	53.95	1.78	22.37	11.77	0.21	2.44	4.06	1.79	0.55	0.87	38	189	129	B類土器
65	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯	54.72	1.82	21.92	10.85	0.17	2.42	3.59	2.17	0.67	1.52	79	200	264	B類土器
66	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯	54.48	1.85	21.93	11.39	0.19	2.38	4.29	2.14	0.60	0.52	21	288	231	B類土器
67	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯	54.66	1.73	21.92	11.07	0.17	2.35	4.07	2.63	0.69	0.53	76	260	178	B類土器
68	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯	53.87	1.66	22.75	9.96	0.18	2.34	4.34	2.70	0.71	1.31	69	221	142	B類土器
69	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯(杯部)	54.96	1.64	22.50	10.59	0.18	2.41	4.08	1.94	0.72	0.79	53	262	143	B類土器
70	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯(脚部)	69.00	0.78	19.56	2.35	0.02	1.77	0.78	2.50	2.32	0.72	196	146	322	
71	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯(脚部)	57.84	1.62	20.22	10.75	0.20	2.15	2.93	2.87	1.08	0.13	109	185	256	B類土器
72	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯(脚部)	71.98	0.55	17.22	2.00	0.02	1.59	0.58	2.64	2.48	0.71	195	130	285	
73	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯(脚部)	69.30	0.64	19.48	1.88	0.00	1.65	0.63	2.41	2.49	1.26	209	127	368	
74	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯(脚部)	66.09	1.16	20.70	4.44	0.03	1.75	0.94	1.73	1.89	1.05	194	145	496	
75	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯(脚部)	53.14	1.53	23.46	10.87	0.18	2.43	4.50	2.27	0.48	0.99	86	256	138	B類土器
76	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯(杯部)	54.86	1.95	22.49	10.84	0.16	2.33	3.91	2.13	0.71	0.43	76	228	199	B類土器
77	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	複合口縁壺	67.05	1.36	18.73	4.64	0.07	2.06	2.02	2.02	1.17	0.65	129	131	315	
78	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯	69.14	1.01	19.13	2.19	0.03	1.72	1.47	2.61	1.87	0.63	112	249	363	
79	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯(脚部)	64.03	1.09	21.78	3.87	0.03	1.82	1.19	2.79	2.34	0.83	194	151	586	
80	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甑(底部)	65.10	1.19	21.97	5.13	0.04	1.88	0.29	1.83	1.79	0.63	156	90	465	
81	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甑(底部)	73.72	0.39	15.78	1.09	0.01	1.71	0.53	2.82	3.44	0.36	229	127	179	
82	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甑(底部)	71.74	0.51	17.20	1.99	0.00	1.67	0.67	2.92	2.63	0.45	226	134	260	
83	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	甑(底部)	72.19	0.87	16.59	2.41	0.02	1.81	0.41	3.37	1.47	0.70	110	69	346	
85	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	鉢	65.78	1.11	21.90	3.50	0.03	1.87	1.15	2.08	1.63	0.70	160	205	301	
86	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	鉢(底部)	71.09	0.56	18.22	2.31	0.02	1.69	0.57	2.25	2.44	0.71	188	137	323	
87	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	鉢(底部)	73.52	0.66	16.59	1.48	0.00	1.57	0.52	2.48	2.40	0.65	207	117	309	
88	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	鉢(底部)	53.34	1.76	23.23	10.41	0.17	2.32	4.49	2.58	0.83	0.70	59	346	156	
89	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	鉢(底部)	72.87	0.93	17.75	2.19	0.01	1.68	0.25	1.88	1.31	0.97	130	48	403	
90	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	鉢(底部)	72.12	1.09	18.27	2.13	0.01	1.72	0.39	1.90	1.48	0.73	147	70	562	
91	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	鉢(底部)	71.23	0.43	18.02	1.70	0.02	1.68	0.58	2.15	3.22	0.61	193	108	311	
92	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	鉢(底部)	67.13	0.94	21.23	2.72	0.03	1.78	0.82	2.61	1.75	0.80	229	132	246	
93	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	支脚	74.03	0.98	16.14	2.27	0.01	1.59	0.30	2.06	1.46	0.97	144	76	386	
101	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	65.24	1.16	19.78	4.84	0.03	1.69	1.66	2.51	2.09	0.69	207	280	535	

番号	遺跡名	地区	器種	Si	Ti	Al	Fe	Mn	Mg	Ca	Na	K	P	Rb	Sr	Zr	備考
102	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	広口壺	61.59	1.61	23.18	6.40	0.06	2.13	0.88	1.81	1.40	0.78	133	123	337	
103	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯	55.58	1.63	23.04	10.33	0.18	2.37	3.88	1.42	0.70	0.67	71	232	214	B類土器
104	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯	55.83	1.74	21.06	11.03	0.17	2.12	3.79	2.62	0.75	0.70	73	327	217	B類土器
105	宗高坊城遺跡	Ⅰ区SR01	高杯	72.91	0.77	16.27	2.63	0.02	1.54	0.55	2.33	2.18	0.56	148	113	349	
201	宗高坊城遺跡	Ⅱ区SK01	高杯	52.23	1.66	23.80	12.79	0.21	2.34	3.81	2.21	0.67	0.05	58	274	193	B類土器
202	宗高坊城遺跡	Ⅱ区SK01	大形鉢	53.31	1.56	23.95	11.10	0.18	2.19	4.28	2.01	0.82	0.39	51	245	198	B類土器
203	宗高坊城遺跡	Ⅱ区SK01	甕	51.45	1.95	24.05	12.34	0.23	2.38	4.12	2.38	0.52	0.34	61	256	164	B類土器
204	宗高坊城遺跡	Ⅱ区SK01	広口壺	51.27	1.39	21.89	14.66	0.27	2.22	4.35	3.11	0.51	0.11	27	263	163	B類土器
205	宗高坊城遺跡	Ⅱ区SK01	広口壺	63.01	1.72	18.64	7.83	0.14	2.02	2.59	2.55	1.21	0.15	84	250	325	B類土器
301	木太中村遺跡	SR4001	複合口縁壺	66.02	0.73	20.02	5.53	0.06	1.75	1.00	2.81	1.68	0.19	173	159	365	山陰系
302	木太中村遺跡	SR4001	複合口縁壺	61.58	0.92	22.16	6.86	0.09	1.85	2.11	2.59	1.26	0.36	102	367	211	吉備系
1	鶴尾神社4号墳			54.62	1.71	21.70	13.30	0.18	2.17	2.50	2.72	0.87	0.05	101	190	188	B類土器
1	木太中村遺跡	SK3001	壺	52.98	1.40	20.13	13.76	0.23	2.48	5.03	2.48	0.75	0.53	33	325	138	B類土器
2	木太中村遺跡	SK3001	壺	54.53	1.64	20.04	12.01	0.19	2.24	4.59	2.61	0.90	1.05	49	331	154	B類土器
3	木太中村遺跡	SK3001	壺	57.40	1.20	19.19	11.22	0.17	2.14	4.32	2.45	1.13	0.61	77	326	177	B類土器
1	木太中村遺跡	SK3001	甕	55.56	1.61	19.19	13.73	0.20	2.12	3.84	1.91	0.81	0.80	56	310	219	B類土器
2	木太中村遺跡	SK3001	甕	56.83	1.57	19.45	11.42	0.18	2.13	3.59	2.94	1.05	0.59	86	247	180	B類土器
3	木太中村遺跡	SK3001	甕	56.55	1.39	19.04	12.48	0.19	2.18	4.41	1.86	1.08	0.57	83	296	187	B類土器
1	木太中村遺跡	SK3001	高杯	53.63	1.89	20.28	14.05	0.22	2.41	4.82	1.77	0.66	0.08	77	294	142	B類土器
2	木太中村遺跡	SK3001	高杯	52.57	1.69	21.75	14.08	0.24	2.11	3.57	2.25	0.59	0.88	101	349	338	B類土器
3	木太中村遺跡	SK3001	高杯	53.61	1.75	19.29	13.85	0.22	2.20	5.25	1.93	0.90	0.75	91	381	164	B類土器
1	木太中村遺跡	SK3001	鉢	69.79	0.46	14.95	6.17	0.07	1.72	0.87	2.71	2.38	0.66	194	131	323	B類土器
2	木太中村遺跡	SK3001	鉢	64.64	0.72	18.14	6.97	0.06	1.62	1.58	2.46	2.25	1.34	179	242	443	
3	木太中村遺跡	SK3001	鉢	71.16	0.46	15.31	5.18	0.04	1.43	0.56	2.84	2.51	0.28	188	130	316	
1-1	木太鬼無線試掘	自然乾燥	粘土	54.96	1.53	22.07	13.05	0.22	2.19	2.34	2.64	0.74	0.08	82	221	359	弥生中期後半
1-1	木太鬼無線試掘	800℃焼成	粘土	55.18	1.42	21.80	12.71	0.21	2.20	2.43	3.01	0.77	0.06	110	236	291	弥生中期後半
1-4	木太鬼無線試掘	自然乾燥	粘土	56.76	1.97	19.34	12.26	0.25	2.21	3.56	2.53	0.82	0.08	90	340	428	弥生中期後半
1-4	木太鬼無線試掘	800℃焼成	粘土	57.20	2.02	18.86	12.25	0.25	1.96	3.94	2.48	0.81	0.07	89	333	542	弥生中期後半
2	木太鬼無線試掘	自然乾燥	粘土	65.99	1.89	16.72	10.24	0.22	1.76	0.29	1.58	0.97	0.13	124	59	430	基盤層
2	木太鬼無線試掘	800℃焼成	粘土	66.13	1.81	17.51	9.17	0.17	1.64	0.28	2.00	0.99	0.14	149	67	431	基盤層
3	津内・東井坪遺跡	自然乾燥	粘土	71.75	0.35	14.44	5.74	0.06	1.51	0.57	3.20	2.07	0.18	162	105	209	古墳～古代
3	津内・東井坪遺跡	800℃焼成	粘土	67.75	0.57	17.47	5.94	0.07	1.84	0.78	3.19	2.05	0.13	175	104	223	古墳～古代
4	上西原遺跡	自然乾燥	粘土	75.01	0.66	15.14	2.14	0.03	1.65	0.98	2.07	1.98	0.15	212	136	263	弥生前期
4	上西原遺跡	800℃焼成	粘土	71.84	0.61	15.94	1.88	0.02	2.12	0.86	4.72	1.74	0.11	182	129	219	弥生前期
5	六条・乾遺跡	自然乾燥	粘土	66.03	0.54	17.80	8.05	0.19	1.81	0.67	2.24	2.37	0.12	246	130	258	古代
5	六条・乾遺跡	800℃焼成	粘土	67.23	0.57	17.89	6.26	0.15	1.82	0.63	2.72	2.43	0.13	233	118	248	古代
6	六条町38号線試掘	自然乾燥	粘土	66.64	0.53	17.38	6.93	0.61	1.74	0.67	2.51	2.61	0.11	239	144	262	弥生？
6	六条町38号線試掘	800℃焼成	粘土	69.24	0.56	18.32	4.01	0.04	1.72	0.69	2.39	2.71	0.14	259	127	297	弥生？

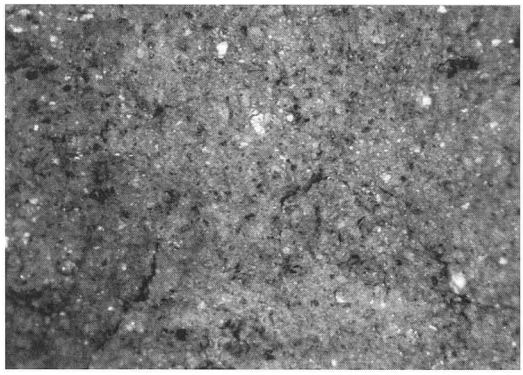


写真１．　資料１　広口壺（下川津Ｂ類土器）、１類

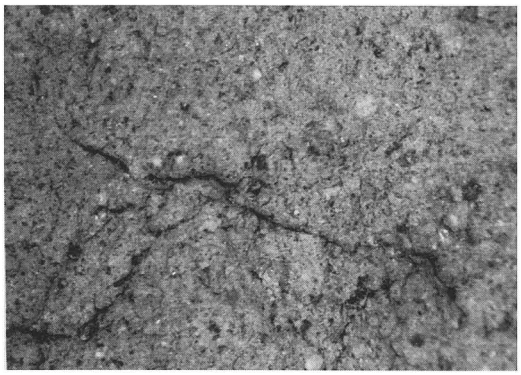


写真２．　資料13　広口壺（下川津Ｂ類土器）、２類

写真３．　資料２　　広口壺、３類

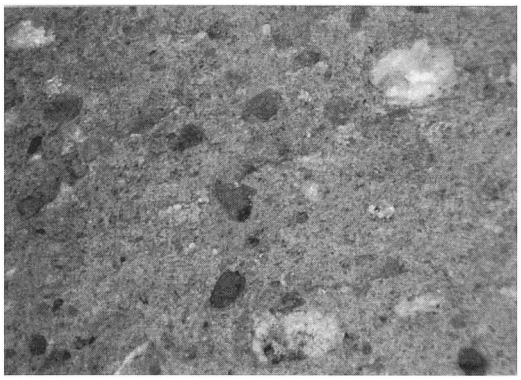


写真４．　資料５　　広口壺、３類

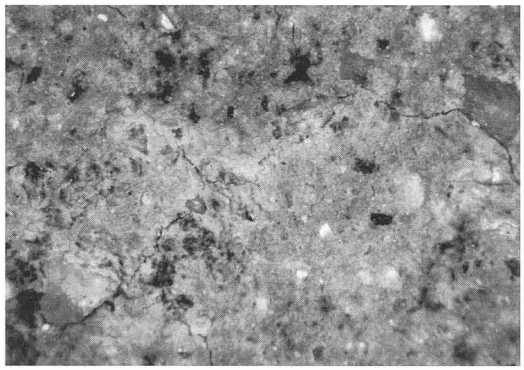


写真５．　資料12　広口壺、４類

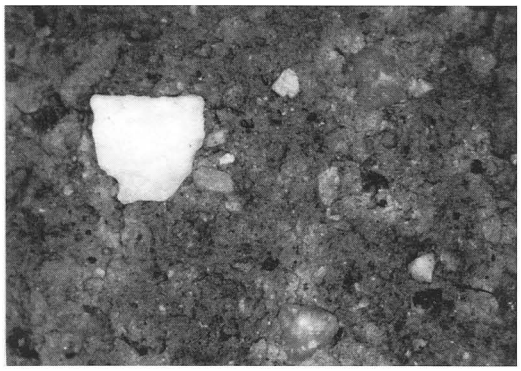


写真６．　資料27　広口壺、４類

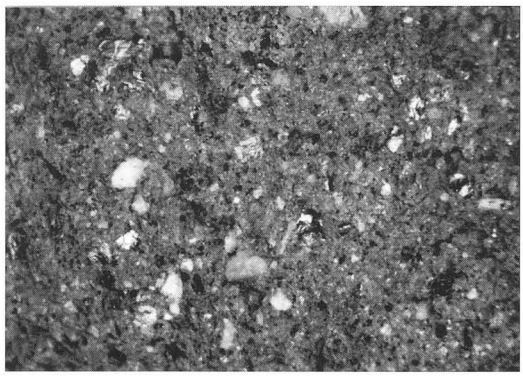


写真７．　粘土１－４　　木太鬼無線試掘１類

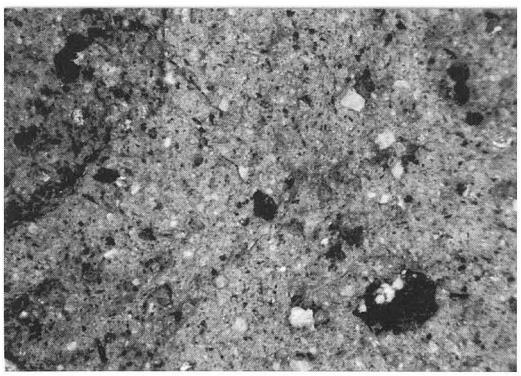


写真８．　粘土１－１　　木太鬼無線試掘２類

実態顕微鏡による砂粒観察写真（８倍）

第5章 まとめ

第1節 遺構の変遷について

宗高坊城遺跡で確認した遺構は，出土した遺物から大きく6期に分けられる。まとめとして調査区内における遺構の変遷を概観してみたい。

【縄文時代晩期～弥生時代前期】　旧河道にあたるⅠ・Ⅱ区で複数の流路及びその溜り部を検出した。流路自体は土層堆積等から水流の停滞した状況がうかがわれ，湿地化した環境が推察される。位置関係から本遺跡の河川は，林・坊城遺跡の上流にあたると考えられるが，当該期の林・坊城遺跡と比べ遺物の出土が極端に少なく，居住域，農耕等の活動域から離れるものと考えられる。

【弥生時代後期～古墳時代前期初頭】　旧河道の北岸にあたるV区で，水路が複数検出された。また北岸～旧河道内となるⅠ区で，多量の土器を含む包含層が確認されている。一定の規模を有するＳＤ201は後期前葉に遡るもので，他の水路と同様に弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭に埋没する。Ⅰ区の包含層に含まれる多量の土器群も同様の所属時期を示すことから，西側微高地上に想定される集落の出現および廃絶期がうかがえる。

旧河道内となるⅡ区南部では，ST01をはじめ遺構が検出され，包含層からも一定量の遺物が出土した。遺構が認められることから，当該時期では河川としての機能が低下していたと推定される。

【古墳時代後期】　直接遺構に伴うものではないが，Ⅶ区の土壌層中から当該期の土器が出土している。今回の調査区内において遺構は認められないが，出土した土器に摩滅等が認められないことを考えた場合，流路等によって遠方から運ばれたものではなく，周辺に当該期の遺構が存在しているものと想定される。

【平安時代】　旧河道の両岸，Ⅲ・Ⅳ区において水路網が確認された。条里方向とはやや異なる遺構が多く認められ，河川による地形の制約を受けたことが原因であると想定される。これらの水路は，Ⅳ区低地帯と合わせ当該期に廃絶・埋没しているが，旧河道内でも当該期に比定される堆積層の上位では，ほぼ水平な堆積層が認められ，以後は旧河道の大半が埋没していたと想定される。

【中世】　調査区全域が生産域として利用されていたものと想定され，住居等の遺構は認められない。遺構はV区SD102（東西条里方向に一致），Ⅳ区SE01（石組み井戸）が認められるのみである。

【近世～近代】　当該期の土地利用に関して中世段階と大きく変わる状況にはないが，Ⅲ・Ⅳ区は検出遺構から宅地として利用されているようである。遺構はⅢ区SB01，SD04，SD05，SX01，Ⅳ区宅地跡，Ⅶ区ＳＤ01，ＳＸ01などが認められる。

第2節 出土弥生土器について　－胎土分析からみた製作地の想定－

宗高坊城遺跡のⅠ・Ⅱ区旧河道内からは多くの弥生時代後期末を中心とする時期の土器が出土した。今回，出土した土器の時期別の出土量を見た場合，出土土器の8割を弥生時代後期末から古墳時代前期初頭のものが占め，後期初頭のものと古墳時代前期の土器が少量出土している。これらの状況は集落遺構が確認されている宗高坊城遺跡の南約５００ｍに所在する空港跡地遺跡でも同様な時期傾向が認められる。地理的にも近接した位置にあること，同一の旧河道の周辺に位置している等，共通点が多いことが認められる。宗高坊城遺跡から出土した弥生土器にほとんど摩滅等が認められないことを考えると，空港跡地遺跡で確認されている弥生時代後期末頃の集落と同時期の集落が北側にも想定される。今回，旧河道から出土した土器は，その出土状況から西側微高地の集落から投棄されたものが旧河道内に堆積したものと想定される。

さて，出土した土器の多くが下川津B類土器と呼ばれる胎土中に角閃石・長石を多量に含み，形態に特徴をもつものである。今回，当遺跡出土の土器は岡山理科大学白石純氏によって自然科学的な分析が行われている（本章第4章第2節に詳細報告）。今回の分析には弥生土器の分析に併せて高松平野内で採集した粘土も分析の対象としている。これらの分析の結果，従来，下川津B類土器の粘土採集地の一つと想定されている浄願寺山南側とは反対である北側において採集したサンプルがB類土器の分析値と合致したことは大きな成果であると考えられる。同時に浄願寺山と石清尾山の東側付根付近で採集された粘土サンプルは下川津B類土器の分析値と合致しないことも判明した。このことは石清尾山塊の中でも，製作場所および粘土採集地が限定（浄願寺山）されていたことを示すものであろうか。

今後，高松平野における地道な胎土分析の積み重ねが必要である。なお，高松平野で行われている弥生時代後期の遺跡調査ではほとんど出土せず，他地域に搬入されている下川津B類土器と考えられる胎土をもつ大形の複合口縁壺や台付小形丸底壺など特殊な土器の製作地を浄願寺山にある粘土採集地付近に求めるのもひとつの考え方かもしれない。

第2表　宗高坊城遺跡出土遺物観察表

※法量の()は，残存値を表す。備考のサンプル番号は，第1表の胎土分析一覧表の番号と一致する。

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	縄文土器 深鉢			(9.4)	外面:煤化，口縁端部:刻目，口縁部:貼付突帯文 内面:ナデ	外面:N2/0黒色 内面:10YR5/2灰黄褐色	3mm以下の長石を含む。	Ⅱ区 SR02出土
2	弥生土器 甕			(6.0)	外面:頸部:指おさえ，体部:沈線4条 内面:磨滅	外面:2.5Y4/2灰黄褐色 内面:2.5Y4/2灰黄褐色	4mm以下の長石，石英を含む。	Ⅰ区 SR01出土

Ⅱ区 ST01

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	弥生土器 高杯	20.8	17.4	15.9	外面:磨滅，口頸部:ヨコナデ 内面:磨滅，口縁部:ヨコナデ，杯部:円盤充填	YR4/6赤褐色　内面:2.5Y6/3にぶい黄色	2mm以下の長石，石英，少量の角閃石を含む。	サンプル番号201
2	弥生土器 大形鉢	32.0		(6.9)	外面:磨滅，口縁部:ヨコナデ 内面:磨滅，口縁部:ヨコナデ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:10YR5/4にぶい黄褐色	2mm以下の長石，雲母，角閃石を含む。	サンプル番号202
3	弥生土器 甕	15.0	5.2	(31.8)	外面:磨滅，口頸部:ヨコナデ，体部:ナデ　内面:磨滅，口頸部:ヨコナデ，体部上半:指おさえ，下半:ケズリ	外面:2.5Y6/4にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	3mm以下の長石を含む。	サンプル番号203
4	弥生土器 広口壺	18.8		(1.5)	外面:鋸歯文 内面:ヨコナデ，煤化	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	1～2mmの長石，石英，金雲母を含む。	
5	弥生土器 広口壺	16.6	9.8	(34.8)	外面:口頸部:ヨコナデ，頸体部:ハケ　内面:口頸部:ヨコナデ，体部:指おさえ，ナデ，下半:ケズリ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	5mm以下の長石，少量の金雲母を含む。	サンプル番号204
6	弥生土器 広口壺	20.8		(23.7)	外面:磨滅，口縁部:ヨコナデ，頸体部:ハケ 内面:磨滅，口縁部:ヨコナデ，頸体部:ナデ，指おさえ	YR5/6明赤褐色　内面:2.5Y6/3にぶい黄色	3mm以下の長石，石英を含む。	サンプル番号205
7	弥生土器 鉢		2.5	(3.3)	外面:磨滅，タタキ 内面:ナデ	外面:10YR8/2灰白色 内面:2.5Y7/1灰白色	やや密，1mm以下の長石，石英を含む。	
8	弥生土器 鉢		3.9	(2.8)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:2.5Y8/1灰白色 内面:10YR8/2灰白色	1～2mmの長石，石英を含む。	

Ⅱ区 SK01

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	弥生土器 甕	15.4		(16.6)	外面:磨滅，口縁部:ヨコナデ，体部:ハケ 内面:磨滅	YR4/6赤褐色　内面:2.5Y5/3黄褐色	3mm以下の長石，石英，金雲母を多く含む。	
2	弥生土器 小形鉢	8.2		(4.2)	外面:黒斑，ナデ 内面:黒斑，ナデ	外面:2.5Y8/2灰白色 内面:2.5Y8/2灰白色	やや密	

Ⅱ区 SK02

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	弥生土器 壺	11.6		(3.6)	外面:ヨコナデ，ハケ 内面:ヨコナデ(ハケ)	外面:10YR7/3にぶい黄橙色 内面:10YR7/3にぶい黄橙色	2mm以下の長石，石英を含む。	

Ⅱ区 ⑧層

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	弥生土器 高杯	19.0		(4.1)	外面:口縁部:ヨコナデ，杯部:ケズリ 内面:磨滅，口縁部:ヨコナデ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色	2mm以下の長石，石英を含む。	
2	弥生土器 高杯	21.1		(4.3)	外面:磨滅 内面:口縁部:ヨコナデ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色	2mm以下の長石，石英，少量の金雲母，角閃石を含む。	
3	弥生土器 高杯	24.0		(3.3)	外面:磨滅 内面:口縁部:ヨコナデ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色	2mm以下の長石，石英，少量の金雲母，角閃石を含む。	
4	弥生土器 長頸壺	8.8		(10.0)	外面:ナデ 内面:ナデ，指おさえ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色	3mm以下の長石，石英，少量の金雲母，角閃石を含む。	
5	弥生土器 長頸壺	9.8		(13.1)	外面:ナデ 内面:ナデ，指おさえ，搾り痕	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色	3mm以下の長石，石英，少量の金雲母，角閃石を含む。	
6	弥生土器 甕	13.8		(3.3)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:2.5Y6/2灰黄色 内面:10YR7/2にぶい黄橙色	2mm以下の長石，少量の角閃石を含む。	
7	弥生土器 甕	13.4		(4.8)	外面:磨滅 内面:磨滅，口縁部:ヨコナデ，体部:指おさえ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色	2mm以下の長石，石英，少量の雲母，角閃石を含む。	
8	弥生土器 甕	12.2		(2.3)	外面:磨滅，接合痕 内面:磨滅	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	2mm以下の長石，石英を含む。	
9	弥生土器 甕	15.0		(3.0)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:2.5Y7/3浅黄色 内面:2.5Y7/3浅黄色	4mm以下の長石，石英を多く含む。	
10	弥生土器 甕底部		4.9	(2.4)	外面:煤化 内面:ケズリ	外面:5YR5/3にぶい赤褐色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色	1～3mmの長石，石英，雲母，角閃石を含む。	
11	弥生土器 甕底部		7.2	(3.8)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:2.5YR5/8明赤褐色 内面:10YR7/3にぶい黄橙色	5mm以下の長石，石英を多く含む。	
12	弥生土器 壺底部		8.0	(3.6)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	3mm以下の長石，石英を含む。	
13	弥生土器 甕底部		3.2	(4.8)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	3mm以下の長石，石英を含む。	
14	製塩土器 底部		2.4	(2.8)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:2.5Y5/3黄褐色 内面:10YR5/3にぶい黄褐色	5mm以下の長石，少量の角閃石を含む。	
15	弥生土器 広口壺	15.8		(7.9)	外面:磨滅，口縁部:ヨコナデ 内面:磨滅，頸部:指おさえ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	3mm以下の長石，石英，少量の角閃石を含む。	
16	弥生土器 広口壺	18.0		(4.0)	外面:口縁部:ヨコナデ 内面:口縁部:ヨコナデ，頸部:指おさえ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	5mm以下の長石，石英，少量の雲母，角閃石を含む。	
17	弥生土器 広口壺	25.0		(7.4)	外面:口縁部:ヨコナデ，頸部:ハケ 内面:煤化，ハケ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色	1～2mmの長石，石英，少量の金雲母，角閃石を含む。	
18	弥生土器 広口壺	25.6		(4.6)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y8/2灰白色	5mm以下の長石，石英を多く含む。	
19	弥生土器 壺頸部			(4.5)	外面:磨滅，頸体部境:刺突文 内面:磨滅	外面:10YR8/1灰白色 内面:10YR8/2灰白色	5mm以下の長石，石英を多く含む。	

20	弥生土器 壺頸部			(9.2)	外面:磨滅 内面:ナデ, 指おさえ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色	4mm以下の長石, 石英, 少量の金雲母, 角閃石を含む。	
21	弥生土器 壺体部	胴径 24.0		(11.7)	外面:ハケ 内面:上半:ナデ, 指おさえ, 下半:ケズリ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色	2mm以下の長石, 石英, 少量の角閃石を含む。	
S1	打製石庖丁	長さ:8.0cm, 幅:5.0cm, 厚さ 1.0cm, 重さ 51.2g						

I区 10層

番号	器種	法量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	弥生土器 広口壺	17.8		(12.7)	外面:口頸部:ヨコナデ, 体部:ナデ(ハケ) 内面:口縁部:ヨコナデ, 頸体部:ナデ, 指おさえ	外面:2.5Y5/3黄褐色 内面:2.5Y5/3黄褐色	2mm以下の長石, 石英, 少量の雲母, 角閃石を含む。	
2	弥生土器 広口壺	16.8		(15.8)	外面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ハケ, 頸体部境:接合痕 内面:口縁部:ヨコナデ, 頸体部:ナデ, 指おさえ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y5/3黄褐色	2mm以下の長石, 金雲母, 少量の角閃石を含む。	
3	弥生土器 広口壺	16.6		(15.8)	外面:口縁部:ヨコナデ, 頸体部:ハケ 内面:口縁部:ヨコナデ, 頸体部:ナデ, 指おさえ, ケズリ	外面:2.5Y5/3黄褐色 内面:2.5Y5/3黄褐色	3mm以下の長石, 雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号3
4	弥生土器 広口壺	16.6		(21.4)	外面:磨滅, 口縁部:ヨコナデ 内面:口縁部:ヨコナデ, 頸体部:指おさえ, ケズリ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:2.5Y5/3黄褐色	3mm以下の長石, 少量の雲母を含む。	サンプル番号9
5	弥生土器 広口壺	16.5		(21.6)	外面:頸部:ハケ, 篦描き沈線4条, 体部:ハケ, ミガキ 内面:口縁部:ヨコナデ, 頸体部:指おさえ, ケズリ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y5/3黄褐色	3mm以下の長石, 石英, 雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号4
6	弥生土器 広口壺			(17.5)	外面:頸部:縦方向の篦描き沈線, 体部:ハケ, ミガキ 内面:頸体部:ナデ, 指おさえ, ケズリ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	1～2mmの長石, 石英, 雲母, 角閃石を含む。	
7	弥生土器 広口壺			(17.0)	外面:頸部:ハケ, 篦描き沈線2条, 体部:ハケ 内面:頸体部:指おさえ, ケズリ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	1～2mmの長石, 石英, 少量の雲母, 角閃石を含む。	
8	弥生土器 広口壺	16.6		(22.5)	外面:口縁部:ヨコナデ, 頸体部:ハケ 内面:口縁部:ヨコナデ, 頸体部:接合痕, 指おさえ, ケズリ	外面:2.5Y5/3黄褐色 内面:2.5Y6/4にぶい黄色	5mm以下の長石, 石英, 金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号1
9	弥生土器 広口壺	16.0		(11.9)	外面:磨滅, 体部:黒斑 内面:磨滅, 頸体部境:指おさえ	外面:10YR7/3にぶい黄橙色 内面:2.5Y7/2灰黄色	3mm以下の長石, 石英を含む。	
10	弥生土器 広口壺	17.2		(15.8)	外面:磨滅, 体部:タタキ? 内面:頸体部境:接合痕	外面:5YR6/6橙色 内面:5YR6/6橙色	6mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号12
11	弥生土器 広口壺	25.0		(4.0)	外面:口縁部:ヨコナデ, 鋸歯文, 頸部:ハケ 内面:口縁部:ヨコナデ	外面:10YR7/3にぶい黄橙色 内面:2.5Y7/3浅黄色	5mm以下の長石, 石英を多く含む。	サンプル番号30
12	弥生土器 広口壺	26.0		(2.6)	外面:口縁部:ヨコナデ 内面:口縁部:ヨコナデ, 赤色顔料?付着, 煤化	外面:10YR5/3にぶい黄橙色 内面:7.5YR4/2灰褐色	2mm以下の長石, 石英, 金雲母, 角閃石を含む。	
13	弥生土器 広口壺	26.0		(2.2)	外面:磨滅, 口縁部:沈線1条, 円形刺突文 内面:磨滅	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色	5mm以下の長石, 石英を多く含む。	
14	弥生土器 広口壺	15.4		(1.4)	外面:口縁部:ヨコナデ, 円形刺突文 内面:口縁部:ヨコナデ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色	2mm以下の長石, 角閃石を少量含む。	
15	弥生土器 広口壺	12.0		(4.2)	外面:口縁部:ヨコナデ, 頸部:ハケ 内面:口縁部:ヨコナデ	外面:10YR5/3にぶい黄褐色 内面:10YR5/3にぶい黄褐色	2mm以下の長石, 石英, 雲母, 角閃石を含む。	
16	弥生土器 広口壺	15.0		(8.0)	外面:口縁部:ヨコナデ, 頸部:ハケ, ヨコナデ 内面:口縁部:ヨコナデ, 頸部:ナデ, 指おさえ	外面:2.5Y5/3黄褐色 内面:2.5Y5/3黄褐色	1mm以下の長石, 金雲母, 角閃石を少量含む。	
17	弥生土器 壺頸部			(6.2)	外面:ナデ, 頸体部境:刻目突帯 内面:ナデ	外面:10YR7/3にぶい黄橙色 内面:10YR7/3にぶい黄橙色	1～2mmの長石, 石英を含む。	
18	弥生土器 壺頸部			(11.0)	外面:ミガキ, 頸体部境:刺突文, 赤色顔料?付着 内面:ナデ	外面:2.5Y7/3浅黄色 内面:10YR7/3にぶい黄橙色	1mm以下の長石, 石英, 角閃石を少量含む。	
19	弥生土器 体部	胴径 24.0		(15.0)	外面:黒斑, ハケ 内面:ナデ	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	3mm以下の長石, 石英を含む。	
20	弥生土器 壺体部			(12.5)	外面:ハケ 内面:指おさえ, ケズリ	外面:2.5Y5/3黄褐色 内面:10YR5/4にぶい黄褐色	2mm以下の長石, 雲母, 角閃石を含む。	
21	弥生土器 壺体部	胴径 30.2		(26.1)	外面:上半:ハケ, 下半:ミガキ, 黒斑 内面:上半:ナデ, 指おさえ, 下半:ケズリ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y2/1黒色	2mm以下の長石, 石英, 雲母, 角閃石を含む。	
22	弥生土器 壺底部		8.6	(11.6)	外面:体部, 底面:ミガキ 内面:ケズリ	外面:N2/0黒色 内面:2.5Y6/2灰黄色	2mm以下の長石, 金雲母, 角閃石を含む。	
23	弥生土器 壺底部		7.7	(8.2)	外面:体部, 底面:ミガキ 内面:ケズリ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y5/2暗灰黄色	2mm以下の長石, 少量の雲母, 角閃石を含む。	
24	弥生土器 広口壺	16.2		(8.9)	外面:口縁部:ヨコナデ, 頚体部:ハケ, ナデ 内面:口縁部:ヨコナデ, 頚体部:ナデ	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	2mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号10
25	弥生土器 広口壺	18.0		(7.2)	外面:口縁部:ヨコナデ, 頚体部:ナデ(ハケ) 内面:口縁部:ヨコナデ, 頚体部:ナデ, 接合痕	外面:10YR8/1灰白色 内面:10YR8/1灰白色	やや密	
26	弥生土器 広口壺	20.0		(9.5)	外面:口縁部:ヨコナデ, 頚体部:ハケ, 体部:タタキ痕? 内面:口縁部:ナデ, 頚体部:ハケ, 体部:ケズリ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	3mm以下の長石, 石英を多く含む。	サンプル番号101
27	弥生土器 広口壺	21.2		(8.5)	外面:ヨコナデ, 頸部:ハケ 内面:口縁部:黒斑, 頸部:ハケ, 接合痕	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	3mm以下の長石, 石英, 少量の角閃石を含む。	サンプル番号2
28	弥生土器 広口壺	16.0		(6.6)	外面:口縁部:ヨコナデ, 頚体部:ハケ 内面:ナデ, 黒斑	外面:2.5Y7/3浅黄色 内面:2.5Y7/3浅黄色	3mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号7
29	弥生土器 広口壺	16.6		(14.2)	外面:口縁部:ヨコナデ, 頚体部:ハケ 内面:口縁部:ヨコナデ, 頸部:ナデ, 接合痕	外面:2.5Y7/3浅黄色 内面:2.5Y7/3浅黄色	やや密, 2mm以下の長石, 石英を少量含む。	サンプル番号5
30	弥生土器 広口壺	18.4		(6.2)	外面:ヨコナデ, 頸部:ハケ 内面:ハケ, 接合痕	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色	3mm以下の長石, 石英, 少量の金雲母を含む。	サンプル番号102
31	弥生土器 広口壺	19.2		(5.8)	外面:口頸部:ヨコナデ, 頸部下半:ミガキ 内面:磨滅, 口縁部:ヨコナデ	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	3mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号16
32	弥生土器 広口壺	21.6		(5.2)	外面:磨滅, ヨコナデ 内面:磨滅	外面:10YR5/3にぶい黄橙色 内面:10YR5/3にぶい黄橙色	1mm以下の長石, 金雲母を少量含む。	サンプル番号14
33	弥生土器 広口壺	16.0		(9.0)	外面:口縁部:ヨコナデ, 頸部:ハケ, 篦描き沈線文2条 内面:口～頸部:ナデ(ハケ), 頸部:接合痕	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	2mm以下の石英を含む。	サンプル番号6
34	弥生土器 広口壺	16.6		(9.5)	外面:口縁部:ヨコナデ, 頸部:ハケ 内面:口縁部:ヨコナデ, 頸部:ナデ	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	やや密, 3mm以下の石英を少量含む。	サンプル番号8
35	弥生土器 広口壺	23.2		(6.2)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	3mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号15
36	弥生土器 広口壺	27.2		(7.9)	外面:口縁部:ヨコナデ, 頸部:ハケ 内面:ヨコナデ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	3mm以下の長石, 金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号13
37	弥生土器 広口壺	20.5		(9.0)	外面:磨滅, ヨコナデ 内面:磨滅	外面:7.5YR7/4にぶい橙色 内面:7.5YR7/4にぶい橙色	やや密, 2mm以下の長石, 石英を少量含む。	

38	弥生土器 広口壺	22.0		(8.7)	外面:ヨコナデ, 頸部:ハケ 内面:口縁部:ヨコナデ, 頸部下半に接合痕(偽口縁)	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	1mm以下の長石, 金雲母を含む。	
39	弥生土器 広口壺	18.6		(9.2)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	外面:2.5Y7/3浅黄色 内面:2.5Y7/3浅黄色	4mm以下の長石, 石英を多く含む。	サンプル番号17
40	弥生土器 広口壺	20.4		(6.6)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	2mm以下の長石, 石英, 少量の角閃石を含む。	サンプル番号18
41	弥生土器 複合口縁壺	20.0		(5.5)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	外面:10YR5/3にぶい黄褐色 内面:10YR5/3にぶい黄褐色	2mm以下の長石, 雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号26
42	弥生土器 複合口縁壺	22.0		(3.8)	外面:ヨコナデ, 頸部:ハケ 内面:ヨコナデ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色	2mm以下の長石, 石英を含む。	
43	弥生土器 複合口縁壺	20.6		(4.4)	外面:ヨコナデ 内面:磨滅	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	2mm以下の長石を含む。	サンプル番号77
44	弥生土器 複合口縁壺	17.8		(5.1)	外面:ヨコナデ 内面:(板)ナデ	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/1灰白色	やや密	サンプル番号28
45	弥生土器 複合口縁壺			(6.4)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	2mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号29
46	弥生土器 複合口縁壺			(5.1)	外面:ヨコナデ 内面:磨滅	外面:10YR7/3にぶい黄橙色 内面:10YR7/3にぶい黄橙色	4mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号27
47	弥生土器 短頸壺	10.6		(5.4)	外面:口頸部:ハケ, ヨコナデ, 体部:ナデ 内面:ナデ	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	やや密, 2mm以下の長石, 石英を少量含む。	サンプル番号21
48	弥生土器 短頸壺	14.6		(8.4)	外面:磨滅 内面:口頸部:ナデ, 接合痕, 体部:指おさえ	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/1灰白色	やや密	サンプル番号22
49	弥生土器 短頸壺	17.2		(10.0)	外面:口頸部:ヨコナデ, 体部:ナデ 内面:口頸部:ヨコナデ, 体部:指おさえ, 接合痕	外面:2.5Y5/3黄褐色 内面:2.5Y5/3黄褐色	1mm以下の長石, 雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号20
50	弥生土器 短頸壺	17.8		(5.8)	外面:口頸部:ヨコナデ, 体部:ハケ 内面:口頸部:ヨコナデ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR5/3にぶい黄褐色	3mm以下の長石, 雲母, 角閃石を含む。	
51	弥生土器 長頸壺	14.8		(6.6)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y7/3浅黄色	1mm以下の長石, 石英を少量含む。	サンプル番号24
52	弥生土器 長頸壺	16.2		(10.2)	外面:口縁部:ヨコナデ, 頸部:ハケ 内面:磨滅	外面:10YR5/3にぶい黄褐色 内面:2.5Y5/3黄褐色	3mm以下の長石, 石英を少量含む。	サンプル番号25
53	弥生土器 長頸壺	13.0		(7.6)	外面:ハケ 内面:ナデ, 指おさえ	外面:10YR7/3にぶい黄橙色 内面:2.5Y7/2灰黄色	2mm以下の長石, 石英, 少量の角閃石を含む。	
54	弥生土器 長頸壺	11.4		(10.4)	外面:ハケ 内面:ナデ, 指おさえ	外面:2.5Y5/3黄褐色 内面:2.5Y5/3黄褐色	3mm以下の長石, 石英を少量含む。	サンプル番号34
55	弥生土器 長頸壺	9.6		(7.5)	外面:ヨコナデ 内面:ナデ, 指おさえ	外面:10YR5/3にぶい黄褐色 内面:2.5Y5/3黄褐色	1mm以下の長石, 石英, 角閃石を少量含む。	サンプル番号33
56	弥生土器 長頸壺			(11.6)	外面:ナデ 内面:ナデ, 指おさえ, 搾り痕	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR5/3にぶい黄褐色	2mm以下の長石, 石英, 金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号35
57	弥生土器 広口壺	13.4		(6.6)	外面:磨滅, 口縁部:ヨコナデ 内面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ナデ, ケズリ	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	2mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号11
58	弥生土器 長頸壺体部	胴径 12.6		(7.7)	外面:上半:ナデ(ハケ), 下半:ハケ, 黒斑 内面:上半:ナデ, 接合痕, 下半:ハケ, 搾り痕	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	やや密, 2mm以下の長石, 石英を少量含む。	サンプル番号32
59	弥生土器 長頸壺体部	胴径 17.0		(8.1)	外面:磨滅, 下半:ミガキ 内面:ケズリ, 指おさえ	外面:10YR5/3にぶい黄褐色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	2mm以下の長石, 石英, 金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号31
60	弥生土器 広口壺	16.0		(14.6)	外面:口頸部:ナデ, ハケ, 体部:タタキ, ハケ 内面:口頸部:ハケ, 体部:ナデ(ハケ), 下半:ケズリ	外面:5Y7/3浅黄色 内面:5Y6/3オリーブ黄色	6mm以下の長石, 石英を含む。	
61	弥生土器 小形丸底壺	11.2		(9.4)	外面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ナデ 内面:ナデ	外面:2.5Y7/1灰白色 内面:2.5Y7/3浅黄色	2mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号50
62	弥生土器 小形丸底壺	8.2		(4.1)	外面:磨滅 内面:ナデ, 指おさえ, 接合痕	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	やや密, 1mm以下の長石, 石英, 少量の角閃石を含む。	
63	弥生土器 小形丸底壺			(6.7)	外面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ナデ, 黒斑 内面:(板)ナデ	外面:2.5Y6/2灰黄色 内面:2.5Y6/2灰黄色	やや密, 2mm以下の長石, 石英, 少量の角閃石を含む。	
64	弥生土器 ミニチュア	7.6		(2.5)	外面:磨滅, 口縁部:ヨコナデ 内面:磨滅	外面:2.5Y6/4にぶい黄橙色 内面:7.5YR5/6明褐色	2mm以下の長石, 石英, 少量の角閃石を含む。	
65	弥生土器 ミニチュア	5.6		(4.4)	外面:口縁部:ヨコナデ 内面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ナデ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/2灰黄色	やや密, 1mm以下の雲母, 角閃石を含む。	
66	弥生土器 高杯	28.0		(2.8)	外面:口縁部:ヨコナデ 内面:口縁部:ヨコナデ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:2.5Y6/2灰黄色	1mm以下の長石, 石英, 角閃石を少量含む。	サンプル番号103
67	弥生土器 高杯	21.4		(4.1)	外面:口縁部:ヨコナデ, 杯部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ, 杯部:ナデ, ハケ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR6/3にぶい黄橙色	3mm以下の長石, 少量の角閃石を含む。	サンプル番号104
68	弥生土器 高杯	20.0		(4.0)	外面:口縁部:ヨコナデ, 杯部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ, 杯部:ナデ	外面:5Y5/2灰オリーブ色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	2mm以下の長石, 金雲母, 角閃石を少量含む。	サンプル番号66
69	弥生土器 高杯	24.2		(5.0)	外面:口縁部:ヨコナデ, 杯部:ケズリ, ミガキ 内面:口縁部:ヨコナデ(ハケ), 杯部:ミガキ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:5Y6/3オリーブ黄色	3mm以下の長石, 雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号67
70	弥生土器 高杯	22.0		(4.6)	外面:口縁部:ヨコナデ, 杯部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ, 杯部:ナデ	外面:10YR5/3にぶい黄褐色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	2mm以下の長石, 金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号68
71	弥生土器 高杯	22.0		(5.0)	外面:口縁部:ヨコナデ, 杯部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ, 杯部:ナデ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	2mm以下の長石, 少量の金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号65
72	弥生土器 高杯	24.2		(5.8)	外面:口縁部:ヨコナデ, 杯部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ, 杯部:ナデ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y5/3黄褐色	2mm以下の長石, 石英, 金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号64
73	弥生土器 高杯			(6.5)	外面:口縁部:ナデ 内面:口縁部:ナデ	外面:2.5Y8/2灰白色 内面:2.5Y8/2灰白色	やや密	サンプル番号105
74	弥生土器 高杯	11.6		(4.4)	外面:口縁部:ナデ, 杯部:磨滅 内面:ナデ(ハケ)	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	3mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号78
75	弥生土器 高杯杯部			(5.2)	外面:口縁部:ヨコナデ, 杯部:ミガキ 内面:口縁部:ヨコナデ, 杯部:ミガキ, 円盤充填	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	1mm以下の長石, 雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号69
76	弥生土器 高杯杯部			(6.9)	外面:杯部:ケズリ, ミガキ, 脚部:ミガキ 内面:杯部:ミガキ, 円盤充填, 脚部:ケズリ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:2.5Y5/3黄褐色	2mm以下の長石, 少量の金雲母, 角閃石を含む。	
77	弥生土器 高杯杯部			(5.5)	外面:杯部:ミガキ, 脚部:ミガキ 内面:杯部:ミガキ, 円盤充填, 脚部:ケズリ	外面:2.5Y5/3黄褐色 内面:2.5Y5/3黄褐色	2mm以下の長石, 石英, 雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号76
78	弥生土器 高杯脚部		18.8	(11.9)	外面:ナデ 内面:ケズリ	外面:10YR6/4にぶい黄橙色 内面:10YR6/4にぶい黄橙色	4mm以下の長石, 石英, 少量の雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号71
79	弥生土器 高杯脚部		18.0	(5.0)	外面:ヨコナデ, 円孔2ヶ所 内面:ケズリ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	1mm以下の長石, 雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号75

80	弥生土器 高杯脚部		16.0	(3.2)	外面:ヨコナデ, 円孔1ヶ所 内面:ケズリ	外面:2.5Y5/3黄褐色 内面:2.5Y5/3黄褐色	やや密, 1mm以下の雲母, 角閃石を含む。	
81	弥生土器 高杯脚部		16.8	(4.4)	外面:ヨコナデ, 円孔2ヶ所 内面:ケズリ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	2mm以下の長石, 石英, 金雲母, 角閃石を含む。	
82	弥生土器 高杯脚部			(7.3)	外面:ナデ, ミガキ 内面:ケズリ, ナデ 上位:円孔1対(2ヶ所), 沈線3条, 中位:円孔2対？(3ヶ所), 沈線4条	外面:5Y7/2灰白色 内面:2.5Y7/2灰黄色	やや密, 2mm以下の長石, 石英を少量含む。	サンプル番号70
83	弥生土器 高杯脚部			(7.5)	外面:ハケ, ヨコナデ 内面:ナデ	外面:10YR7/3にぶい黄橙色 内面:2.5Y5/2暗灰黄色	3mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号73
84	弥生土器 高杯脚部			(8.3)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	やや密	サンプル番号72
85	弥生土器 高杯脚部			(5.0)	外面:接合痕, ナデ 内面:接合痕, ナデ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	2mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号74
86	弥生土器 高杯脚部		12.0	(5.6)	外面:磨滅, 接合痕, ハケ 内面:ナデ	外面:2.5Y7/3浅黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	2mm以下の長石を少量含む。	サンプル番号79
87	弥生土器 大形鉢	39.0		(12.4)	外面:口縁部:ヨコナデ, 黒斑, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ミガキ	外面:5Y5/2灰オリーブ色 内面:2.5Y5/3黄褐色	2mm以下の長石, 石英, 金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号62
88	弥生土器 大形鉢	40.0		(12.5)	外面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	2mm以下の長石, 石英, 少量の雲母, 角閃石を含む。	
89	弥生土器 大形鉢	40.6		(13.7)	外面:口縁部:ヨコナデ, 黒斑, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ, 体部:磨滅	外面:5Y6/2灰オリーブ色 内面:2.5Y5/2暗灰黄色	3mm以下の長石, 少量の金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号60
90	弥生土器 大形鉢	41.0		(13.6)	外面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ, 体部:磨滅	外面:2.5Y5/2暗灰黄色 内面:2.5Y5/2暗灰黄色	2mm以下の長石, 雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号59
91	弥生土器 大形鉢	42.0		(13.6)	外面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ, 体部:磨滅	外面:10YR6/4にぶい黄橙色 内面:10YR6/4にぶい黄橙色	4mm以下の長石, 石英, 少量の雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号58
92	弥生土器 大形鉢	40.4		(11.6)	外面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ハケ, ミガキ	外面:5Y6/2灰オリーブ色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	4mm以下の長石, 石英, 金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号63
93	弥生土器 大形鉢	39.0		(10.2)	外面:口縁部:ヨコナデ, 黒斑, 体部:ケズリ, 煤化 内面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ナデ, ミガキ	外面:2.5Y5/2暗灰黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	3mm以下の長石, 角閃石を含む。	サンプル番号61
94	弥生土器 大形鉢	48.0		(14.5)	外面:口縁部:ヨコナデ, 黒斑, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ハケ, ミガキ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y5/3黄褐色	3mm以下の長石, 石英, 少量の雲母, 角閃石を含む。	
95	弥生土器 大形鉢片口部			(7.6)	外面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y7/3浅黄色	4mm以下の長石, 石英, 雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号56
96	弥生土器 大形鉢片口部			(9.0)	外面:口縁部:ヨコナデ, 黒斑, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ, 黒斑, 体部:ハケ, ミガキ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:5Y5/2灰オリーブ色	4mm以下の長石, 少量の金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号54
97	弥生土器 大形鉢片口部			(9.7)	外面:口縁部:ヨコナデ, 黒斑, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ, 黒斑, 体部:磨滅	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR5/3にぶい黄褐色	4mm以下の長石, 石英, 少量の金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号57
98	弥生土器 大形鉢片口部			(10.1)	外面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ケズリ 内面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ナデ, ミガキ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	4mm以下の長石, 雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号53
99	弥生土器 大形鉢	50.3		(14.0)	外面:ハケ 内面:体部:ハケ	外面:2.5Y7/3浅黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	6mm以下の長石, 石英を多く含む。	サンプル番号48
100	弥生土器 鉢	32.0		(9.0)	外面:ナデ 内面:口縁部:ナデ, 体部:ハケ, ミガキ, 黒斑	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	4mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号49
101	弥生土器 鉢	17.6		6.5	外面:口縁部:ヨコナデ, 下半:ケズリ, 黒斑 内面:ハケ	外面:2.5Y6/2灰黄色 内面:5Y6/3オリーブ黄色	5mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号84
102	弥生土器 鉢	15.2		7.2	外面:ナデ, 底部:黒斑 内面:ハケ	外面:2.5Y8/2灰白色 内面:2.5Y8/2灰白色	やや密	サンプル番号51
103	弥生土器 鉢	15.3		7.8	外面:タタキ後ナデ 内面:ハケ, 下半:ミガキ	外面:2.5Y8/2灰白色 内面:2.5Y8/2灰白色	やや密	サンプル番号52
104	弥生土器 鉢	16.0		8.6	外面:磨滅 内面:磨滅, ナデ	外面:7.5YR6/6橙色 内面:7.5YR6/6橙色	8mm以下の長石, 石英を含む。	
105	弥生土器 鉢			(5.6)	外面:タタキ 内面:磨滅, ハケ	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:10YR8/3浅黄橙色	やや密	
106	弥生土器 甑底部			(7.5)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:2.5Y6/2灰黄色 内面:2.5Y6/2灰黄色	4mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号80
107	弥生土器 甑底部			(10.0)	外面:黒斑, タタキ, ナデ 内面:ハケ, ナデ	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	やや密, 2mm以下の長石, 石英を少量含む。	サンプル番号81
108	弥生土器 甑底部			(3.7)	外面:黒斑, タタキ, ナデ 内面:ナデ	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	やや密, 1mm以下の長石, 石英を少量含む。	サンプル番号83
109	弥生土器 甑底部			(5.7)	外面:黒斑, タタキ 内面:黒斑, ハケ	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	やや密	サンプル番号82
110	弥生土器 甑底部			(12.7)	外面:黒斑, ナデ 内面:ハケ, ナデ	外面:2.5Y8/2灰白色 内面:2.5Y8/2灰白色	やや密	
111	弥生土器 甕	16.4		(4.2)	外面:煤化, 口頸部:ヨコナデ, 体部:ハケ 内面:口頸部:ヨコナデ, 体部:指おさえ	外面:2.5Y6/2灰黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	3mm以下の長石, 石英, 少量の金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号38
112	弥生土器 甕	14.4		(8.8)	外面:口頸部:ヨコナデ, 体部:ハケ 内面:口頸部:ヨコナデ, 体部:ナデ, 指おさえ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y5/3黄褐色	1mm以下の長石, 少量の雲母, 角閃石を含む。	
113	弥生土器 甕	14.4		(7.7)	外面:口頸部:ヨコナデ, 体部:ハケ, 煤化 内面:口頸部:ヨコナデ, 体部:指おさえ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	3mm以下の長石, 石英, 雲母, 角閃石を含む。	
114	弥生土器 甕	16.6		(7.9)	外面:口頸部:ヨコナデ, 体部:ハケ, 煤化 内面:口頸部:ヨコナデ, 体部:指おさえ	外面:2.5Y5/2暗灰黄色 内面:2.5YR6/2灰黄色	2mm以下の長石, 石英, 金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号36
115	弥生土器 甕	16.8		(7.2)	外面:口頸部:ヨコナデ, 体部:ハケ 内面:口頸部:ヨコナデ, 体部:指おさえ	外面:10YR5/3にぶい黄褐色 内面:2.5Y6/3にぶい黄色	2mm以下の長石, 金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号37
116	弥生土器 甕	18.8		(5.3)	外面:体部:タタキ後ハケ 内面:体部:ハケ	外面:2.5Y6/3にぶい黄色 内面:2.5Y6/4にぶい黄色	3mm以下の長石, 石英を含む。	サンプル番号43
117	弥生土器 甕	18.4		(5.3)	外面:ナデ, ハケ 内面:口頸部:ナデ, 体部:ハケ	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	やや密, 1mm以下の長石, 少量の角閃石を含む。	サンプル番号19
118	弥生土器 甕	18.6		(3.2)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:2.5Y7/2黄灰色 内面:2.5Y7/2黄灰色	2mm以下の長石, 石英を含む。	
119	弥生土器 甕	23.4		(6.8)	外面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ナデ 内面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ナデ, 指おさえ	外面:10YR5/3にぶい黄褐色 内面:2.5Y5/3黄褐色	3mm以下の長石, 石英, 金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号47
120	弥生土器 甕	12.8		(4.2)	外面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ナデ 内面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ナデ	外面:2.5Y6/2灰黄色 内面:2.5Y6/2灰黄色	やや密, 1mm以下の長石, 角閃石を含む。	
121	弥生土器 甕	12.6		(8.0)	外面:口縁部:ヨコナデ, 体部:磨滅 内面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ナデ	外面:10YR6/3にぶい黄橙色 内面:10YR2/1黒色	1mm以下の金雲母, 角閃石を含む。	サンプル番号41

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	弥生土器 鉢	22.0		(7.7)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	2mm以下の長石，石英を含む。	
2	弥生土器 甕	16.0		(2.3)	外面:頸体部:タタキ，ハケ 内面:磨滅	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	2mm以下の長石，石英を含む。	
3	弥生土器 広口壺	14.8		(1.4)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	外面:10YR5/4にぶい黄褐色 内面:10YR5/3にぶい黄褐色	3mm以下の長石，雲母を含む。	
4	弥生土器 壺体部	胴径 22.0		(11.1)	外面:磨滅 内面:ナデ，指おさえ，ケズリ	外面:10YR5/4にぶい黄褐色 内面:10YR5/4にぶい黄褐色	1mm以下の長石，雲母，角閃石を含む。	
5	弥生土器 壺底部		6.0	(3.4)	外面:磨滅，ミガキ？ 内面:磨滅	外面:10YR5/3にぶい黄褐色 内面:内面:2.5Y4/2暗灰黄色	1mm以下の長石，雲母，角閃石を含む。	

V区 SD01

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	黒色土器 椀底部		6.2	(2.0)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:10YR7/2にぶい黄橙色 内面:10YR2/1黒色	1～2mmの長石，石英を含む。	
2	土師器 杯底部		7.2	(1.7)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	やや密	

VI区 包含層

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	須恵器 杯底部		7.4	(1.6)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:N7/0灰色 内面:N7/0灰色	密	

V区 SD02

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	土師質土器 脚部			(8.0)	外面:指ナデ	外面:10YR7/3にぶい黄橙色	1～2mmの長石，石英を含む。	

III区 SD01

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	土師器 杯底部		7.4	(1.6)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	やや密	

III区 SD03

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	土師器 杯底部		7.8	(1.2)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:2.5Y7/3浅黄色 内面:2.5Y5/3黄褐色	やや密	

IV区 ⑤層

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	弥生土器 甕	13.0		(7.7)	外面:磨滅，黒斑 内面:磨滅	外面:10Y2/1黒色 内面:10YR8/2灰白色	やや密，2mm以下の長石，石英を少量含む。	
2	弥生土器 甕	14.0		(2.7)	外面:磨滅 内面:磨滅，口縁部:ヨコナデ	外面:10YR6/4にぶい黄褐色 内面:10YR6/4にぶい黄褐色	2mm以下の長石，雲母，角閃石を含む。	
3	弥生土器 高杯	19.6		(4.6)	外面:磨滅，ヨコナデ 内面:ヨコナデ	外面:10YR6/4にぶい黄褐色 内面:10YR6/4にぶい黄褐色	2mm以下の長石，雲母，角閃石を含む。	
4	管状土錘	6.2		(4.1)	外面:黒斑，ナデ	外面:2.5Y7/3浅黄色	1cm大の小石，4mm以下の長石，石英を多く含む。	

IV区 ④層

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	土師器 羽釜	22.0		(2.9)	外面:ヨコナデ 内面:ナデ，接合痕	外面:10Y2/1黒色 内面:10YR8/2灰白色	2mm以下の長石，石英を含む。	
2	須恵器 壺口縁部			(9.0)	外面:凹線3条，櫛描波状文 内面:回転ナデ	外面:N4/0灰色 内面:2.5Y6/1黄灰色	密，2mm以下の長石，石英を少量含む。	
3	須恵器 壺口縁部			(3.3)	外面:回転ナデ 内面:自然釉付着，回転ナデ	外面:N6/0灰色 内面N6/0灰色:	密	
4	須恵器 杯底部		7.8	(2.2)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	外面:N6/0灰色 内面:N7/0灰色	密	
5	黒色土器 椀底部		7.0	(2.0)	外面:磨滅 内面:ナデ	外面:10YR5/3にぶい黄褐色 内面:N1.7/1黒色	やや密	

IV区 SE01

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	土師質土器 脚部			(9.5)	外面:指ナデ	外面:10YR7/3にぶい黄橙色	1～2mmの長石，石英を含む。	

VII区 SD01

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	須恵器 杯		7.0	1.5	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:N7/0灰白色 内面:N7/0灰白色	精良密	
2	須恵器 杯		7.0	(1.4)	外面:ナデ 内面:ヨコナデ	外面:N7/0灰白色 内面:	1～2mm石英，長石を含む。	
3	須恵器 皿		12.6	(1.0)	外面:ナデ 内面:体部:ナデ，底部:ナデ	外面:N6/0灰色 内面:	1mm以下の石英，長石を含む。	

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	弥生土器 鉢	22.0		(7.7)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:10YR8/2灰白色 内面:10YR8/2灰白色	2mm以下の長石，石英を含む。	
2	弥生土器 甕	16.0		(2.3)	外面:頸体部:タタキ，ハケ 内面:磨滅	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	2mm以下の長石，石英を含む。	
3	弥生土器 広口壺	14.8		(1.4)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	外面:10YR5/4にぶい黄褐色 内面:10YR5/3にぶい黄褐色	3mm以下の長石，雲母を含む。	
4	弥生土器 壺体部	胴径 22.0		(11.1)	外面:磨滅 内面:ナデ，指おさえ，ケズリ	外面:10YR5/4にぶい黄褐色 内面:10YR5/4にぶい黄褐色	1mm以下の長石，雲母，角閃石を含む。	
5	弥生土器 壺底部		6.0	(3.4)	外面:磨滅，ミガキ？ 内面:磨滅	外面:10YR5/3にぶい黄褐色 内面:内面:2.5Y4/2暗灰黄色	1mm以下の長石，雲母，角閃石を含む。	

V区 SD01

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	黒色土器 椀底部		6.2	(2.0)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:10YR7/2にぶい黄橙色 内面:10YR2/1黒色	1～2mmの長石，石英を含む。	
2	土師器 杯底部		7.2	(1.7)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	やや密	

VI区 包含層

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	須恵器 杯底部		7.4	(1.6)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:N7/0灰色 内面:N7/0灰色	密	

V区 SD02

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	土師質土器 脚部			(8.0)	外面:指ナデ	外面:10YR7/3にぶい黄橙色	1～2mmの長石，石英を含む。	

III区 SD01

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	土師器 杯底部		7.4	(1.6)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:2.5Y7/2灰黄色 内面:2.5Y7/2灰黄色	やや密	

III区 SD03

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	土師器 杯底部		7.8	(1.2)	外面:磨滅 内面:磨滅	外面:2.5Y7/3浅黄色 内面:2.5Y5/3黄褐色	やや密	

IV区 ⑤層

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	弥生土器 甕	13.0		(7.7)	外面:磨滅，黒斑 内面:磨滅	外面:10Y2/1黒色 内面:10YR8/2灰白色	やや密，2mm以下の長石，石英を少量含む。	
2	弥生土器 甕	14.0		(2.7)	外面:磨滅 内面:磨滅，口縁部:ヨコナデ	外面:10YR6/4にぶい黄褐色 内面:10YR6/4にぶい黄褐色	2mm以下の長石，雲母，角閃石を含む。	
3	弥生土器 高杯	19.6		(4.6)	外面:磨滅，ヨコナデ 内面:ヨコナデ	外面:10YR6/4にぶい黄褐色 内面:10YR6/4にぶい黄褐色	2mm以下の長石，雲母，角閃石を含む。	
4	管状土錘	6.2		(4.1)	外面:黒斑，ナデ	外面:2.5Y7/3浅黄色	1cm大の小石，4mm以下の長石，石英を多く含む。	

IV区 ④層

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	土師器 羽釜	22.0		(2.9)	外面:ヨコナデ 内面:ナデ，接合痕	外面:10Y2/1黒色 内面:10YR8/2灰白色	2mm以下の長石，石英を含む。	
2	須恵器 壺口縁部			(9.0)	外面:凹線3条，櫛描波状文 内面:回転ナデ	外面:N4/0灰色 内面:2.5Y6/1黄灰色	密，2mm以下の長石，石英を少量含む。	
3	須恵器 壺口縁部			(3.3)	外面:回転ナデ 内面:自然釉付着，回転ナデ	外面:N6/0灰色 内面N6/0灰色:	密	
4	須恵器 杯底部		7.8	(2.2)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	外面:N6/0灰色 内面:N7/0灰色	密	
5	黒色土器 椀底部		7.0	(2.0)	外面:磨滅 内面:ナデ	外面:10YR5/3にぶい黄褐色 内面:N1.7/1黒色	やや密	

IV区 SE01

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	土師質土器 脚部			(9.5)	外面:指ナデ	外面:10YR7/3にぶい黄橙色	1～2mmの長石，石英を含む。	

VII区 SD01

番号	器種	法量（cm）			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	須恵器 杯		7.0	1.5	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:N7/0灰白色 内面:N7/0灰白色	精良密	
2	須恵器 杯		7.0	(1.4)	外面:ナデ 内面:ヨコナデ	外面:N7/0灰白色 内面:	1～2mm石英，長石を含む。	
3	須恵器 皿		12.6	(1.0)	外面:ナデ 内面:体部:ナデ，底部:ナデ	外面:N6/0灰色 内面:	1mm以下の石英，長石を含む。	

4	須恵器 壺		10.2	(5.8)	外面:体部:ナデ, 底部:ケズリ 内面:体部ナデ, 底部:ナデ	外面N6/0灰色 内面:N6/0灰色	密	
5	染付 香炉	6.8		(2.0)	外面: 内面:	釉薬:10Y8/1灰白色 呉須:緑色	密	口縁部外面 四方襷文
6	染付 小皿	7.0		(1.5)	外面: 内面:	釉薬:10Y8/1灰色 上絵:赤色	精良密	
7	染付 碗	8.2	1.6	4.1	外面: 内面:	釉薬:N8/0灰白色 呉須:紺色	精良	菊に梅 圏線6条 四方襷文
8	染付 碗	10.0		(5.0)	外面: 内面:	胎土:N8/0灰白色 釉薬:10GY8/1明緑灰色 呉須:10GY8/1明緑灰色	密	2重網目文
9	染付 碗	11.4		(4.6)	外面: 内面:	釉薬:7.5GY8/1明緑灰色 呉須:紺色	精良密	圏線
10	陶器 蓋			(2.0)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	外面:7.5YR3/2黒褐色 内面:2.5YR5/6明赤褐色	密	底部糸切り
11	肥前系陶器 碗		5.4	(1.2)	外面: 内面:	素地:2.5Y8/2灰白色 釉色:7.5YR4/2灰褐色 断面:5YR7/3にぶい橙色	密	
12	明石焼 擂鉢		12.0	(2.2)	外面:ケズリ 内面:	外面:10YR4/1褐灰色 内面:7.5R5/3にぶい赤褐色	2mm以下の石英, 長石を含む。	内面使用による 摩滅
13	肥前 刷毛目鉢	24.6		(3.7)	外面: 内面:	胎土:10R5/4赤褐色 釉薬:2.5YR2/2極赤褐色, 2.5YR2/2極赤褐色	密	刷毛目
14	瓦質土器 土釜	7.6		(1.9)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:N4/0灰色 内面:N5/0灰色	密	
15	瓦質土器 土釜	11.4		(2.1)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:7.5YR4/2灰褐色 内面:7.5YR4/2灰褐色	密	
16	瓦質土器 鍋		15.0	(2.6)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:N3/ 暗灰 内面:10YR4/1 褐灰	1mm以下の石英, 雲母を含む	
17	瓦質土器 火鉢				外面:ナデ 内面:ナデ, ハケメ	外面:N4/0灰色 内面:N4/0灰色	密	
18	瓦質土器 火鉢	35.2		(6.8)	外面:ナデ 内面:ナデ, 指頭圧	外面:N3/0暗灰色 内面:N3/0暗灰色	密	草文
19	瓦質土器 火鉢		18.0	(3.0)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:5Y2/1黒色 内面:5Y2/1黒色	0.5mm以下の石英, 長石, 雲母, 角閃石を含む。	
20	瓦質土器 焙烙	36.2		(2.7)	外面:口縁部:ヨコナデ, 体部:指頭圧痕 内面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ヨコナデ	外面:2.5Y5/1黄灰色 内面:	密	
21	瓦質土器 焙烙	38.2		(2.5)	外面:口縁部:ヨコナデ, 体部:指頭圧痕 内面:口縁部:ヨコナデ, 体部:ヨコナデ	外面:N3/0暗灰色 内面:	密	
22	土師器 火鉢				外面:ナデ 内面:ナデ	外面:7.5YR8/4浅黄橙色 内面:	1mm以下の石英, 長石, 雲母, 角閃石を含む。	

Ⅶ区 SK01

番号	器種	法量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	土師器 鍋	28.8		(1.6)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:7.5YR5/2灰褐色 内面:7.5YR5/2灰褐色	1mm以下の石英, 長石, 雲母を含む。	
2	須恵器 高坏				外面:ナデ 内面:ナデ	外面:7.5YR3/3暗褐色 内面:5PB5/1青灰色	1mm以下の石英, 長石, 雲母を含む。	

Ⅶ区 SX01

番号	器種	法量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	染付 壺	10.3		(1.2)	外面: 内面:	胎土:N7/灰白色 釉薬:2.5GY6/1オリーブ灰色	密	
2	青磁 碗	12.8		(2.7)	外面: 内面:	胎土:N7/灰白色 釉薬:7.5GY6/1緑灰色	密	
3	染付 皿	18.0		(3.0)	外面:ナデ 内面:ナデ	釉薬:7.5Y8/1灰白色 呉須:青灰色 胎土:2.5Y8/1灰白色	精良	
4	備前焼 小徳利	9.3		(3.3)	外面:ヘラケズリ, ナデ 内面:ナデ	外面:10R4/4赤褐色 内面:2.5YR5/1赤灰色	1mm以下の石英, 長石を含む	

土壌層

番号	器種	法量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	瓦質土器 すり鉢			(5.8)	外面: 内面:	外面:7.5Y8/1灰白色 内面:7.5Y8/1灰白色	1mm以下の石英, 長石を含む。	
2	須恵器 長頸壺		14.0	(6.6)	外面:指頭圧痕, ヨコナデ 内面:指頭圧痕, ヨコナデ	外面:N5/0灰色 内面:N5/0灰色	1mm以下の石英, 長石を少々含む。	
3	須恵器 杯蓋	12.6		(1.9)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:N7/0灰白色 内面:N7/0灰白色	精良	
4	土師器 鍋	27.8		(2.4)	外面:指頭圧痕, 粗いハケ 内面:ヨコ方向のハケ, 指頭圧痕	外面:10YR5/4にぶい黄褐色 内面:2.5Y8/3淡黄色	1.5mm以下の石英, 長石, 角閃石を含む。	口縁部:凹線状の線
5	須恵器 杯身				外面: 内面:口縁部:ヨコナデ	外面:N7/0灰白色 内面:N6/0灰色	密	
6	須恵器 杯蓋	12.8		(2.1)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:N7/0灰白色 内面:N7/0灰白色	密	
7	須恵器 杯蓋	13.2		(5.0)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	外面:N5/0灰色 内面:N4/0灰色	1～2mmの石英, 長石を含む。	
8	須恵器 杯蓋	14.2		(3.2)	外面:口縁部:ナデ, 底部:ヘラケズリ 内面:ナデ	外面:N6/0灰色 内面:N7/0灰白色	密	
9	須恵器 杯身		4.2	(1.7)	外面: 内面:	外面:N7/0灰白色 内面:N6/0灰色	密	
10	須恵器 杯身		7.0	(3.0)	外面:ナデ 内面:ケズリのちナデ	外面:N7/0灰白色 内面:N6/0灰色	密	

11	須恵器 杯	12.4		4.0	外面:ヨコナデ, ヘラケズリ 内面:ヨコナデ	外面:N6/0灰色 内面:N6/0灰色	密	
12	染付 碗	14.2		(2.4)	外面: 内面:	釉薬:透明釉 呉須:紺色 胎土:7.5Y8/1灰白色	密	
13	須恵器 高坏	12.2		(3.1)	外面:口縁部:ヨコナデ 内面:口縁部:ヨコナデ	外面:N6/0灰色 内面:N7/0灰白色	精良密	
14	須恵器 杯蓋	15.0		(2.8)	外面:ナデ 内面:ナデ	外面:N6/0灰色 内面:N5/0灰色	密	
15	須恵器 杯	15.4		(2.7)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	外面:N5/0灰色 内面:10YR7/1灰白色	1～2mm以下の石英, 長石を含む。	
16	須恵器 皿		3.8	(1.4)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	外面:N7/0灰白色 内面:N7/0灰白色	精良	
17	弥生土器 壺底部		11.8	(3.4)	外面:底部:指頭圧痕 内面:底部:摩滅のため不明	外面:7.5Y2/1黒色 内面:5Y6/1灰色	3mm以下の石英, 長石, 角閃石を含む。	
18	泥面子	長さ:2.9, 幅:3.05, 厚さ:0.7				外面:5YR6/6橙色 内面:7.5YR8/4浅黄橙色	2mm以下の石英, 長石を含む。	

Ⅶ区 側溝掘削

番号	器種	法量 (cm)			形態・手法の特徴	色調	胎土	備考
		口径	底径	器高				
1	スクレイパー	長さ:7.3cm, 幅:2.5cm, 厚さ 1.0cm, 重さ 26.1g						

写　真　図　版

図版1　遺跡航空写真

Ⅰ・Ⅱ区全景（北から）

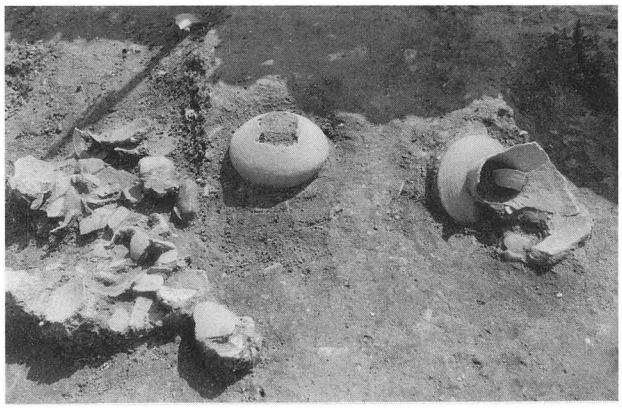
Ⅳ・Ⅴ・Ⅶ区全景（南から）

Ⅲ区全景（北から）

Ⅴ区第2遺構面,Ⅵ区全景（北から）

Ⅰ区　西壁土層堆積状況

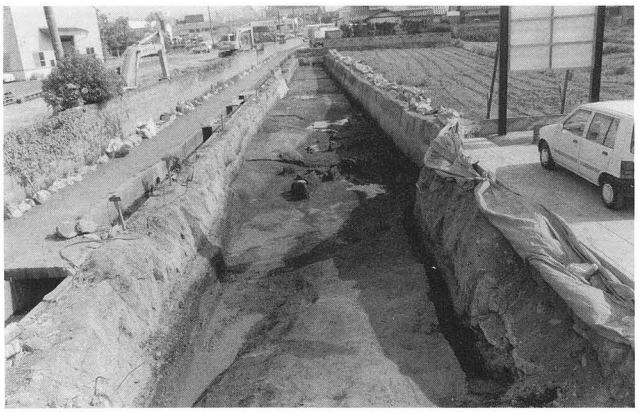
Ⅱ区　東壁土層堆積状況



Ⅰ区 10層土器出土状況 1

Ⅰ区 10層土器出土状況 2

Ⅰ区 10層木質遺物出土状況

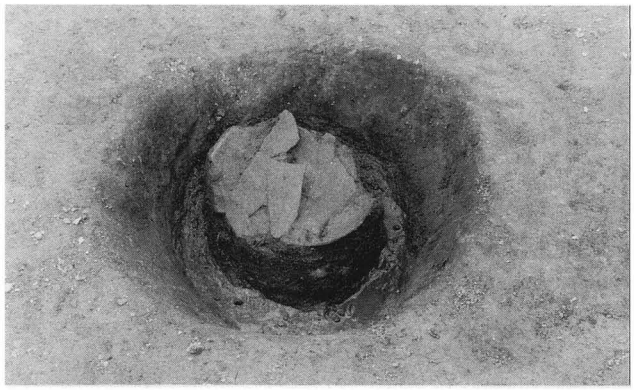


Ⅰ区 SR01（北から）

Ⅱ区 SR02（東から）

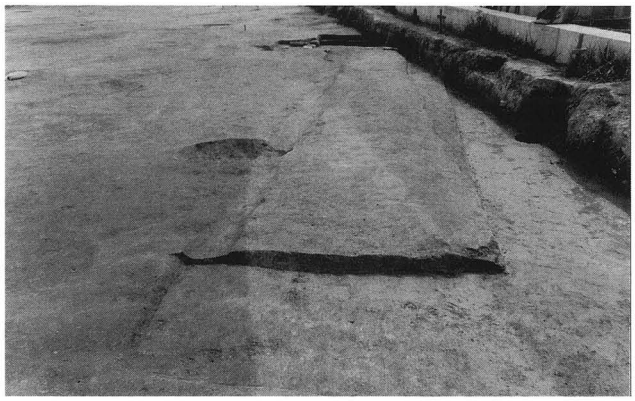
Ⅱ区 ST01遺物出土状況

図版3　遺構写真（Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区）



Ⅱ区 SK01遺物出土状況

Ⅱ区 SK02

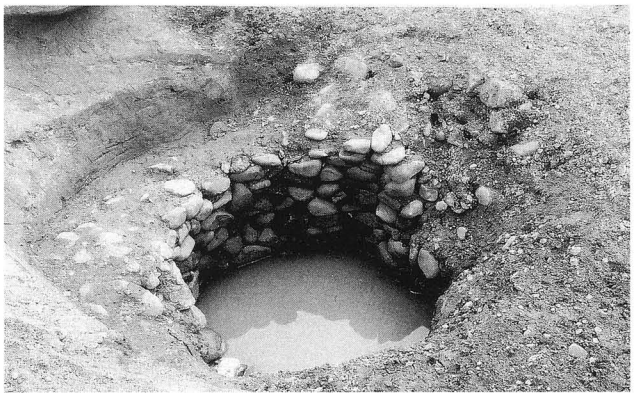


Ⅲ区 SK04・05（北から）

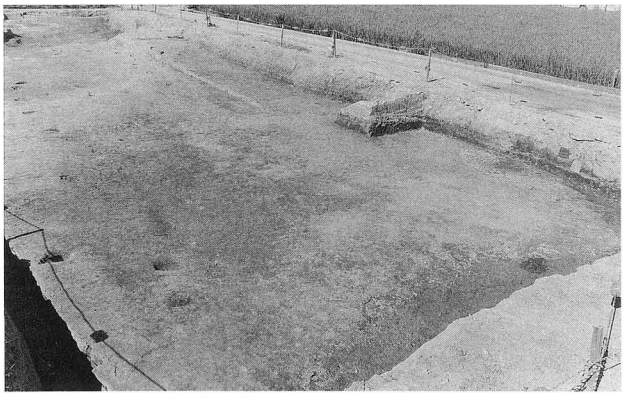
Ⅲ区 SX01（西から）

Ⅲ区 SB01（東から）

Ⅳ区 全景（南から）

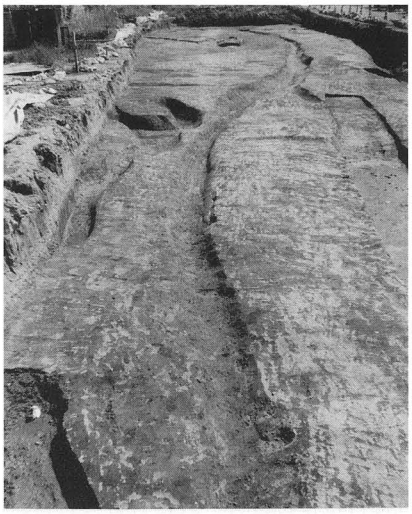


Ⅳ区 SE01

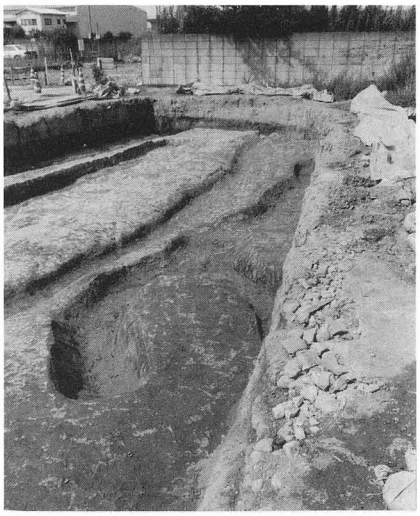


Ⅳ区 低地完掘状況（南から）

Ⅴ区 SD201（北から）

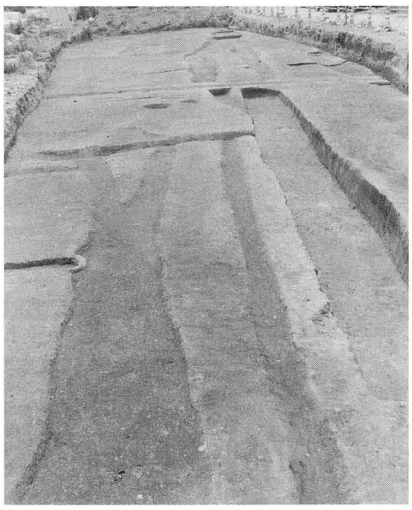


Ⅴ区 SD202（北から）

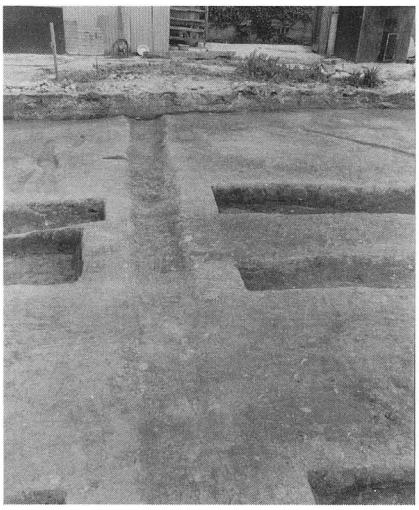


Ⅴ区 SD203（南から）

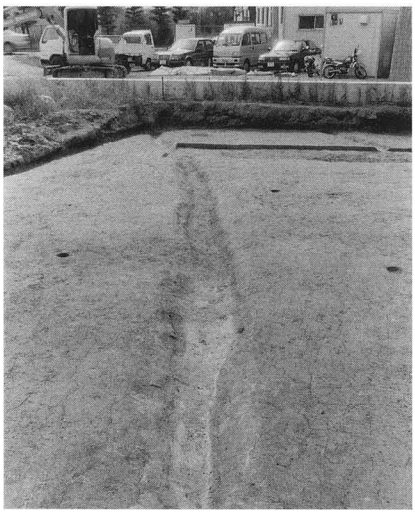
Ⅴ区 SD101（北から）



Ⅴ区 SD103・104（北から）

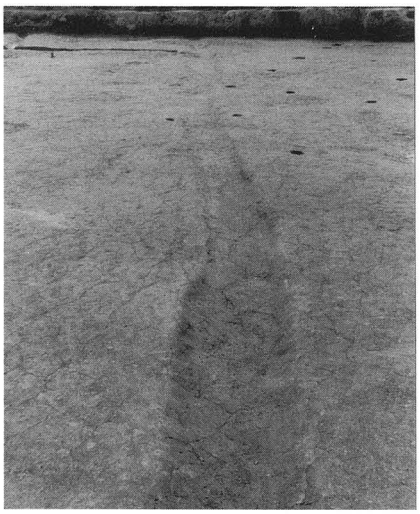


Ⅴ区 SD102（西から）



Ⅲ区 SD01（東から）

Ⅲ区 SD02（東から）

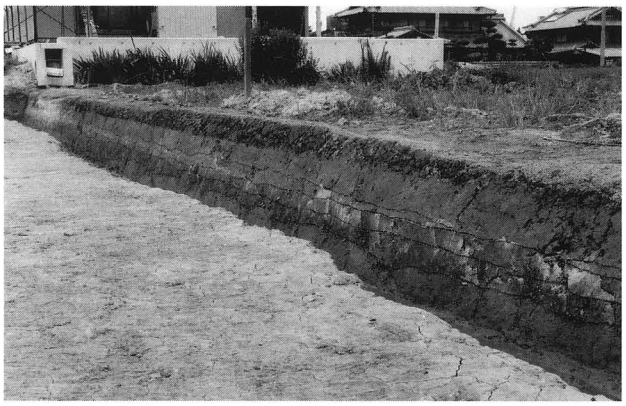


Ⅲ区 SD03（東から）

図版5　遺構写真（Ⅶ区）

Ⅶ区 全景（南から）

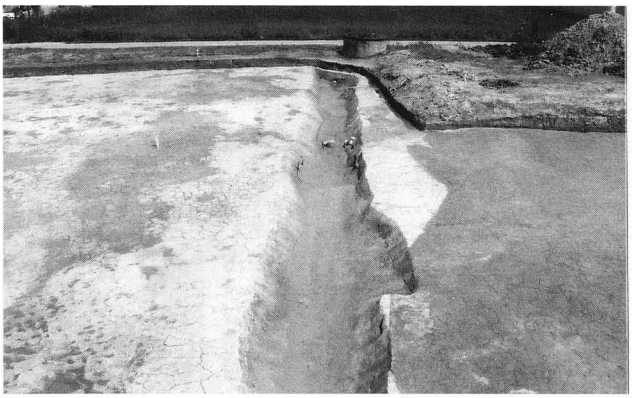
Ⅶ区 全景（北から）



Ⅶ区 東壁土層堆積状況

Ⅶ区 SX01・SK01完掘状況（東から）

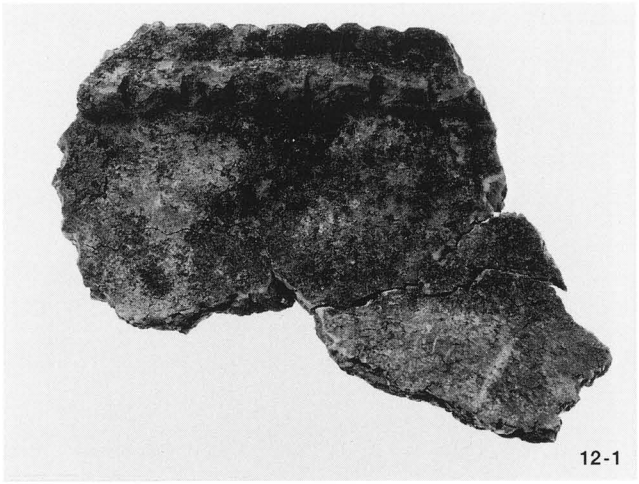
Ⅶ区 SX01土層堆積状況（東から）



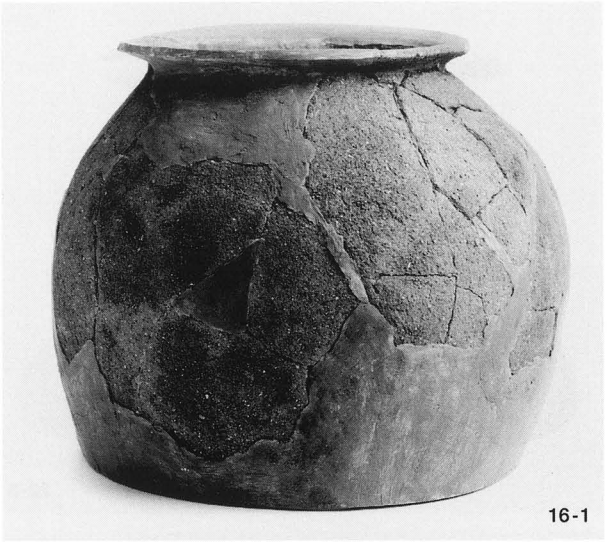
Ⅶ区 SD01完掘状況（西から）

Ⅶ区 SD01土層堆積状況

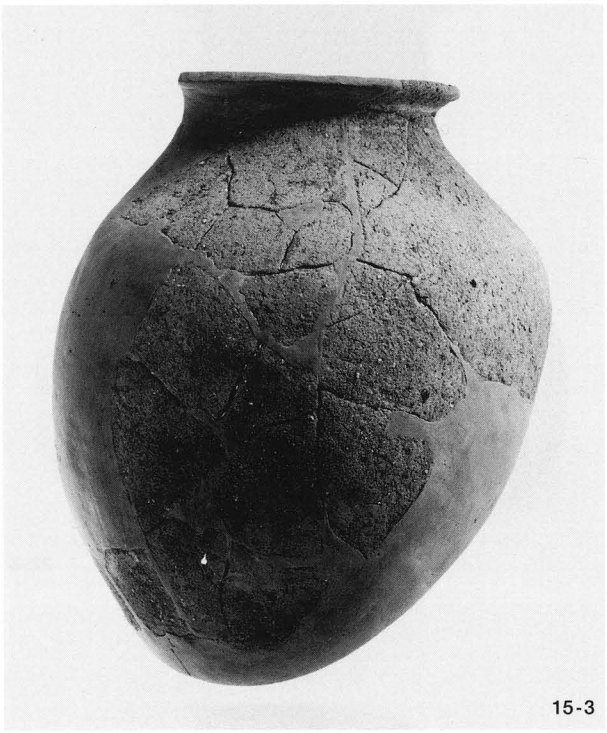
Ⅶ区 北半鋤溝群完掘状況（東から）

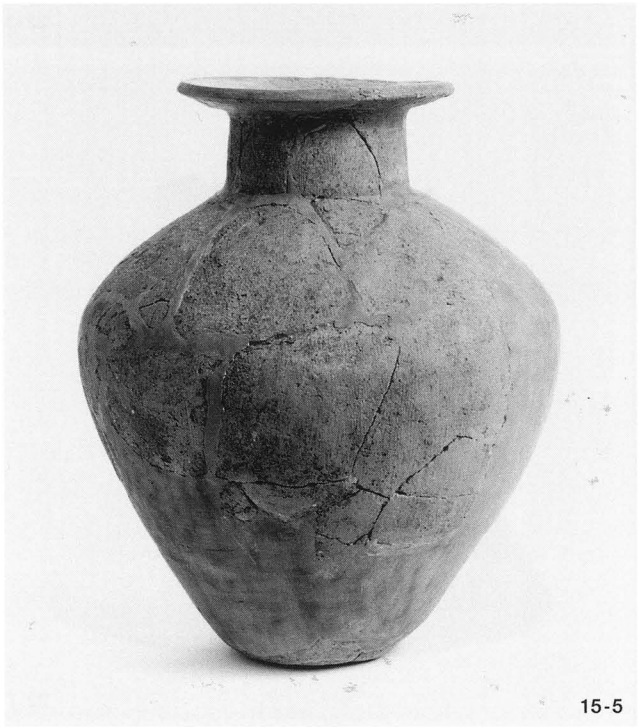


1　SR01・02出土土器



2　Ⅱ区 SK01出土土器

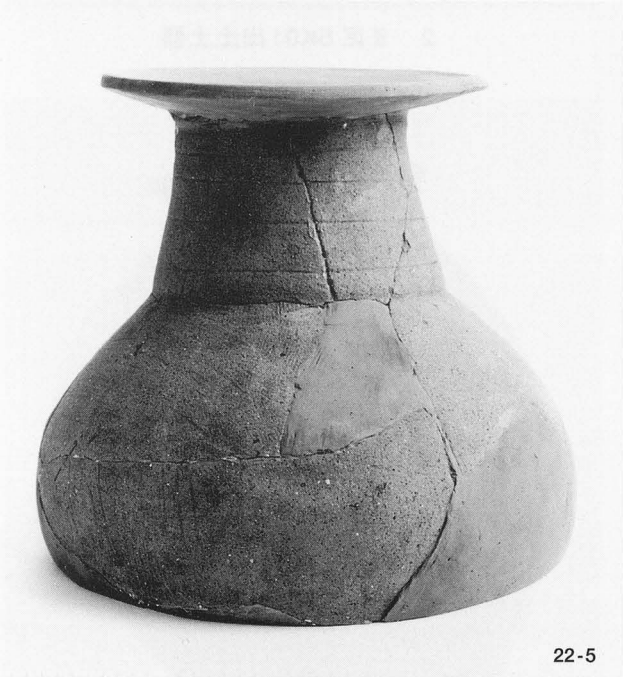




3　Ⅱ区 ST01出土土器

22-8

22-4


22-5

22-3

22-6

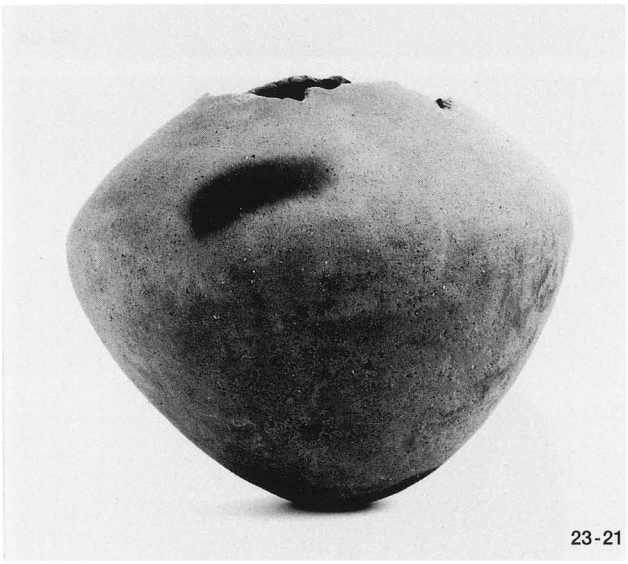
22-7

Ⅰ区１０層 出土土器１

24-29

23-16

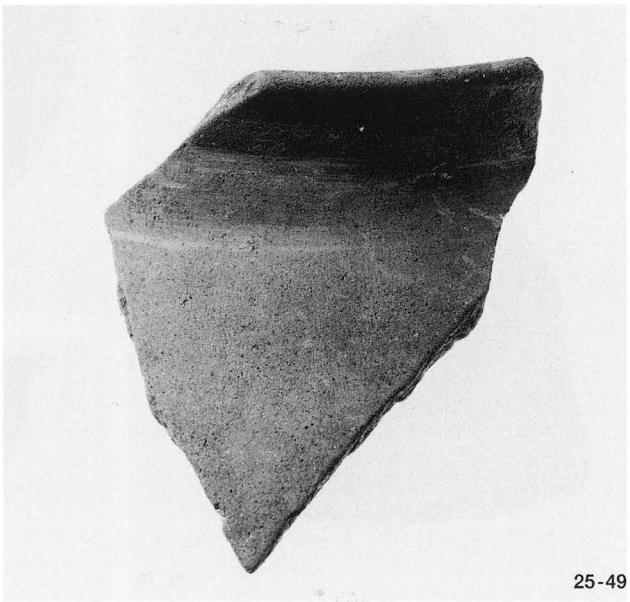
25-54


23-21

24-37

24-36

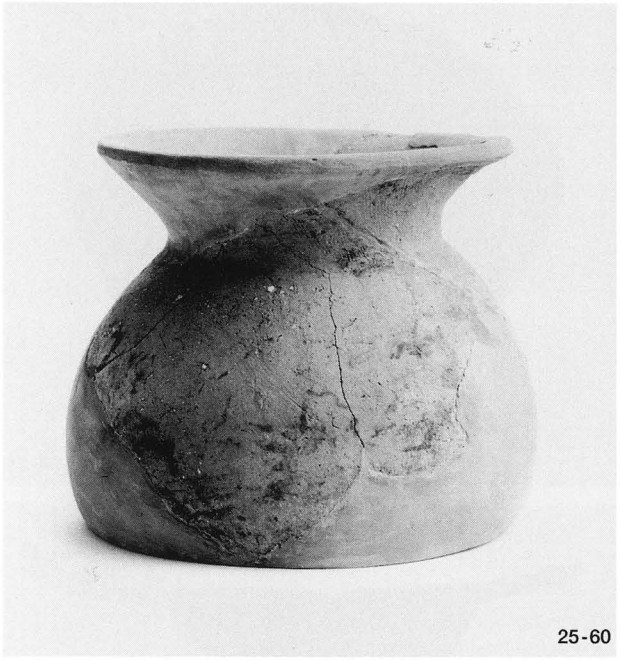
24-25


25-49

I区10層 出土土器 2

24-24

23-10


25-60

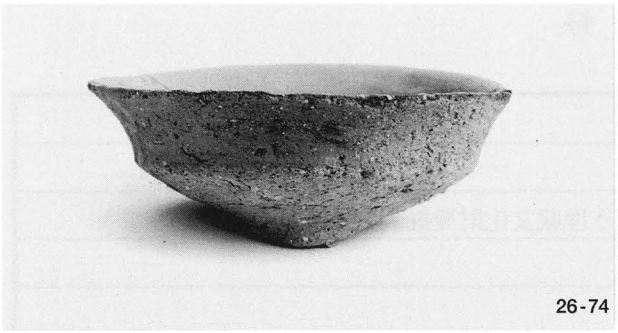
29-121

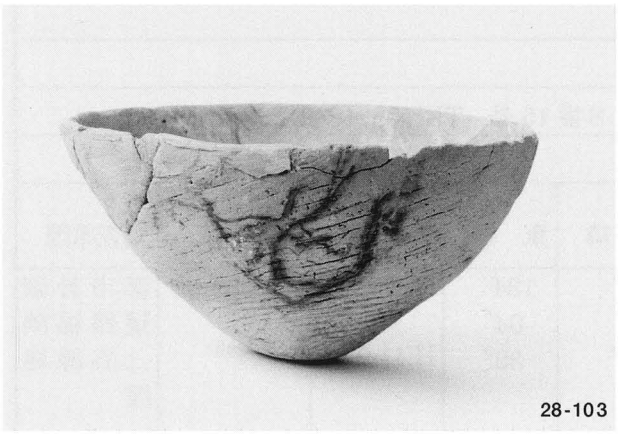
26-78

27-94

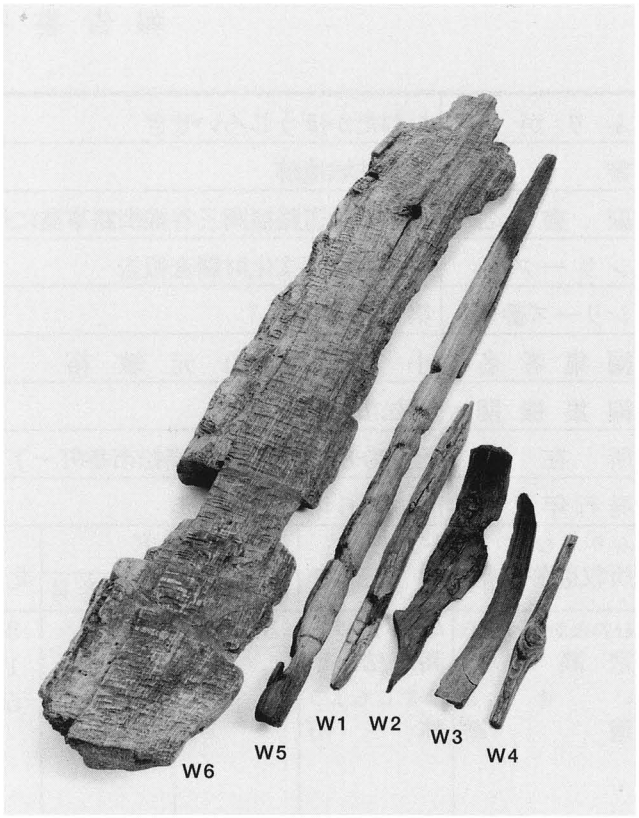
28-100

Ⅰ区 10層 出土土器 3





1　Ⅰ区10層 出土土器 4



2　Ⅰ区１０層 出土木製品

3　Ⅶ区土壌層出土土器

報告書抄録

ふりがな	むねたかぼうじろいせき
書名	宗高坊城遺跡
副書名	都市計画道路福岡三谷線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　第二冊
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第６８集
編集者名	小川　賢，山元敏裕
編集機関	高松市教育委員会
所在地	〒760-8571　香川県高松市番町一丁目８番15号　TEL 087(839)2636
発行年月日	平成１６年３月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
むねたかぼうじろ 宗高坊城 いせき 遺跡	たかまつし 高松市 はやしちょう 林町	37201		34° 17′ 50″	134° 04′ 33″	H.11.3.23 ～ H.11.9.17	4,058 ㎡	都市計画道路福岡三谷線建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宗高坊城遺跡	集落	弥生時代後期	旧河道，土器棺墓，土坑	弥生土器，木製品	
		平安時代	溝跡	土師器，黒色土器	
		江戸時代	条里関連の溝跡，出水状遺構	陶磁器	

都市計画道路福岡三谷線街路事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
第二冊

宗高坊城遺跡

編集・発行　高松市教育委員会
高松市番町一丁目８番15号
発行日　平成１６年３月３１日
印刷　有限会社 中央ファイリング